

SYLLABUS 2017

講義要綱

平成 29 年度

経営学部

経営学科

2017 年度入学生用

< 1 年生用 >

東京富士大学



講 義 要 綱

SYLLABUS

平成29年度

経営学部

経営学科

< 1 年生用 >

東京富士大学

－ シラバスの利用について －

このシラバスは、平成29年度の春学期・秋学期に経営学部経営学科（1年生）で開講する全授業についてその概要を示してあります。学生の皆さんが1年間の学修計画を立てるための手助けとなるはずです。

シラバスには、授業内容とその達成目標、授業で使用するテキストや参考書、さらに成績評価法、履修条件、授業計画などを記してあります。

履修の際には必ず、「学生要覧」と「授業時間割表」とあわせて参照するようにしてください。また、授業期間中は、「授業計画」のどの部分を学習しているのかを常に確認して、復習および予習の参考にしてください。

※シラバス (syllabus) は、ギリシャ語の *sittuba* すなわち「羊皮紙製の書籍のラベル」または「標題紙」という意味の言葉が語源です。

目 次

履修対象：経営学部経営学科＜1年生＞

《総合教育科目》					
科目名	配当年次	単位	期間	担当者	掲載頁
基礎演習Ⅰ	1～4	2	半期		1
基礎演習Ⅰ（留学生対象）	1～4	2	半期		3
基礎演習Ⅱ	1～4	2	半期		5
基礎演習Ⅱ（留学生対象）	1～4	2	半期		7
社会学	1～4	2	半期	新嶋 良恵	9
法学Ⅰ（憲法含む）	1～4	2	半期	長岐 郁也	11
法学Ⅱ	1～4	2	半期	長岐 郁也	13
心理学Ⅰ	1～4	2	半期	浮谷 秀一 佐藤 恵美 松田美登子	15 17 19
心理学Ⅱ	1～4	2	半期	浮谷 秀一 佐藤 恵美 松田美登子	21 23 25
哲学	1～4	2	半期	隅田 浩司	27
文学	1～4	2	半期	網本 尚子	29～38
文章表現法	1～4	2	半期	網本 尚子	39～46
生命科学	1～4	2	半期	古田 玲子	47
国際関係論	1～4	2	半期	八川 敏昭	49
統計学	1～4	2	半期	松本 勇樹	51
就職特講	3～4	2	半期	未開講	—
コンピュータ・サイエンス	1～4	2	半期	萩野 弘道	53
コンピュータ概論	1～4	2	半期	萩野 弘道	55
情報学	2～4	2	半期	未開講	—
情報処理Ⅰ	2～4	2	半期	未開講	—
情報処理Ⅱ	2～4	2	半期	未開講	—
多文化理解Ⅰ	1～4	2	半期	難波 俊樹	57
多文化理解Ⅱ	1～4	2	半期	難波 俊樹	59
多文化理解Ⅲ	1～4	2	半期	清水 俊樹 藤本 学	61
多文化理解Ⅳ	1～4	2	半期	難波 俊樹	63
多文化理解Ⅴ	1～4	2	半期	難波 俊樹	65
多文化理解Ⅵ	1～4	2	半期	休講	—
健康と運動Ⅰ	1～4	1	半期	井上 航人 田島外志美 西村 卓二	67 69 71

履修対象：経営学部経営学科<1年生>

《総合教育科目》					
科目名	配当年次	単位	期間	担当者	掲載頁
健康と運動Ⅱ	1～4	1	半期	井上 航人	73
				田島外志美	75
				西村 卓二	77
健康と運動Ⅲ	2～4	1	半期	未開講	—
健康と運動Ⅳ	2～4	1	半期	未開講	—
日本語Ⅲ（留学生科目）	2～4	2	半期	未開講	—
日本語Ⅳ（留学生科目）	2～4	2	半期	未開講	—
日本の社会としくみ（留学生科目）	1～4	2	半期	糸川 優	79
				奥山 貴之	81
インターンシップⅠ	1～4	1	認定	高橋 哲也	83
インターンシップⅡ	1～4	1	認定	高橋 哲也	85
インターンシップⅢ	2～4	1	認定	未開講	—
インターンシップⅣ	2～4	1	認定	未開講	—
自己開発Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ	1～4	各1	認定		87

履修対象：経営学部経営学科<1年生>

《外国語科目》					
科目名	配当年次	単位	期間	担当者	掲載頁
英会話Ⅰ	1～4	1	半期	阿部 牧子	89
				木村 直樹	91
				J. Johnson	93
				渡邊きみ代	95
英会話Ⅱ	1～4	1	半期	阿部 牧子	97
				木村 直樹	99
				J. Johnson	101
				渡邊きみ代	103
基礎英語Ⅰ	2～4	2	半期	未開講	—
基礎英語Ⅱ	2～4	2	半期	未開講	—
日本語Ⅰ（留学生科目）	1～4	2	半期	糸川 優	105
				奥山 貴之	107
				塩谷由美子	109
英語Ⅰ（初級読解／作文①）	1～4	1	半期	阿部 牧子	111
英語Ⅱ（初級読解／作文②）	1～4	1	半期	阿部 牧子	113
英語Ⅲ（中級読解／作文①）	2～4	1	半期	未開講	—
英語Ⅳ（中級読解／作文②）	2～4	1	半期	未開講	—
TOEICⅠ	1～4	2	半期	宍戸カール	115
TOEICⅡ	1～4	2	半期	宍戸カール	117
フランス語Ⅰ	1～4	1	半期	野口 恵子	119
				三富 祐子	121
フランス語Ⅱ	1～4	1	半期	野口 恵子	123
				三富 祐子	125
中国語Ⅰ	1～4	1	半期	井上 良雄	127
中国語Ⅱ	1～4	1	半期	井上 良雄	129
ビジネス英語Ⅰ	2～4	2	半期	未開講	—
ビジネス英語Ⅱ	2～4	2	半期	未開講	—
日本語Ⅱ（留学生科目）	1～4	2	半期	糸川 優	131
				奥山 貴之	133
				塩谷由美子	135

履修対象：経営学部経営学科＜1年生＞

《専門科目》					
科目名	配当年次	単位	期間	担当者	掲載頁
経営学	1～4	4	通年	藤森 大祐	139
				名取 修一	141
				山口 善昭	143
-----	-----	-----	-----	-----	-----
経営学（留学生対象）	1～4	4	通年	小川 達也	145
経済学Ⅰ	1～4	2	半期	清水 良樹	147
				松田 岳	149
経済学Ⅱ	1～4	2	半期	清水 良樹	151
				松田 岳	153
マーケティングⅠ	1～4	2	半期	花尾由香里	155
				日野 隆生	157
				広瀬 盛一	159
マーケティングⅡ	1～4	2	半期	花尾由香里	161
				日野 隆生	163
				広瀬 盛一	165
経営心理学Ⅰ	1～4	2	半期	佐藤 恵美	167
経営心理学Ⅱ	1～4	2	半期	佐藤 恵美	169
会計学Ⅰ	1～4	2	半期	石塚 一彌	171
				土井 充	173
会計学Ⅱ	1～4	2	半期	石塚 一彌	175
				土井 充	177
入門簿記Ⅰ	1～4	2	半期	北井不二男	179
				土井 充	181
				福山 倫基	183
				村上 翔一	185
				李 焱	187
入門簿記Ⅱ	1～4	2	半期	北井不二男	189
				土井 充	191
				福山 倫基	193
				村上 翔一	195
				李 焱	197
企業論	2～4	2	半期	未開講	—
経営戦略論Ⅰ	2～4	2	半期	未開講	—
経営戦略論Ⅱ	2～4	2	半期	未開講	—
経営組織論Ⅰ	2～4	2	半期	未開講	—
経営組織論Ⅱ	2～4	2	半期	未開講	—
経営情報学	2～4	2	半期	未開講	—
環境経営学	2～4	2	半期	未開講	—

履修対象：経営学部経営学科＜1年生＞

《専門科目》					
科目名	配当年次	単位	期間	担当者	掲載頁
経営倫理	2～4	2	半期	未開講	—
ミクロ経済学	2～4	2	半期	未開講	—
金融論	2～4	2	半期	未開講	—
ファイナンス論	2～4	2	半期	未開講	—
会社法Ⅰ	2～4	2	半期	未開講	—
会社法Ⅱ	2～4	2	半期	未開講	—
民法Ⅰ	2～4	2	半期	未開講	—
民法Ⅱ	2～4	2	半期	未開講	—
経済法	2～4	2	半期	未開講	—
消費者法	2～4	2	半期	未開講	—
広告論Ⅰ	2～4	2	半期	未開講	—
広告論Ⅱ	2～4	2	半期	未開講	—
社会心理学Ⅰ	2～4	2	半期	未開講	—
社会心理学Ⅱ	2～4	2	半期	未開講	—
認知心理学	2～4	2	半期	未開講	—
リスク・マネジメント論	2～4	2	半期	未開講	—
財務会計論Ⅰ	2～4	2	半期	未開講	—
財務会計論Ⅱ	2～4	2	半期	未開講	—
管理会計論Ⅰ	2～4	2	半期	未開講	—
管理会計論Ⅱ	2～4	2	半期	未開講	—
専門演習Ⅰ	3～4	4	通年	未開講	—
専門演習Ⅱ	4	4	通年	未開講	—
プロフェッショナル・セミナーⅠ	2～4	2	半期	未開講	—
プロフェッショナル・セミナーⅡ	2～4	2	半期	未開講	—
プロフェッショナル・セミナーⅢ	2～4	2	半期	未開講	—
プロフェッショナル・セミナーⅣ	2～4	2	半期	未開講	—
プロフェッショナル・セミナーⅤ	3～4	2	半期	未開講	—
プロフェッショナル・セミナーⅥ	3～4	2	半期	未開講	—
プロフェッショナル・セミナーⅦ	3～4	2	半期	未開講	—
プロフェッショナル・セミナーⅧ	3～4	2	半期	未開講	—
中小企業論Ⅰ	2～4	2	半期	未開講	—
中小企業論Ⅱ	2～4	2	半期	未開講	—
ベンチャービジネス論	2～4	2	半期	未開講	—
新事業創造論	2～4	2	半期	未開講	—
経営史	2～4	2	半期	未開講	—
人的資源管理論Ⅰ	2～4	2	半期	未開講	—
人的資源管理論Ⅱ	2～4	2	半期	未開講	—

履修対象：経営学部経営学科＜1年生＞

《専門科目》					
科目名	配当年次	単位	期間	担当者	掲載頁
キャリア発達心理学	2～4	2	半期	未開講	—
メンタルヘルス・マネジメント	2～4	2	半期	未開講	—
経営心理学研究法	2～4	2	半期	未開講	—
知的財産法	2～4	2	半期	未開講	—
労働法	2～4	2	半期	未開講	—
流通論Ⅰ	2～4	2	半期	未開講	—
流通論Ⅱ	2～4	2	半期	未開講	—
商品論	2～4	2	半期	未開講	—
消費者行動論Ⅰ	2～4	2	半期	未開講	—
消費者行動論Ⅱ	2～4	2	半期	未開講	—
商業簿記Ⅰ	2～4	2	半期	未開講	—
商業簿記Ⅱ	2～4	2	半期	未開講	—
工業簿記Ⅰ	2～4	2	半期	未開講	—
工業簿記Ⅱ	2～4	2	半期	未開講	—
原価計算	2～4	2	半期	未開講	—
経営分析論	2～4	2	半期	未開講	—
財務諸表論	2～4	2	半期	未開講	—
租税概論Ⅰ	2～4	2	半期	未開講	—
租税概論Ⅱ	2～4	2	半期	未開講	—
税務会計論Ⅰ	2～4	2	半期	未開講	—
税務会計論Ⅱ	2～4	2	半期	未開講	—
法人税	2～4	2	半期	未開講	—
所得税	2～4	2	半期	未開講	—
論文指導（卒業論文）	4	2	通年	未開講	—
簿記技能Ⅰ（日商3級対策講座）	1～4	2	集中	福山 倫基	199
簿記技能Ⅱ（日商2級対策講座）	1～4	2	集中	福山 倫基	201

科目末尾の表記（Ⅰ・Ⅱ）について

Ⅰ：基本的にⅡの科目と連携しており、Ⅱの科目の基礎になります。

Ⅰ・Ⅱの科目を履修することが望ましい。

Ⅱ：基本的にⅠの科目と連携しており、Ⅰの科目の履修を前提とする（Ⅰの上級レベル）。

Ⅰの科目を履修した学生、もしくは同程度の知識を持つ学生が履修することが望ましい。

配当年次について

履修することのできる学年を表します。

1：1年生が履修できる科目です。

2：2年生が履修できる科目です。

3：3年生が履修できる科目です。

4：4年生が履修できる科目です。

1～4：1年生・2年生・3年生・4年生が履修できる科目です。

2～4：2年生・3年生・4年生が履修できる科目です。

3～4：3年生・4年生が履修できる科目です。

(注)「日本語Ⅰ」、「日本語Ⅱ」、「日本語Ⅲ」、「日本語Ⅳ」、「日本の社会としくみ」は、留学生科目です。

総合教育科目

平成29年度

経営学部経営学科

< 1年生用 >

東京富士大学

基礎演習 I	
Foundational Seminar I	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業は、高校とは異なる大学での学び方、たとえば、授業をどのように受ければいいのか、そして授業の内容を理解するためにはどのようにすればいいのか、そしてレポートや自分の研究成果を発表するプレゼンテーションの方法等について学びます。

とくに、大学では、いろいろな知識を組み合わせ、自分で情報を整理し、それを分析することが求められます。そこで必要となるのが「考える力（思考力）」です。今後、生きていく上で最も大切なこの考える力を身につけること、これがこの授業の目標です。そして、大学の授業では、一人で勉強するだけでなく、同級生や先輩などと一緒に勉強するグループ学習も重要です。しかし、最初は、あまりよく知らない人と一緒に勉強することが苦手だな、と思う人も多いと思います。そこで、演習では、グループで一緒に作業するやりかたについても学習します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
心を整える3つの実務IQをどの程度、理解し実践できたか？	「心を整える3つの実務IQ」とは、「突破力」（物事に前向きに取り組む力）、「自制力」（自分をコントロールする力）そして「忍耐力」（失敗してもあきらめず、努力する力）です。 授業では、演習や課題に前向きに取り組む姿勢や、自分をコントロールして難しい課題に対しても簡単にあきらめない姿勢、そして課題でうまくいかないことがあっても、それを学びとして前進する姿勢を評価します。	30%
個性を伸ばす2つの実務IQをどの程度、理解し実践できたか？	個性を伸ばす2つの実務IQとは「思考力」と『創造性』です。この2つは課題やレポート、そして授業の発言の中で、適切に考え、安易な結論に飛びついていないかどうか、いろいろな情報を整理し、それを組み合わせて新しい発想を生み出しているかどうかを評価します。	30%
仲間や組織で活かす2つの実務IQをどの程度、理解し実践できたか？	仲間や組織で活かす2つの実務IQとは、「協働力」と「主張力」です。この2つは、グループ学習での学習姿勢を通じて、グループ学習に前向きに取り組む、周囲に良い影響を与えているか、自分の意見が他の人の意見と違っていてもきちんと自己主張できているかどうかを評価します。	30%
社会常識を身につけることができたか？	授業を受けるに際しての最低限のマナー、社会常識を身につけているか、あるいは授業を通じて、そのような社会常識やマナーを身につけることができたかどうかを評価します。	10%
評価の方法 課題、レポート、授業への参加姿勢を総合的に評価します。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	大学での学びとは？	入学式後のフレッシュマン・オリエンテーションへ参加
2	学び方、考える力を身につける	・成果の出る学び方（学習方法）について学びます
3		・適切な思考法として、論理の基礎を学びます
4		・意見を述べる際の議論の組み立て方について学びます
5		・意見を整理する方法について学びます
6	レポートを書く	・レポート作成の基本である文章執筆について学びます
7		・レポート作成の基本技術、アウトライン作成を学びます
8		・参考文献リストと文献の活用方法について学びます
9		・計画的な執筆について学びます
10		・効率的なレポートの書き方について学びます
11	プレゼンテーションをする	・プレゼンテーションとは何か、について学びます
12		・自分の意見を伝える技術について学びます
13		・プレゼン資料の作成方法について学びます
14		・プレゼンテーションを体験する
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：初回の授業で指示する。

◇参考図書：狩野光伸著『論理的な考え方 伝え方：根拠に基づく正しい議論のために』慶應義塾大学出版会、2015年（1,944円）

【履修条件等】

◇1年生全員履修します（選択必修科目です）。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇毎回、予習課題が提示されますので確実に予習課題をこなしてください。

【その他の注意事項】

1) 入学式直後に行われるフレッシュマン・オリエンテーションから講義がスタートします。

担当者	網 本 尚 子	伊 波 和 恵	井 上 航 人
	大 山 利 栄	木 村 直 樹	志 塚 昌 紀
	高 橋 哲 也	田 島 外志美	長 岐 郁 也

基礎演習 I (留学生対象)	
Foundational Seminar I	選択科目 / 半期 / 2単位

【授業概要】

この授業では、日本の大学での学び方、たとえば、授業をどのように受ければいいのか、授業の内容を理解するためにはどのようにすればいいのかを理解した上で、日本語のレポートの書き方や口頭発表の方法を身につけます。

とくに、大学では、いろいろな知識を組み合わせ、自分で情報を整理し、それを分析することが求められます。そこで必要となるのが「考える力（思考力）」です。今後、生きていく上で最も大切なこの考える力を身につけることがこの授業の目標です。そのほか、グループで学習する方法も学習します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
心を整える3つの実務IQをどの程度、理解し実践できたか？	「心を整える3つの実務IQ」とは、「突破力」（物事に前向きに取り組む力）、「自制力」（自分をコントロールする力）そして「忍耐力」（失敗してもあきらめず、努力する力）です。 授業では、演習や課題に前向きに取り組む姿勢や、自分をコントロールして難しい課題に対しても簡単にあきらめない姿勢、そして課題でうまくいかないことがあっても、それを学びとして前進する姿勢を評価します。	30%
個性を伸ばす2つの実務IQをどの程度、理解し実践できたか？	個性を伸ばす2つの実務IQとは「思考力」と『創造性』です。この2つは課題やレポート、そして授業の発言の中で、適切に考え、安易な結論に飛びついていないかどうか、いろいろな情報を整理し、それを組み合わせて新しい発想を生み出しているかどうかを評価します。	30%
仲間や組織で活かす2つの実務IQをどの程度、理解し実践できたか？	仲間や組織で活かす2つの実務IQとは、「協働力」と「主張力」です。この2つは、グループ学習での学習姿勢を通じて、グループ学習に前向きに取り組む、周囲に良い影響を与えているか、自分の意見が他の人の意見と違っていてもきちんと自己主張できているかどうかを評価します。	30%
社会常識を身につけることができたか？	授業を受けるに際しての最低限のマナー、社会常識を身につけているか、あるいは授業を通じて、そのような社会常識やマナーを身につけることができたかどうかを評価します。	10%
評価の方法 課題、レポート、授業への参加姿勢を総合的に評価します。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	大学での学びとは？	入学式後のフレッシュマン・オリエンテーションへ参加
2	学び方、考える力を身につける	・成果の出る学び方（学習方法）について学びます
3		・適切な思考法として、論理の基礎を学びます
4		・意見を述べる際の議論の組み立て方について学びます
5		・意見を整理する方法について学びます
6	レポートを書く	・レポート作成の基本である文章執筆について学びます
7		・レポート作成の基本技術、アウトライン作成を学びます
8		・参考文献リストと文献の活用方法について学びます
9		・計画的な執筆について学びます
10		・効率的なレポートの書き方について学びます
11	プレゼンテーションをする	・プレゼンテーションとは何か、について学びます
12		・自分の意見を伝える技術について学びます
13		・プレゼン資料の作成方法について学びます
14		・プレゼンテーションを体験します
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：とくになし。教材は授業で指示します。

【履修条件等】

◇1年生の外国人留学生は全員履修します。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇課題が提示されますので確実に課題をこなしてください。

【その他の注意事項】

◇入学式直後に行われるフレッシュマン・オリエンテーションから講義がスタートします。

担当者	糸 川 優	塩 谷 由美子	
-----	-------	---------	--

基礎演習Ⅱ	
Foundational Seminar Ⅱ	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

この講義は、自分の将来設計、すなわち「キャリア・デザイン」の基本的な考え方について学びます。講義では、キャリアとは何か、そして、職業を選択すること、組織や企業で働くことの意味を考え、その上で、最終的には自分のキャリアをデザインすることができるようになるよう指導します。この講義を受講することによって、自分のキャリア・デザインを踏まえて、大学で何をどのように学ぶべきかがはっきりと理解できるようになり、大学での学びが深まります。そして、さらには、将来への準備に早期に取りかかることができるので、4年生の時の就職活動にも役立ちます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
自己分析、職業興味、価値観、自身の強みなどについて理解する	実際にいくつかの自己分析のワークシートに取り組んでもらう。授業時に行う課題への取り組みの姿勢や結果を参考にしながら評価をする	25%
業界分析・企業分析の基礎について理解し、興味のある分野を探索する	興味関心のある業界や企業について調べ、分析をする。授業時に行う課題への取り組み姿勢や結果を参考にしながら評価をする	25%
自己分析と企業分析を基にして自身の自己ピーアールを作成する	それまでに行ってきた課題の内容を踏まえて、自身の自己ピーアールを作成する。授業時に行う課題への取り組み姿勢や結果を参考にしながら評価をする	25%
多様な働き方について理解をする。また自身のキャリアを設計する上で必要な考え方を身につける	キャリア・デザインをしていく上で必要になる考え方について理解をしているか確認するため、自由記述型の論述試験を行う。自身のキャリアを真摯に考え記述しているかどうかについて評価をする	25%
評価の方法 授業時の課題75点（受講態度含む）、期末課題25点		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	キャリア・デザイン総論	講義の概要について解説
2	大学生活を充実させる①	大学生活に目標やスケジュール。P D C Aサイクルを考える
3	大学生活を充実させる②	海外留学・インターンシップについて解説
4	ライフプラン	大学卒業後の進路選択、30歳までのライフプラン
5	働くとは何か	できること、やりたいことを基礎に働くことを考える
6	働く人の権利	労働法の基礎について解説
7	労働と収入	給与とは何か。奨学金と生涯賃金について解説
8	自己分析	価値観と雇用のミスマッチについて
9	資格取得	キャリア形成と資格取得の意義について解説
10	大学生活を充実させる③	ゼミ発表大会に参加しレポートを作成
11	企業分析・業界分析	キャリア・デザインに必要な企業分析調査
12	就職試験総論	S P I 試験など就職に関する試験について解説と体験
13	就職試験体験	内定者報告会：4年生による内定報告とレポート作成
14	就職試験体験	ビジネスマナー（服装・ビジネス文書など）について解説
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は指定しません。

【履修条件等】

◇授業中に行う課題に真剣に取り組むこと。

◇提出課題の期日を守れること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇配付資料のキャリアに関するキーワードについて調べること。

◇キャリア・雇用に関する時事問題について指示された内容を新聞・雑誌等で調査する
事前課題が出る場合があります。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

担当者	伊 波 和 恵	木 村 直 樹	志 塚 昌 紀
	高 橋 哲 也	田 島 外志美	

基礎演習Ⅱ（留学生対象）	
Foundational Seminar II	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

この講義は、自分の将来設計、すなわち「キャリア・デザイン」の基本的な考え方について学びます。講義では、キャリアとは何か、そして、職業を選択すること、組織や企業で働くことの意味を考え、自分のキャリア・デザインを意識して大学生活を送ることができるようになるよう指導します。日本の企業慣習、就職活動の流れなどを踏まえて、大学で何をどのように学ぶべきかを理解し、大学での学びが深まります。将来への準備に早期に取りかかることができるので、就職活動にも役立ちます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
自己分析、職業興味、価値観、自身の強みなどについて理解する	実際に自己分析のワークシートに取り組んでもらう。授業時に行う課題への取り組みの姿勢や結果を参考にしながら評価をする	25%
業界分析・企業分析の基礎について理解し、興味のある分野を探索する	興味関心のある業界や企業について調べ、分析をする。授業時に行う課題への取り組み姿勢や結果を参考にしながら評価をする	25%
自己分析と企業分析を基にして自身の自己ピーアールを作成する	それまでに行ってきた課題の内容を踏まえて、自身の自己ピーアールを作成する。授業時に行う課題への取り組み姿勢や結果を参考にしながら評価をする	25%
多様な働き方について理解をする。また自身のキャリアを設計する上で必要な考え方を身につける	キャリア・デザインをしていく上で必要になる考え方について理解をしているか確認するため、自由記述型の論述試験を行う。自身のキャリアを真摯に考え記述しているかどうかについて評価をする	25%
評価の方法 授業時の課題75点(受講態度含む)、期末課題25点		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	キャリア・デザイン総論	講義の概要について解説
2	大学生活を充実させる①	大学生活の目標やスケジュールを考える
3	大学生活を充実させる②	インターンシップについて
4	ライフプラン	大学卒業後の進路選択、30歳までのライフプラン
5	働くとは何か	できること、やりたいことを基礎に働くことを考える
6	働く人の権利	労働法の基礎について、アルバイトについて
7	労働と収入	給与・生涯賃金について
8	自己分析	価値観と雇用のミスマッチについて
9	資格取得	キャリア形成と資格取得の意義について
10	大学生活を充実させる③	ゼミ発表大会に参加しレポートを作成
11	企業分析・業界分析	キャリア・デザインに必要となる企業分析調査
12	日本の就職活動①	日本の就職活動のしくみと流れ、在留資格について
13	日本の就職活動②	内定者報告会：4年生による内定報告とレポート作成
14	日本の就職活動③	ビジネスマナー（服装・ビジネス文書など）について
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：教科書は指定しません。講義は配布レジュメに沿って進めていきます。

【履修条件等】

◇授業中に行う課題に真剣に取り組むこと。

◇提出課題の期日を守れること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇配付資料のキャリアに関するキーワードについて調べること。

◇キャリア・雇用に関する時事問題について指示された内容を新聞・雑誌等で調査する
事前課題が出る場合があります。

【その他の注意事項】

◇大学生活の重要事項を周知することがあるので、欠席しないようにしてください。

担当者	糸 川 優	塩 谷 由美子	
-----	-------	---------	--

社会学	<small>ニイジマ ヨシエ</small> 新嶋 良恵
Sociology	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

みなさんは日常生活を送る中でたくさんの不思議や困難に出会うと思います。そうした思いは、多くの場合「私」の在り方を規定しようとする力との出会いから生まれています。この授業ではそうした、「私」の在り方を決めつけてくる「他者」や「常識」など、「当たり前」を押し付けてくる力について考えていきます。同時に、「私」という個人から出発して「社会」について考える研究アプローチについて学び、他者との関わり合いの中で立ち現れる社会について、多層的な視点から捉える素養を養うことを目標とします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
平常点	授業での意欲的な取り組みや理解しようとする姿勢を考慮します。	20%
レポート	授業の内容に関する映像を観て、レポートを作成してもらおう。提出は学期末。	60%
その他	授業の内容についての小試験を学期中に行う。 (予定では2回)。	20%
評価の方法 授業内での態度、小試験、最終レポートの複合的な結果を勘案します。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	「常識」とは？
2	個人と社会	「私」の形成
3	準拠集団	どこに属するかという問題
4	相互作用(1)	パフォーマンスする「私」
5	相互作用(2)	役割を期待されること
6	相互作用(3)	他者から学ぶ
7	階級(1)	スクールカーストから考えてみよう
8	階級(2)	ここまでのまとめ
9	境界線(1)	私／他を分断する力
10	境界線(2)	人種・エスニシティ
11	境界線(3)	定義づけることの力
12	アイデンティティ	「私」と「社会」の関係
13	マス・コミュニケーション	マス・コミュニケーションの力
14	社会学的方法	社会学の方法論について
15	総括・達成度の確認	総括およびテストを実施する

【使用教材】

- ◇藤田弘夫、西原和久（著）『権力から読み解く現代人の社会学入門』有斐閣アルマ教科書として指定はしませんが、参考にすると理解に役立つでしょう。
- ◇その他必要な資料については教員が適宜準備して配布する。

【履修条件等】

- ◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇事前に指定されたキーワードについて、教科書を使って調べておくこと。キーワードは毎回の授業で発表する。

【その他の注意事項】

- ◇授業内での態度、理解しようとする取り組みは、成績に反映するものと考えてください。

法学 I (憲法含む)	ナガキ イクヤ 長岐 郁也
Law I	選択科目 / 半期 / 2 単位

【授業概要】

初めて法律学を学ぶ学生諸君に法律学に対する興味や関心を持ってもらい、基本的な法原則・法概念、そして法の適用（解釈）などを習得してもらうことが本講義の目的である。

法律学は、初めて勉強する人にとっては取っ付きにくい学問であり、勉強の最初の段階で違和感や苦手意識を感じてしまう人も多い。

そこで本講義では、いくつかの身近で具体的な事例を出発点として法の基礎知識を学ぶとともに、法の解釈とはどのようなものかを学生諸君と考えていくこととしたい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
法律学に対する興味・関心を持つこと	身近な事例を用いることで、まずは自身の感覚や勘を頼りに考えてもらいながら、徐々に法的思考に基づいた見方ができるかを講義中の発言に基づいて評価する。	20%
憲法を中心とした法体系を理解すること	定期試験において法の成立、公布、施行の一連の流れを踏まえて上で、法の役割を問うことで評価する。	20%
法に与えられている役割を理解すること	定期試験においてそれぞれの法律の分野に関する問題を設け、理解の程度を評価する	20%
日常において発生する法律に関わる問題に対して自らの考えを述べることができること	定期試験において、日常のニュースなどで多くの事件を知ることができるが、それらに対して法律問題に対して自らの視点からどのように捉えることができるか、また通常の視点とはどのような差異が生じるのかを認識することができるかを評価する。	40%
評価の方法 講義内でのディスカッション等の発言と定期試験の結果をもって総合的に評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	
2	法学	近代社会における法の意義
3	法学	国家による法の規制
4	憲法	憲法の役割と意義、帝国憲法と憲法
5	憲法	基本的人権（平等権、自由権）
6	憲法	基本的人権（社会権、受益権）
7	憲法	統治機構論（内閣、国会、裁判所）
8	憲法	統治機構論（内閣、国会、裁判所）
9	行政法	地方公共団体の法
10	民事法	日常生活の中の法の役割、権利と義務の関係
11	民事法	会社の組織、取引関係における法の役割
12	刑法	罪刑法定主義
13	刑法	刑罰について
14	訴訟法	裁判所の種類と役割及び裁判の手続き
15	まとめ	

【使用教材】

◇教科書は使用せず授業を進める。適宜、資料としてプリントを配布する。

なお、参考文献は以下のとおりです。

碧海純一著『法と社会（中公新書）』中央公論新社、1967年

五十嵐清著『法学入門（第3版）』悠々社、2006年

星野英一著『法学入門』有斐閣、2010年

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし。

【その他の注意事項】

◇講義中の私語は厳禁とする。

法学Ⅱ	ナガキ イクヤ 長岐 郁也
Law II	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

日常生活を営む上では法律を意識する機会は多くないものの、多くの法律が関わるものである。とくにその中心には民法が置かれており、それに付随するさまざまな法律が存在している。本講義では、民法に定められる基本的なルールを学習するとともに、日常生活のトラブルにどのようにあてはめられ、解決が試みられるのかを学習する。時としてそのルールが修正されることもあるので、この点についても適宜触れていく。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
日常生活における法の関わりを理解すること	ディスカッションを通じて民法を中心とした私法が日常生活にどのように関わるのかをイメージすることができること。	20%
法律の制度の趣旨を理解すること	ルールを理解するためには法律に定められる制度の立法趣旨を理解することが必要であるため、これについて試験において評価する。	30%
法律に定められるルールを事実に当てはめることができること	実際の出来事にどのような法律の制度を当てはめることができ、その結果としてどのように処理することが可能であるのかを試験において確認する。	40%
日常において発生する法律が関わる問題に対して自らの考えを述べることができること	定期試験において、日常のニュースなどで多くの事件を知ることができるが、それらに対して法律の視点からどのように捉えることができるか、また通常の見点とはどのような差異が生じるのかを認識することができるかを評価する。	10%
評価の方法 講義内でのディスカッション等の発言と定期試験の結果をもって総合的に評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	授業内容及び授業方針の説明
2	民法の概要	民法典についての説明
3	契約(1)	売買契約の成立、契約自由の原則
4	契約(2)	契約の分類、契約の有効性
5	契約(3)	公序良俗違反、一般条項、強行規定・任意規定
6	契約(4)	債務不履行、強制履行、解除
7	契約(5)	債務不履行、損害賠償
8	不法行為(1)	過失責任主義・無過失責任主義
9	不法行為(2)	損害賠償、立証責任
10	所有権(1)	物権・債権の峻別、物権法定主義
11	所有権(2)	所有権の取得・制限
12	所有権(3)	対抗問題、非典型担保
13	事例研究(1)	日常生活のトラブルにどのように法がかかわるのか
14	事例研究(2)	日常生活のトラブルにどのように法がかかわるのか
15	まとめ	近代市民法の原則とその修正、民法改正

【使用教材】

◇教科書は使用せず授業は進める。適宜、資料としてプリントを配布する。

◇参考文献等については、講義中に適宜案内する。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし。

【その他の注意事項】

◇講義中の私語は厳禁とする。

心理学 I	ウキヤ シュウイチ 浮谷 秀一
Psychology I	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

科学として発展してきた心理学が、今日まで解明してきた人間の心理と行動の特徴についてわかりやすく解説し、身近な学問として正しく理解してもらうことをねらいとしています。そのねらいの実現のために、人間の心理を理解するために必要な基礎的な領域（発達心理・整理心理・認知心理・適応心理・学習心理）を解説します。主に講義形式で授業を進め、適切な時期に、必要に応じて各種心理検査などを紹介する実習などを組み込んでいきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
発達とその特徴について理解すること	発達に影響する要因を理解することと発達段階の特徴を理解できているか評価する	45%
生理心理のメカニズムを理解すること	生理心理のメカニズムを理解できているかで評価する	10%
認知心理の特徴について理解すること	認知心理に関連する人間の特徴を理解できているかで評価する	15%
適応心理の特徴について理解すること	適応するということがどのようなことかを理解できているかで評価する	15%
学習のメカニズムを理解すること	学習過程のメカニズムを理解できているかで評価する	15%
評価の方法 出席は3分の2以上が単位認定の条件 中間試験40%、最終試験60%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	心理学の成立ち	(1) 心理学とは
2	発達心理	(1) 発達とは (2) 発達の特質
3	発達心理	(3) 発達段階の特徴[1]
4	発達心理	(3) 発達段階の特徴[2]
5	生理心理	(1) 神経系のはたらき (2) 情動とは (3) EQとは
6	認知心理	(1) 知覚の成立
7	認知心理	(2) 知覚の全体性
8	適応心理	(1) 欲求とは? (2) 欲求5階層説 (3) 葛藤
9	適応心理	(4) 欲求不満 (フラストレーション)
10	適応心理	(5) 適応機制
11	中間試験	解説を含む
12	学習心理	(1) 学習とは? (2) 学習過程のメカニズム[1]
13	学習心理	(2) 学習過程のメカニズム[2]
14	学習心理	(3) 記憶と忘却
15	終了試験	解説を含む

【使用教材】

◇岡村一成（編）『心理学—行動の科学—』東京教学社

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇次週に取り上げることを提示するので、教科書の該当箇所を読むこと。

【その他の注意事項】

◇必ず出席して積極的に学ぶこと。

心理学 I	サトウ エミ 佐藤 恵美
Psychology I	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業では、科学としての心理学の基本的な理論と方法論を学びます。人の心理と行動の特徴について正しい知識を得、心理学を学問として正しく理解することが目標です。

「心理学 I」では、発達心理学・生理心理学・知覚心理学・認知心理学・学習心理学の5領域をおもに学習します。いずれも心理学の基礎的な領域であり、心のメカニズムの理解には欠かせないテーマです。

授業は講義形式を中心とし、適切な時期に、必要に応じて学習内容を深めるための課題などを組み合わせていきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
発達心理学	生涯発達心理学の概念と理論について正しく理解し、人が心理的社会的に変化する発達プロセスについて理解する。	20%
生理心理学 (心と脳)	神経系の機能性ならびに脳の構造の概略を把握し、説明することができる。さらに、それらの知識を結びつけて、心身二元論ならびに心身相関について理解している。	15%
知覚心理学	知覚のメカニズムについて理解したうえで、社会的知覚、錯視や立体視、運動視等の原理をある程度説明できる。	20%
認知心理学 (認知と社会適応)	欲求ならびに葛藤、欲求不満の定義・理論について適切に説明でき、適応機制について正しく理解している。また、身近な現象にあてはめて説明できる。	25%
学習心理学 (学習と記憶)	行動主義に基づく学習理論について、実験的手法を踏まえて理解できる。記憶と忘却のメカニズムについて簡単な説明ができる。	20%
評価の方法	本試験：50% *テキスト・資料・辞書等、一切持込不可。 レポート：30% *章ごとに課題指示。 平常点：20% *出席点・課題提出状況・授業態度を含む。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	心理学とは何か？	科学としての心理学
2	発達	(1) 人の発達の特質 (2) 社会性の発達
3	発達	(3) 心理的社会的発達段階説
4	生理	(1) 神経系の機能性 (2) 脳の構造
5	生理	(3) 心身相関論
6	知覚	(1) 知覚のメカニズム・社会的知覚
7	知覚	(2) 錯視・知覚の全体性
8	知覚	(3) 運動知覚
9	認知	(1) 欲求 5 階層説 (2) 葛藤
10	認知	(3) 欲求不満 (フラストレーション)
11	認知	(4) 適応 (防衛) 機制と社会的不適応状態
12	学習	(1) 学習過程のメカニズムと理論
13	学習	(2) 学習理論 (行動主義) (3) さまざまな学習理論
14	学習	(4) 記憶と忘却のメカニズム
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

- ◇教科書：岡村一成（編）『心理学—行動の科学—』東京教学社
- ◇参考書：授業中に指示する。

【履修条件等】

- ◇心理学の領域をより幅広く学ぶことで、知識が相互に関連づけられることが期待されるため、「心理学Ⅱ」も併せて受講することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇授業ごとに指定する章を毎回、熟読してこよう。

【その他の注意事項】

- ◇レポートなどの提出物は必ず提出すること。
- ◇各章終了時に、講義の中でレポート課題（PCで作成）を指示する。

心理学 I	マツダ ミトコ 松田 美登子
Psychology I	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

科学として発展してきた心理学の「人間の心理と行動」の法則や原理について詳しく解説し、身近な学問として理解することを目標とします。

「心理学 I」では、人間の心理を理解する上で必要となる以下のような基礎的な領域を中心に授業を進めます。(1)人間の発達の仕組みと発達的变化、(2)心と脳との関係、(3)人間の視知覚の不思議、(4)欲求と適応行動、(5)学習行動と記憶のメカニズムをテーマに学習します。

授業は、主に講義を形式を中心とします。適時に、課題や心理テストを取り入れて、授業の理解を深めていきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
人間の発達の仕組みと発達的变化について理解する	レポートおよび試験により評価。人間の誕生から死までの一連の発達プロセスや発達段階のトピックスについて理解し設問に回答できること。	25%
心と脳との関連性を理解する	試験により評価。人間の心と行動に大きく関連する神経系や脳の構造や機能について知り得たことを回答できること。	15%
人間の視知覚の不思議について理解する	課題および試験により評価。知覚の中の視知覚を中心とする。視覚における錯覚（錯視）や人間の経験や環境が影響を及ぼす社会的知覚、運動視等について講義と課題を通じて学習した内容を説明できる。	20%
人間の欲求と適応行動について理解する	レポートおよび試験により評価。欲求と葛藤および欲求不満について正しく理解し、環境との適応について考察し答えることができる。	20%
学習行動と記憶のメカニズムについて理解する	課題および試験により評価。学習理論について学び、神経症や問題行動の理解に繋げる。記憶と忘却について課題を通じて理解し説明できる。	20%
評価の方法	①平常点：10%（リアクションペーパー・課題の提出、出席状況） ②レポートおよび宿題提出：30% ③定期試験60%（教科書・プリント類等、一切持込不可）。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	イントロダクション	授業の目的と進め方、成績評価基準等の説明 科学としての心理学とは？
2	発達心理	(1)発達とは？ (2)発達のしくみ
3	発達心理	(3)発達段階の特徴[1]乳児期～思春期
4	発達心理	(3)発達段階の特徴[2]青年期～老年期
5	生理心理	(1)神経系のはたらき (2)脳の構造
6	生理心理	(3)情動 (4)心身症
7	知覚心理	(1)知覚の成立 モノの見え方の不思議
8	知覚心理	(2)知覚の全体性 知覚におよぼす欲求や価値
9	知覚心理	(3)運動の知覚 動いていないのに動いて見える？
10	認知心理	(1)欲求とは？ (2)欲求5階層説 (3)葛藤と欲求不満
11	認知心理	(4)適応機制 (5)適応と不適応行動
12	学習心理	(1)学習とは？ (2)学習過程のメカニズム[1]
13	学習心理	(3)学習過程のメカニズム[2] (4)無気力は学習される？
14	学習心理	(5)記憶と忘却
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：岡村一成（編）『心理学—行動の科学—』東京教学社

【履修条件等】

- ◇心理学に興味を持ち、意欲がある学生。
- ◇「心理学Ⅱ」も併せて受講することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に指示した重要事項の内容を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇課題やレポートは期限内に、必ず仕上げ提出すること。

心理学Ⅱ	ウキヤ シユウイチ 浮谷 秀一
Psychology Ⅱ	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業では、基礎的な分野を学んだ心理学Ⅰを踏まえて応用的な分野を中心に学ぶこととなります。解説する分野は、性格心理・臨床心理・社会心理・産業組織心理などです。主に講義形式で授業を進め、適切な時期に、必要に応じて各種心理検査などを紹介する実習などを組み込んでいきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
性格心理の特徴を理解すること	性格を理解できているか、性格を知るためにはどうしたらよいかを理解できているかで評価する	40%
臨床心理の特徴を理解すること	心の病が理解できているかで評価する	10%
社会心理の特徴について理解すること	社会生活での人間活動の特徴を理解できているかで評価する	30%
産業・組織心理学の特徴を理解すること	産業・組織心理学の歴史的な流れと特徴を理解できているかで評価する	10%
心理学の歴史について理解すること	心理学という学問がどのように生まれ、どのような経過をたどったかを理解できているかを評価する	10%
評価の方法 出席は3分の2以上が単位認定の条件 レポート30%、最終試験70%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	性格心理	(1) 性格とは
2	性格心理	(2) 性格の見方
3	性格心理	* 性格検査実習
4	性格心理	(3) 性格の理解[1]
5	性格心理	(3) 性格の理解[2]
6	臨床心理	(1) 心の病についての基本的考え方
7	臨床心理	(2) 心の病の理解
8	社会心理	(1) 対人認知 (2) 対人関係の認知
9	社会心理	(3) 協同と競争
10	社会心理	(4) 社会的影響
11	社会心理	(5) 流言 (6) 流行
12	産業・組織心理	(1) 歴史的考察
13	産業・組織心理	(2) リーダーシップ
14	心理学の歴史	心理学の生誕から現在まで
15	終了試験	解説を含む

【使用教材】

◇岡村一成（編）『心理学—行動の科学—』東京教学社

【履修条件等】

◇「心理学Ⅰ」を履修済であることが望ましい。履修済でない場合は、適宜予習すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇次週に取り上げることを提示するので、教科書の該当箇所を読むなどすること。

【その他の注意事項】

◇出席し前向きに自ら学ぶこと。

心理学Ⅱ	サトウ エミ 佐藤 恵美
Psychology Ⅱ	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業では、基礎的な分野を学んだ「心理学Ⅰ」を踏まえて応用的な分野を中心に学ぶこととなります。性格心理ではパーソナリティ構造と自己理解を深めることを目的とします。人間理解の方法は人には心理的なさまざまな側面があり、これらを目的に応じて測定する方法として各種の心理測定法を概観します。

社会心理では、社会のなかで生活する個人のパーソナリティの認知、他者理解のための対人認知、そして他者のパーソナリティの認知の観点を解説し、自己や他者のパーソナリティ理解を深めることを目的とします。主に講義形式で授業を進め、適切な時期に、必要に応じて各種心理検査などを紹介する実習などを組み込んでいきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
性格心理学 ーパーソナリティ と知能ー	性格（パーソナリティ）の概念と定義について正しく理解し、パーソナリティの見方と捉え方、また発達的に変化していくプロセスについて理解する。また、パーソナリティの一側面である知能は、IQ（知的能力）とEQ（情緒的能力）の面から理解を深める。	30%
人間理解の方法	人間を深く理解するために、個人差や心理的内面を客観的に捉える方法を理解する。さまざまな側面を持つパーソナリティの理解に関して、目的に応じて、測定するために質問紙法、投影法、面接法など心理検査法の特徴と限界を学ぶことを目的とする。	20%
臨床心理学	精神疾患、心身症、発達障害などの特徴と治療方法を理解する。また、心の悩みや問題、障害を抱えたクライアントの治療機関や相談機関を知り、心理査定や心理療法の目的や種類を学ぶ。	20%
社会心理学	社会の中で生活する人々を理解するために、対人認知、人間の社会行動と社会的影響、援助行動、そして集団行動と群集行動などについて概観し、集団と群集における行動の原理について理解する。	30%
評価の方法 本試験50%、レポート30%、平常点（出席点、授業態度）20%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	性格心理	(1)性格とは
2	性格心理	(2)性格の見方
3	性格心理	(3)性格の理解[1]
4	性格心理	(3)性格の理解[2]
5	人間理解の方法	質問紙法
6	人間理解の方法	作業検査法、投影法
7	人間理解の方法	面接法、観察法
8	臨床心理学	心の病と現代
9	臨床心理学	心理療法
10	社会心理	(1)対人認知 対人魅力と親密感
11	社会心理	(2)対人関係の認知 態度と態度変容
12	社会心理	(3)社会的影響
13	社会心理	(4)集合行動 (5)群衆行動
14	社会心理	(6)流言 (7)流行
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

- ◇教科書：岡村一成（編）『心理学—行動の科学—』東京教学社
- ◇参考書：授業中に指示する。

【履修条件等】

- ◇「心理学Ⅰ」を履修していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇授業ごとに指定する章を毎回、熟読してくること。

【その他の注意事項】

- ◇レポートなどの提出物は必ず提出すること。

心理学Ⅱ	マツダ ミトコ 松田 美登子
Psychology Ⅱ	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業では、基礎的な分野を学んだ「心理学Ⅰ」をベースに応用的な分野を中心に学びます。

「心理学Ⅱ」では、パーソナリティ（性格）について理解を深めた後に、心理テスト等を使って自分の性格や心の状態を探っていきます。次に、ストレスが心身と行動に与える影響および心理治療について、心理テストやワークシートを使って実習することで自己理解を深めます。社会心理学では、他者との関わりの中で生きるために必要な対人認知や印象形成、さらに、集団心理の影響や怖さについて学習します。

主に講義形式で授業を進め、適時、心理テストやワークシートを用いた実習を組み込んでいきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
性格と知能 ーパーソナリティ の心理学ー	試験による評価。人間のパーソナリティ（性格）について、さまざまな観点で学習する。パーソナリティの一側面である知能について正しく理解し、自己理解に繋げる。	30%
人間理解の方法 ーアセスメントに ついてー	レポートおよび試験による評価。パーソナリティを理解するためのアセスメント（心理査定）として、心理テストの特徴と守備範囲を理解する。また、実際に心理テストを施行し、レポートにまとめる。	20%
心の病と心理療法 ー臨床心理学ー	課題および試験による評価。自分のストレスの状態をワークシート課題によって理解する。精神障害について正しく理解し、治療法についても学ぶ。	30%
人間の社会・集団 行動 ー社会心理学ー	試験による評価。社会で生きるために必要とされる、対人認知や社会行動、援助行動について理解する。さらに、集団心理と行動について学ぶことで、人間理解に繋げる。	20%
評価の方法	①平常点：10%（リアクションペーパー・課題の提出、出席状況） ②レポートおよび宿題提出：30% ③定期試験60%（教科書・プリント類等、一切持込不可）	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	性格心理	(1)性格とは
2	性格心理	(2)性格の見方
3	性格心理	(3)性格の理解[1]
4	性格心理	(4)性格の理解[2]
5	人間理解の方法	(1)心理アセスメント[1] (質問紙法・作業検査法)
6	人間理解の方法	(2)心理アセスメント[2] (投影法検査・知能検査)
7	人間理解の方法	(3)心理アセスメント[3] (面接法・観察法)
8	臨床心理学	(1)現代がかかえる心の病
9	臨床心理学	(2)ストレスとストレス・コーピング
10	臨床心理学	(3)心理療法
11	社会心理	(1)対人認知 対人魅力
12	社会心理	(2)自己開示と自己呈示
13	社会心理	(3)集合行動と群衆行動
14	社会心理	(4)流言と流行
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：岡村一成（編）『心理学—行動の科学—』東京教学社

【履修条件等】

- ◇心理学に興味を持ち、意欲がある学生。
- ◇「心理学 I」を履修していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に指示した重要事項の内容を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇課題やレポートは期限内に、必ず仕上げ提出すること

哲学	スミダ コウジ 隅田 浩司
Philosophy	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業では、哲学を学ぶ上で最も大切な論理思考について、徹底的に学習することを目的としています。哲学とは、じっくり考える習慣がなければその本質を理解することはできません。たとえば、たくさんの哲学者の名前や業績の概要を試験前に暗記するだけで終わってしまう哲学の授業は時間の無駄です。この授業では、皆さんが、本格的な哲学的思考を身につけるための前提となる論理思考を鍛えることを最優先しています。従って、講義は、すべてディスカッション形式の対話型の授業となります。対話型という以上は、学生は、授業で常に意見を求められます。座っているだけで単位が取れると思っている人はこの授業には向いていません。しかし、この授業を履修し、しっかり議論に参加するならば、必ず、今までとは違う世界が開けるはずです。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
論理の構造をつかむ	文章のつながりから、論理を見だし、正確に文章の意味を読み取ることができるかどうかを、対話型授業の中で評価します。	20%
論証の基礎を学ぶ	自分の意見を適格に論証することができるか、あるいは、他人の論証を構造的に理解し、その上で、その論証の問題点を指摘できるかについて、対話型授業の中で評価します。	30%
演繹法	演繹法について、その正確な運用を身につけるとともに、演繹法に基づく論理の分析の基本パターンを身につけることができるかどうかについて、対話型授業の中で評価します。	30%
文章構成力	論理的に一貫した論文、レポートなどを書くことができるかどうかについて、対話型授業、授業内レポートの中で評価します。	20%
評価の方法	授業中の授業態度や対話型授業への参加姿勢を70%、定期試験の成績評価30%の比率で成績評価を行います。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	導入講義を行います
2	論理の基礎	言葉のつなぎ方による論理の基礎を学びます
3	論理の構造	言葉の指示関係から論理構造を分析することを学びます
4	主張の作り方	自分の意見・主張を組み立てるやり方を学びます
5	論証とは？	論証とは何か、について説明します
6	演繹と推測	延期と推測の違いについて説明します
7	価値評価	価値評価の論理とは何か、について説明します
8	否定について	否定の種類を正確に理解する大切さを学びます
9	条件について	逆・裏・待遇を使いこなすことを学びます
10	条件連鎖	条件が連鎖する仕組みについて学びます
11	推論の技術	推論における存在文について学びます
12	消去法	消去法について学びます
13	背理法	背理法について学びます
14	議論を作る	議論や批判の仕方について学びます
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は指定しません。

◇授業の教材はすべて Google Classroom からダウンロードできます。

【履修条件等】

◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業の終わりに予習事項を指示します。

【その他の注意事項】

◇この授業は、日本語で文章の論理を分析することになります。そのため、かなり大量の日本語の文章を読むことになります。履修する際は、この点について、注意してください。

◇対話型の授業となりますので、参加意欲が乏しい場合は履修停止になります。

◇私語は厳禁です。私語については、とくに厳格に取り扱います。

文学（現代文学）	アミモト ナオコ 網本 尚子
Literature	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業では、日本の現代文学における何人かの重要な作家の作品を取り上げ、そこからどのような作者の思いが読み取れるかについて考える。それぞれの作者の文章の特徴や、表現の傾向を分析したり、作者の生活した土地や、交友関係、生い立ちなどが作風にどのように影響を与えているかについて考えたりしてみたい。また、お互いに、自分の好きな作家の作品を紹介し合い、各自の読書の世界を広げるような試みも行いたい。

この授業をきっかけに、読書の楽しみ方を学び、読書習慣を身につけてもらいたい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
日本文学の歴史	明治時代以降の日本文学の歴史を理解しているかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
芥川龍之介の作品を読んで、内容や表現の特徴について考える	芥川龍之介の作品の内容や、表現の特徴、芥川の人間性、歩んだ人生などについて理解しているかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方、感想文などで評価する。	25%
太宰治の作品を読んで、内容や表現の特徴について考える	太宰治の作品の内容や、表現の特徴、太宰の人間性、歩んだ人生などについて理解しているかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方、感想文などで評価する。	25%
村上春樹の作品を読んで、内容や表現の特徴について考える	村上春樹の作品の内容や、表現の特徴、村上の人間性、歩んだ人生などについて理解しているかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方、感想文などで評価する。	25%
評価の方法	3分の2以上出席し、感想文などの課題を提出すること。 試験80%、感想文や発表の内容、受講態度等20%	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	日本文学の歴史	明治以降の日本文学の歴史について。
3	さまざまな作家の作品	重要な作家とその作品の内容・特徴について。
4	芥川龍之介の文学	芥川龍之介の作品を読み、表現の特徴や内容について理解を深めるとともに、芥川我的生活環境や交友関係が作品に与えた影響について考える。
5	芥川龍之介の文学	
6	芥川龍之介の文学	
7	太宰治の文学	太宰治の作品を読み、表現の特徴や内容について理解を深めるとともに、太宰治の生活環境や交友関係が作品に与えた影響について考える。
8	太宰治の文学	
9	太宰治の文学	
10	村上春樹の文学	村上春樹の作品を読み、表現の特徴や内容について理解を深める。また、海外で起こった村上春樹ブームや、村上の政治や社会問題に関する発言などについても考える。
11	村上春樹の文学	
12	村上春樹の文学	
13	私の薦める作家・作品	他の人に薦めたい作家や作品について、お互い紹介し合い、意見を交換する。
14	私の薦める作家・作品	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇使用せず。

【履修条件等】

◇読書が好きな人、今は苦手でも読書してみたいと思っている人など、積極的に授業に参加できる学生に履修してもらいたい。

◇日本語で書かれた文学作品を読むので、留学生は自分の日本語能力を十分考慮した上で受講すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇前回までに勉強したことは、きちんとノート整理し、理解した上で次の授業に臨むこと。

◇高校時代の教科書や、辞書、事典などで、授業で取り上げる作家や作品の概要を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇わからない言葉が出てきたら、積極的に辞書を使って調べること。

文学（源氏物語）	アミモト ナオコ 網本 尚子
Literature	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

『源氏物語』に描かれている女君たちのなかでもとくに印象深い、紫の上、葵の上、六条御息所、藤壺女御、そして光源氏の母である桐壺更衣らを取り上げ、それらの女性がどのように描かれているのかに着目しながら『源氏物語』の本文を読み進めていく。

古語や文語文法の知識を深めるというよりも、私たちと同じ日本人が、1000年前にはどのように生活し、どのような物の考え方をしていたのかを知り、現代日本の根底に横たわる、日本人としての共通認識や常識について理解を深めることを目標とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
『源氏物語』の作者や物語執筆の背景などについて理解する	歴史的な人物について答えられるだけでなく、漢字で正しく書けるようにすること。設問に対する回答、試験によって評価。	20%
授業で読むテキスト本文が、現代語訳のどの箇所にあたるかを理解し、正しく読む	テキストの音読を指名された時に、正しく読めるかどうか。	20%
本文に描かれている平安時代の風俗や習慣、考え方などについて理解を深める	授業で説明を受けた語句の意味等を正しく理解できているかどうか。また、漢字で正しく書けるかどうか。設問に対する回答、試験によって評価。	40%
『源氏物語』の登場人物について	本文に登場する人物について、お互いの関係を理解し、正しく系図にまとめられるかどうか。設問に対する回答、小テスト、試験によって評価。	20%
評価の方法 3分の2以上の出席で、受講態度・小テスト等20%、試験80%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイドダンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	桐壺更衣	「桐壺」の巻を中心に講読し、平安時代の後宮や平安貴族の考え方、当時の結婚観等について解説する。
3	桐壺更衣	
4	桐壺更衣	
5	藤壺女御	藤壺女御に関する記述をピックアップして読み、光源氏の生涯に藤壺が与えた影響について考察する。
6	藤壺女御	
7	葵の上	「葵」の巻を中心に講読する。とくに「車争い」前後の葵と六条の心理を読み取り、この悲劇の原因をさぐる。
8	葵の上	
9	六条御息所	車争いの後に六条御息所の身に起こった現象を考察し、平安時代の人々の思想について理解を深める。 光源氏と六条のその後を、テキストで読み味わう。
10	六条御息所	
11	六条御息所	
12	紫の上	紫の上に関する記述をピックアップして読み、紫の上を造形した作者の紫式部の意図を考察する。平安時代の結婚形態について解説し、女三の宮の悲劇が生じた原因を考察する。
13	紫の上	
14	紫の上と女三の宮	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇秋山虔他編『源氏物語読本』筑摩書房

【履修条件等】

- ◇日本語のテキストを音読する能力があること。
- ◇日本の伝統や歴史に興味があること。
- ◇日本の古い言葉で作品を読むので、留学生は自分の日本語能力を十分考慮した上で受講すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇前回までに登場した人物について整理し、理解しておくこと。
- ◇前回までの授業で説明を受けた古語の意味を理解しておくこと。また習った漢字を読むようにしておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇テキストを持参しない場合は欠席と見なすので、必ずテキストを購入し、毎時間持参すること。

文学（歌舞伎）	アミモト ナオコ 網本 尚子
Literature	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

江戸時代から演じられ続けている日本の伝統芸能、歌舞伎を取り上げ、ビデオ教材を用いながら、歌舞伎の成立や歴史、特徴、他の古典芸能との関連、鑑賞のポイントなどについて講義する。受講者全員で古典芸能を鑑賞に出かけることなどはしないが、個人的に鑑賞の機会を持ってくれることを期待する。

これからの国際化の時代、海外に出る機会もますます増えるだろう。諸外国の人々に、日本の伝統について堂々と説明できるようになってほしい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
歌舞伎の歴史について正しい知識を身につける	歌舞伎成立以前の芸能の歴史に始まり、江戸時代から近現代にいたるまでの歴史を理解しているかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
歌舞伎の特徴について正しい知識を身につける	歌舞伎が演じられる舞台の構造、歌舞伎の登場人物に見られる特徴、衣装、大道具・小道具、セリフなど、現代演劇と違う特徴を理解しているかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
歌舞伎の演目について自分の意見や感想を述べる	ビデオで鑑賞した歌舞伎の演目について、あらすじや内容、鑑賞のポイントを理解しているかどうか。自分の言葉で感想や意見を述べることができるかどうか。集中してビデオを鑑賞できたかどうか。試験や感想文などで評価する。	25%
歌舞伎が現代とどのようにつながっているかについて考える	歌舞伎が現代まで演じ続けられていることに対して、その理由や、現代社会に与えている影響などについて、自分の言葉で意見を述べることができるかどうか。試験や感想文などで評価する。	25%
評価の方法	3分の2以上出席し、感想文などの課題を提出すること。 試験80%、感想文の内容、ビデオの鑑賞態度等20%	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	歌舞伎の歴史	江戸時代から現代に至る歌舞伎の歴史について。
3	歌舞伎の特徴	歌舞伎と他の演劇との違い、歌舞伎らしさとは何か、等という点から、歌舞伎の特徴を学ぶ。
4	歌舞伎の特徴	
5	歌舞伎の登場人物	歌舞伎の登場人物の種類や特徴について。
6	歌舞伎の舞台	歌舞伎の演じられる舞台の構造と特徴について。
7	時代物と荒事	歌舞伎の時代物や荒事に見られる特徴や、代表的な演目の内容、鑑賞のポイントなどについて。
8	時代物と荒事	
9	時代物と荒事	
10	世話物	歌舞伎の世話物に見られる特徴や、代表的な演目の内容、鑑賞のポイントなどについて。
11	世話物	
12	歌舞伎の音楽	歌舞伎で演奏される音楽の特徴について。
13	能・狂言と歌舞伎	能・狂言から作られた歌舞伎演目について。能・狂言の演目と歌舞伎演目との演じ方の違いについて。
14	能・狂言と歌舞伎	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

【履修条件等】

◇古典芸能や、演劇、ダンス、音楽などに、少しでも興味を持っている学生に履修してもらいたい。

◇日本の古い言葉で演じられる芸能を、字幕なしで鑑賞するので、留学生は自分の日本語能力を十分考慮した上で受講すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予習の必要はないが、能楽堂や劇場などで実際に能、狂言、歌舞伎を鑑賞した人は、感想文を提出すること。提出された感想文は、成績評価に含める。

【その他の注意事項】

◇ビデオ鑑賞することが多い授業なので、遅刻をすると他の受講生に迷惑をかけることになる。気をつけること。

文学（古典文学）	アミモト ナオコ 網本 尚子
Literature	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業では、現代に生きるわれわれにも少なからず影響を与えている代表的な古典文学作品や、古典文学の影響を受けて書かれた近現代の小説を取り上げ、あらすじを知るとともに、その一部については原文で読み味わう。さらに、そこに描かれる昔の風俗や考え方についての講義を通して、日本人としての常識を身につけ、教養を深めることを目標とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
和歌の歴史や用語について正しく理解する。和歌の現代語訳	和歌文学の歴史や用語を理解し、和歌を自分の言葉で現代語訳できるかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
『今昔物語集』の特徴や説話の内容について正しく理解する	説話のあらすじや語句の意味、漢字の読み、説話のおもしろさのポイントなどについて正しく答えられるかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
『平家物語』のあらすじを正しく理解する。『平家物語』をもとにした芸能の特徴について考察する	『平家物語』の主な登場人物や事件について正しく答えられるかどうか。『平家物語』と関連深い芸能である平曲や狂言などの特徴を説明できるかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
江戸時代の文学作品のあらすじ、特徴を正しく理解する	江戸時代の文学の特徴や、あらすじ、登場人物について正しく答えられるかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
評価の方法	3分の2以上出席し、レポートを提出すること。 レポート30%、試験50%、感想文などの内容・受講態度20%	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	言葉遊び	日本に伝わるさまざまな言葉遊びについて。
3	百人一首の恋歌	百人一首の恋歌を読み味わい、昔の人々と現代人との共通点や相違点について考察する。和歌を題材に作られた漫画や歌など、現代に与える影響について考える。
4	百人一首の恋歌	
5	百人一首の恋歌	
6	今昔物語集	『今昔物語集』の説話を読み、現代人との共通点や相違点について考察する。
7	今昔物語集	
8	今昔と芥川龍之介	『今昔物語集』所収話と、それをモチーフに書かれた芥川龍之介の小説『藪の中』を比較する。
9	今昔と芥川龍之介	
10	平家物語	『平家物語』のあらすじや人物関係を理解する。那須与一などの有名な場面をいくつか読み、さらに平家琵琶や『平家』の一場面を基にした狂言などの芸能を鑑賞する。
11	平家物語	
12	平家物語	
13	曾根崎心中	『曾根崎心中』のあらすじや人物関係を理解する。文楽の「曾根崎心中」をビデオで鑑賞する。
14	曾根崎心中	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

【履修条件等】

◇高校時代に古典を選択していなかった人も十分受講可能だが、少なくとも文学に興味関心のある人に履修してもらいたい。

◇日本の古い言葉で書かれた文学作品を読むので、留学生は自分の日本語能力を十分考慮した上で受講すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇前回までに勉強したことは、きちんとノート整理し、理解した上で次の授業に臨むこと。

◇高校時代の教科書や、辞書、事典などで、授業で取り上げる作品の概要を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇レポートを一回課すが、何でもインターネットで調べて済ませようとせず、本で調べて勉強するようにしてほしい。

文学（能・狂言）	アミモト ナオコ 網本 尚子
Literature	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

600年以上前から演じられ続けている日本の伝統芸能、能・狂言を取り上げ、ビデオ教材を用いながら、能・狂言の成立や歴史、他の文学作品への影響、鑑賞のポイントなどについて講義する。受講者全員で古典芸能を鑑賞に出かけることなどはしないが、個人的に鑑賞の機会を持ってくれることを期待する。

これからの国際化の時代、海外に出る機会もますます増えるだろう。諸外国の人々に、日本の伝統について堂々と説明できるようになってほしい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
能・狂言の歴史について正しい知識を身につける	能・狂言以前の芸能の歴史に始まり、形成期、大成期、近現代にいたるまでの歴史を理解しているかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
能・狂言の特徴について正しい知識を身につける	能・狂言が演じられる能舞台の構造、能・狂言の登場人物に見られる特徴、衣装、大道具・小道具、セリフ、謡、舞など、現代演劇と違う特徴を理解しているかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
能・狂言の演目について感想や意見を述べる	ビデオで鑑賞した能・狂言の演目について、あらすじや内容、鑑賞のポイントを理解しているかどうか。自分の言葉で感想や意見を述べることができるかどうか。集中してビデオを鑑賞できたかどうか。試験や感想文などで評価する。	25%
能・狂言が現代とどのようにつながっているかについて考える	能・狂言が現代まで演じ続けられていることに対して、その理由や、現代社会に与えている影響などについて、自分の言葉で意見を述べることができるかどうか。試験や感想文などで評価する。	25%
評価の方法	3分の2以上出席し、感想文などの課題を提出すること。 試験80%、感想文の内容、ビデオの鑑賞態度等20%	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	能・狂言の歴史	能・狂言誕生以前の芸能から近現代にいたるまでの能・狂言の歴史と特徴を学ぶ。
3	能・狂言の特徴	
4	狂言の登場人物	狂言の登場人物の種類や特徴について。
5	狂言の笑いの特徴	狂言の笑いの特徴と分類について。
6	狂言面や小道具	狂言面や小道具の種類や使い方について。
7	狂言の分類	狂言の曲柄による分類について。
8	能の登場人物	能の登場人物の種類や特徴について。
9	能の謡と舞	能の謡と舞の特徴と種類について。
10	能面や小道具	能面や小道具の種類や使い方について。
11	能の分類	能の曲柄による分類について。
12	能の楽器	能の楽器の種類と特徴について。
13	能・狂言と歌舞伎	能・狂言から作られた歌舞伎演目について。能・狂言の演目と歌舞伎演目との演じ方の違いについて。
14	能・狂言と歌舞伎	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

◇参考図書：網本尚子訳『角川ビギナーズクラシックス 謡曲・狂言』角川文庫
『狂言ハンドブック』三省堂
野村萬斎著・網本尚子監修『What is 狂言?』檜書店
『能って何?』新書館

【履修条件等】

- ◇古典芸能や、演劇、ダンス、音楽などに、少しでも興味を持っている学生に履修してもらいたい。
- ◇日本の古い言葉で演じられる芸能を、字幕なしで鑑賞するので、留学生は自分の日本語能力を十分考慮した上で受講すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予習の必要はないが、能楽堂や劇場などで実際に能、狂言、歌舞伎を鑑賞した人は、感想文を提出すること。提出された感想文は、成績評価に含める。

【その他の注意事項】

◇ビデオ鑑賞することが多い授業なので、遅刻をすると他の受講生に迷惑をかけることになる。気をつけること。

文章表現法（基礎）	アミモト ナオコ 網本 尚子
Contemporary Japanese Writing	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

正しく美しい日本語を用いて自分の考えを表現できることは、社会人にとっての必須教養である。本講義では、「読む」、「書く」に関するさまざまな課題に取り組み、お互いに批評しあうことによって、表現力を高めることを目標とする。

具体的には、読みやすく、正しい文章の書き方を練習したり、新聞に出てくるレベルの漢字を練習したり、敬語の使い方を実践練習したりといった、基礎的な内容の学習を行う。大学生としてすぐに役立つ表現力や知識を身につけるよい機会であるので、真剣に取り組んでもらいたい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
練習問題を解くことによって、正しい文章の書き方を学ぶ	授業中に課された問題を、自分の力で解こうと努力すること。また、小テストや宿題で出された問題について、授業で学んだポイントをふまえた正しい答えを導き出せること。小テスト・宿題・試験で評価。	25%
日本語についての基礎知識を身につける	授業時間に、漢字や、語の正しい意味、語句の正しい用法などの練習問題に答えること。その答え方・小テスト・試験で評価。	25%
正しい敬語の使い方を覚える	尊敬語・謙譲語の正しい使い方を身につけること。生活のさまざまな場面で、正しい敬語を使いこなせるようになること。小テストと試験で評価。	25%
手紙の書き方を覚える	与えられた課題について、授業で学んだポイントをふまえ、正しい形式の手紙が書けること。提出した手紙で評価。	25%
評価の方法	3分の2以上出席し、宿題をすべて提出すること。 試験50%、課題提出や小テストの点数25%、受講態度25%	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	正しい文章の書き方	書き言葉と話し言葉の違い、正しい文体の選び方、助詞の使い方、語句の対応のさせ方、明確な修飾語の書き方、正しい読点の打ち方など、文章を書く上での基本事項を、練習問題に取り組むことで学ぶ。
3	正しい文章の書き方	
4	正しい文章の書き方	
5	正しい文章の書き方	
6	日本語の知識	
7	日本語の知識	
8	日本語の知識	
9	敬語の使い方	敬語の種類や使い方の基本的な知識を、練習問題に取り組むことで学ぶ。さらに、具体的な日常の場面における敬語の使い方の実践的練習を行う。
10	敬語の使い方	
11	敬語の使い方	
12	敬語の使い方	
13	手紙の書き方	手紙の基本的な形式や、ルールについて学び、礼状や近況報告の手紙などを実際に書く。
14	手紙の書き方	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇使用せず。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業時間内にできなかった練習問題は、各自自宅でやっておくこと。

◇指示された問題について、自分で調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇出席回数が全体の3分の2に満たない者は受験停止とする。

◇授業に出席するだけでなく、実際に文章を書くことが勉強である。練習問題や課題は必ず自分の力でやり遂げようとしてほしい。

文章表現法（実践）	アミモト ナオコ 網本 尚子
Contemporary Japanese Writing	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

正しく美しい日本語を用いて自分の考えを表現できることは、社会人にとっての必須教養である。本講義では、主に「書く」ことに重点を置き、さまざまな課題に取り組み、お互いに批評しあうことによって、表現力を高めることを目標とする。

具体的には、読みやすく、正しい文章の書き方を練習問題を通して身につけ、その知識、技術を踏まえて、描写文、エッセイ、小論文、レポートなどを書いていく。大学生としてすぐに役立つ表現力や知識を身につけるよい機会であるので、真剣に取り組んでもらいたい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
読みやすい文章の書き方を身につける	授業中に課された問題を、自分の力で解こうと努力しているかどうか。また、小テストや宿題の問題について、授業で学んだポイントをふまえた正しい答えを導き出せるかどうか。小テスト、提出課題の内容、試験で評価する。	25%
明確な文章が書けるようになる	何を述べたいのかが、読者に明確に伝わるように文章が書けたかどうか。提出された課題の内容で評価する。	30%
それぞれの文章の特徴を踏まえた、適切な文章が書けるようになる	レポート、小論文、エッセイなどが、それぞれどのような目的で書かれる文章なのかが正しく理解できているかどうか。形式に適った文章が書けたかどうか。提出された課題の内容、試験で評価する。	30%
誤字脱字のない、正確で読みやすい文章が書けるようになる	下書き、推敲の手順を踏まえて課題を書いているかどうか。誤字脱字に気をつけて書けたかどうか。提出された課題の内容で評価する。	15%
評価の方法	3分の2以上出席し、宿題をすべて提出すること。 試験25%、レポート・手紙などの課題の評価50%、受講態度25%	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	文章の書き方	練習問題に取り組み、文法的に正しく、読みやすく、明確な文章の書き方について学ぶ。
3	文章の書き方	
4	自己紹介文	読者に強くアピールできるような自己紹介文を書く。
5	メールの書き方	失礼のないメールの書き方を学ぶ。
6	さまざまな文章	エッセイや描写文など、さまざまな文章課題に取り組んで、文章力を磨く。
7	さまざまな文章	
8	小論文	小論文の基本的な構成や、書き方について学び、課題文型小論文とテーマ型小論文を書く。
9	小論文	
10	小論文	
11	レポート	レポートとは何かを正しく認識し、その基本的な形を身につけ、論理的な文章の書き方、用語について知識を深める。 与えられた課題について、自分で資料をさがし、実際にレポートを書く。
12	レポート	
13	レポート	
14	レポート	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇使用せず。

【履修条件等】

◇いわゆる留学生向けの日本語の授業ではなく、日本語を十分に習得できている人向けの応用的な内容であるので、とくに留学生は、自分の日本語能力を考慮した上で受講してほしい。日本語の応用力が不足している留学生には、「文章表現法（基礎）」の履修をすすめる。また、提出課題の多い授業なので、日本人学生の場合も、国語力に自信のない人は、よく考えてから受講してほしい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業時間内にできなかった練習問題は、各自自宅でやっておくこと。
指示された問題について、自分で調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇出席回数が全体の3分の2に満たない者は受験停止とする。
◇授業に出席するだけでなく、実際に文章を書くことが勉強である。練習問題や課題は必ず自分の力でやり遂げようとしてほしい。

文章表現法（総合）	アミモト ナオコ 網本 尚子
Contemporary Japanese Writing	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

正しく美しい日本語を用いて自分の考えを表現できることは、社会人にとっての必須教養である。本講義では、ひとりひとりが「読む」、「書く」に関するさまざまな課題に取り組み、お互いに批評しあうことによって、表現力を高めることを目標とする。

具体的には、練習問題を解いて添削指導を受けたり、与えられた課題について実際に自分で調査し、考えをまとめて短いレポートを作成したり、現実の場面に即した敬語の使い方を実践練習したり、といった学習を行う。大学生としてすぐに役立つ表現力や知識を身につけるよい機会であるので、真剣に取り組んでもらいたい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
練習問題を解くことによって、正しい文章の書き方を学ぶ	授業中に課された問題を、自分の力で解こうと努力すること。また、小テストや宿題で出された問題について、授業で学んだポイントをふまえた正しい答えを導き出せること。	10%
日本語についての基礎知識を身につける	授業時間に、漢字や、語の正しい意味、語句の正しい用法などの練習問題に答えること。その答え方と試験で評価。	10%
レポート・小論文の書き方を覚える	与えられた課題について、授業で学んだポイントをふまえ、正しい形式のレポートが書けること。レポートと試験で評価。	30%
正しい敬語の使い方を覚える	尊敬語・謙譲語の正しい使い方を身につけること。生活のさまざまな場面で、正しい敬語を使いこなせるようになること。試験で評価。	30%
手紙の書き方を覚える	与えられた課題について、授業で学んだポイントをふまえ、正しい形式の手紙が書けること。提出した手紙と試験で評価。	20%
評価の方法	3分の2以上出席し、宿題をすべて提出すること。 試験50%、レポート・手紙などの課題の評価25%、受講態度25%	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	正しい文章の書き方	練習問題に取り組み、文法的に正しく、読みやすく、明確な文章の書き方について学ぶ。
3	正しい文章の書き方	
4	正しい文章の書き方	
5	日本語の基礎知識	難読漢字、四字熟語、慣用句、ことわざなどの練習問題に取り組む。
6	日本語の基礎知識	
7	レポートの書き方	レポートとは何かを正しく認識し、基本的な形を身につけ、論理的な文章の書き方、用語について知識を深める。 与えられた資料に基づいて、実際にレポートを書く。
8	レポートの書き方	
9	レポートの書き方	
10	レポートの書き方	
11	敬語の使い方	敬語の種類や使い方について、練習問題を用いて学び、身につける。
12	敬語の使い方	
13	手紙の書き方	手紙の基本的な形式や、ルールについて学び、礼状や近況報告の手紙などを実際に書く。
14	手紙の書き方	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇使用せず。

【履修条件等】

◇いわゆる留学生向けの日本語の授業ではなく、日本語を十分に習得できている人向けの応用的な内容であるので、留学生の受講希望者は、自分の日本語能力を考慮した上で受講してほしい。日本語の応用力が不足している留学生には、「文章表現法（基礎）」の履修をすすめる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業時間内にできなかった練習問題は、各自自宅でやっておくこと。

◇指示された問題について、自分で調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇出席回数が全体の3分の2に満たない者は受験停止とする。

◇授業に出席するだけでなく、実際に文章を書くことが勉強である。練習問題や課題は必ず自分の力でやり遂げようとしてほしい。

文章表現法（漢検）	アミモト ナオコ 網本 尚子
Contemporary Japanese Writing	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

正しく美しい日本語を用いて自分の考えを表現できることは、社会人にとっての必須教養である。そのためには、日常的に使う漢字に関する知識は絶対に必要なものと考えられる。本講義では、漢字検定2級の問題に取り組むことにより、大学生にとって必要な漢字の知識を身につけ、それを使いこなせるようになることを目標とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
準2級、2級に配当された漢字の読みを覚える	授業中に課された問題を、自分の力で解こうと努力すること。また、小テストや宿題で出された問題に積極的に取り組むこと。小テスト・宿題・試験で評価。	30%
出題予想漢字を分野別に学び、正しい知識を身につける	授業中に課された問題を、自分の力で解こうと努力すること。また、小テストや宿題で出された問題に積極的に取り組むこと。小テスト・宿題・試験で評価。	30%
特殊な読みや当て字など、難読漢字について学ぶ	授業中に課された問題を、自分の力で解こうと努力すること。また、小テストや宿題で出された問題に積極的に取り組むこと。小テスト・宿題・試験で評価。	20%
模擬試験に取り組み、出題形式に慣れる	間違えた問題は何度も繰り返し復習し、知識が定着するよう努力すること。試験で評価。	20%
評価の方法	3分の2以上出席し、宿題をすべて提出すること。 試験50%、課題提出や小テストの点数25%、受講態度25%	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	漢字の読み	漢字の音読みを中心に練習問題に取り組む。
3	漢字の読み	漢字の訓読みを中心に練習問題に取り組む。
4	漢字の部首	練習問題を解くことで、主な漢字の部首を覚える。
5	熟語の構成	熟語の構成のしかたを理解する。
6	熟語の構成	与えられた漢字を用いて、熟語を作れるようになる。
7	対義語・類義語	対義語、類義語の関係を理解する。
8	四字熟語	四字熟語の組み立てを理解する。
9	四字熟語	練習問題を解くことで、主な四字熟語を覚える。
10	送り仮名	送り仮名のルールを理解する。
11	同音同訓異字	練習問題を解くことで、同音同訓異字を覚える。
12	書き取り	正確に漢字が書けるようになる。
13	書き取り	誤字訂正ができるようになる。
14	模擬試験	本番の形式で模擬問題を解き、自分の弱点を理解する。
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇使用せず。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業時間内にできなかった練習問題は、各自自宅でやっておくこと。

◇指示された問題について、自分で調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇出席回数が全体の3分の2に満たない者は受験停止とする。

◇授業に出席するだけでなく、実際に漢字を覚えることが勉強である。練習問題や宿題は必ず自分の力でやり遂げようとしてほしい。

生命科学	フルタ レイコ 古田 玲子
Life Science	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

ヒトと他の生物との共通点と相違点、がん、若者に蔓延している Sexually Transmitted Infection (S T I : 性感染症)、人畜共通感染症、有害物質、生物毒、臓器移植、生殖医療および生物の多様性について学び、生命現象を理解し、健康を維持するために必要な知識を養うことを目的としています。最先端の研究成果や最近の話題を取り入れながら判りやすく解説していきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
生物学的および医学的な基礎知識を学ぶ	本試験で評価する。人間と他の生物の共通点と相違点、人体の臓器と機能、細胞についての設問に答えられること。	30%
病気の原因、予防について基礎的な知識を学ぶ	本試験で評価する。がん、S T I、人畜共通感染症、有害物質、有害生物について理解していること。実現可能な予防策についての知識が習得できていること。	40%
生命科学全般について理解を深め生命倫理、生物多様性についての意義を考える	本試験で評価する。生命科学に関する資料を読み、正確に理解し、意見が述べられるか。生命科学について、基礎的な知識を習得した上で、臓器移植、生殖医療および生物の多様性について、考えることができていること。	10%
生命科学に関する資料を正確に理解した上で、自分の意見を述べることができる	レポートで評価する。生命科学に関する興味のあるテーマについて、レポートにまとめる。正確に理解し、まとめることができていること。	20%
評価の方法 70%以上の出席を前提とし、本試験80%とレポート20%で評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明およびレポートの作成方法について学ぶ
2	人体の構造と機能	臓器、組織、細胞、遺伝子について学ぶ
3	ヒトと他生物の共通点と相違点	ヒトとイヌ、マウスなどの哺乳類、鳥類、爬虫類、魚類、両生類などの他の生物との共通点と相違点について学ぶ
4	腫瘍についての基礎的知識	腫瘍の発生と遺伝子異常、良性腫瘍と悪性腫瘍（がん）のちがい、原因と予防および検査法について学ぶ
5	早期がんと進行がん	がんの進行度と治療法、予後について学ぶ
6	各臓器のがんⅠ	肺がんについて学ぶ
7	各臓器のがんⅡ	胃がん、大腸がんなどの消化器がんについて学ぶ
8	各臓器のがんⅢ	乳がん、子宮がん（子宮頸がん、子宮体がん）について学ぶ
9	各臓器のがんⅣ	皮膚がんなど、その他のがんについて学ぶ
10	STIについてⅠ	エイズについて学ぶ
11	STIについてⅡ	ヒトパピローマウイルス（HPV）感染症、梅毒、クラミジア感染症など、STIの原因、症状、予防および治療について学ぶ
12	STIについてⅢ	STIについて重要なポイントを確認する
13	有害物質と生物毒	タバコ、麻薬、アスベストなどの有害物質と毒のある生物について学ぶ
14	人畜共通感染症・動物が媒介する感染症	BSE、狂犬病、インフルエンザ、デング熱、エキノコックスなどの人畜共通感染症や動物が媒介する感染症について学ぶ
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇参考資料と用語集を配布する。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇生命科学に関することで話題になっていることの情報収集。

【その他の注意事項】

◇授業に集中し、疑問点は積極的に質問してください。

国際関係論	ヤガワ トシアキ 八川 敏昭
International Relations	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

国際関係論は国際社会において生起するさまざまな事象についての分析をおこなう研究領域である。政治、経済、文化などさまざまな分野でグローバル化が進行し、これらの国際問題に対するわが国の基本姿勢が問われる局面が増大している。こうした現状をふまえ、この講義では、日本をとりまくさまざまな国際関係について、その経緯、現状、課題などを明らかにし、国際社会におけるわが国のありかたを考察するために必要な基礎知識を習得することを目的とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
国際関係全般に関心を持ち、理解できるようになる	設問に対する回答によって評価。 国際関係全般について、授業で教えたことに回答できること。	25%
経済の国際関係に関心を持ち、理解できるようになる	設問に対する回答によって評価。 経済の国際関係について、授業で教えたことに回答できること。	25%
政治・文化などの国際関係に関心を持ち、理解できるようになる	設問に対する回答によって評価。 政治・文化などの国際関係について、授業で教えたことに回答できること。	25%
国際関係の課題について考えるようになる	設問に対する回答によって評価。 国際関係の課題について、客観的な視点で回答できること。	25%
評価の方法	全授業時間の3分の2以上の出席を前提とするが、出席状況・受講態度を勘案し、筆記試験にもとづいて「総合的に」評価するので、成績評価における出席状況・受講態度・筆記試験に対する配分を明示しがたいが、とくに、私語や途中退席の有無などの受講態度を重視するので、受講態度が悪い場合には、それを評価基準に100%反映させ、不合格とする。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	国際関係論の予備知識Ⅰ	第二次世界大戦後の国際関係の変化
2	国際関係論の予備知識Ⅱ	現在の国際関係の概要
3	グローバル化の進展	グローバル化の概要と進展状況
4	貿易	貿易をめぐる国際関係
5	投資	投資をめぐる国際関係
6	通貨	通貨をめぐる国際関係
7	人口	世界の人口問題とそのゆくえ
8	食料	食料をめぐる国際関係
9	エネルギー・資源	エネルギー・資源をめぐる国際関係
10	公害・環境	世界の公害・環境問題とそのゆくえ
11	南北問題	世界の経済格差とそのゆくえ
12	軍事	軍事をめぐる国際関係
13	日本の選択	複雑な国際関係における日本のゆくえ
14	まとめ	国際関係をめぐる世界の課題
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：西川潤『新・世界経済入門』岩波新書

【履修条件等】

◇私語をしないこと。教科書を持参すること（このふたつの条件は絶対に守ること）。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書の該当箇所に目をとおしておくこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

統計学	マツモト ユウキ 松本 勇樹
Statistics	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

人間が生きていくうえではあらゆる局面で意思決定をしなければならない。経験やカンのみで頼って意思決定を行うと誤った意思決定を行う場合が多い。そこで客観的に測定された数値を用いることによって正しい意思決定を行うことができるようになる。本講義ではビジネスで使用する数字や統計の感覚を養うことを持徳的とする。概算や四捨五入などの基本から初めて、割合や変化の仕組みを学ぶ。その後、記述統計学と多変量解析の中から、身近なデータを使用して、統計の考え方について理解する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
数字の感覚を養う	設問に対する回答によって評価する。与えられた問題に対して正しい計算ができるかを評価する。	30%
データを整理する	設問に対する回答によって評価する。与えられた問題に対して決められた基準に従って、データを正しく分類することができるかを評価する。	20%
統計計算を行う	設問に対する回答によって評価する。与えられた問題に対して、正しい計算を行い、その結果からどのようなことが分かるかを評価する。	50%
評価の方法	50%以上の出席を前提として、授業内課題15%、小テスト15%、期末試験70%の合計点で評価する。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	本講義のテーマ、目的・概要、講義方針等を確認する併せて、シラバスに基づく具体的な講義内容を説明する
2	概算と電卓の操作方法	電卓の操作方法を確認するとともに、データを概算で扱う感覚を養う
3	比率	数値を比較するための手法として比率の考え方を習得する
4	変化(1)	指数と倍率について理解する
5	変化(2)	変化率について理解する
6	度数分布	収集したデータを分類し、度数分布表とヒストグラムを作成する
7	代表値	平均とメディアンについて理解する
8	散らばりの代表値(1)	偏差の概念から、標準偏差について理解する
9	小テスト(1)	標準偏差の演習を行い、小テストを実施する
10	標準化・変動係数	平均・標準偏差が異なる2つの分布に属するデータを比較する
11	散布図	2つの変数にどのような関係があるのか散布図を用いて把握する
12	相関係数	2つの変数の関係を1つの数値で表す
13	小テスト(2)	相関係数の復習を行い、小テストを実施する
14	正規分布	代表的な分布である正規分布の性質とその利用法について学ぶ
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇配布資料を使用する。

【履修条件等】

◇継続して受講しないと理解度は高まらないので、休まず出席すること。

√機能がついている12桁以上の電卓を必ず持参すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇配布資料に記載されている問題を必ず解くこと。

【その他の注意事項】

◇繰り返し解説を行うので、数学や計算に対しての過度な恐怖心や思い込みをしないで講義に参加してほしい。

コンピュータ・サイエンス	ハギノ ヒロミチ 萩野 弘道
Computer Science	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

高度情報化社会に対応し、また、本学においてさまざまな科目を学習していくための基礎としてコンピュータを理解し、操作する基礎的なスキルの習得を目指します。そのために、パソコン（Windows）の基本的な操作とその運用に関して必要な知識を学習した後、ワープロソフト（Microsoft Word）を利用した日本語文書の作成、表計算ソフト（Microsoft Excel）を利用した基本的な表計算処理やグラフの作成、プレゼンテーションソフト（Microsoft PowerPoint）を利用した発表用資料の作成などについて実践的な実習をおこないます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
コンピュータを活用するために必要な基礎知識を理解していること	実習中の習熟度によって評価。OSの扱い方やファイルやフォルダの管理等が適切におこなえること。 ブラウザや検索エンジンを使って、効率良く適切な情報を呼び出すことができること。	10%
ワープロソフトでビジネス文書やチラシを作成するためのスキルを身につけていること	実技試験によって評価。文字入力はもちろんのこととして、Microsoft Wordの操作や設定作業を自分の思うままに操れること。表や画像を利用して効果的な文書をレイアウトすることができること。	30%
表計算ソフトの基本を理解し、関数を活用したデータ処理やグラフの作成ができること	実技試験によって評価。Microsoft Excelを操作してワークシートの編集をおこない、関数の利用や罫線を用いた作表ができること。データを効果的に表現するグラフを作成できること。	30%
プレゼンテーションソフトを使って効果的なプレゼン資料が作成できること	実習中の習熟度によって評価。プレゼンテーション用の発表資料をMicrosoft PowerPointを操作して、画像やアニメーションを効果的に導入して作成することができること。	10%
評価の方法	3分の2以上の出席を前提として、試験80%、授業参加度20% (授業参加度は授業中におこなう提出課題の評価も含む)。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	授業の進め方、学内P Cの利用方法、タイピング実習
2	コンピュータの基本操作	Windows の基礎、インターネットの使い方と活用方法
3	Word の操作実習(1)	文字の入力方法、ファイル操作、ページ設定
4	Word の操作実習(2)	書式設定、編集、文字の装飾
5	Word の操作実習(3)	表（罫線）を活用した文書の作成
6	Word の操作実習(4)	画像等を活用した文書のアレンジ
7	Word の総合実習	ビジネス文書を使った Word の総合練習
8	Excel の操作実習(1)	データ入力、基本的なワークシート編集、関数の基本
9	Excel の操作実習(2)	罫線、グラフの作成
10	Excel の操作実習(3)	関数1（IF、RANK 等）、ソート
11	Excel の操作実習(4)	関数2（VLOOKUP、COUNTIF 等）、フィルタ
12	PowerPoint の操作実習(1)	プレゼンテーションの意味、文字や画像の入力方法
13	PowerPoint の操作実習(2)	図形やアニメーションを利用した視覚効果
14	総合練習	練習問題を使った習熟度の確認
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇『30時間でマスター Windows 7 対応 Office2010』実教出版

【履修条件等】

◇コンピュータの初心者を対象としているので、履修条件はとくにない。

ただし、この授業ではキーボード入力を速くするタイピング練習は行わないので、ローマ字入力だけはある程度できることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業の最後に次回の予告をするので、教科書の該当ページに目を通しておいていただきたい。

【その他の注意事項】

◇実習授業であるので、授業に出席しないとコンピュータを操作できないので全出席が基本である。そのため、出席および遅刻に対しては厳格に扱う。遅刻は2回で欠席1回とし、全授業の3分の1（5回）欠席した場合は、本試験を受験停止にする。

コンピュータ概論	ハギノ ヒロミチ 萩野 弘道
Introduction to Computer	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

今では生活の一部となった携帯電話やパソコンはインターネットを通して、世界中のさまざまな情報に瞬時に接することが可能になりました。このような社会の中では、必要な「情報」を収集し、その信憑性や信頼性を見極め、分析・処理をして、日常生活や仕事のシーンで問題を解決していく力、つまり「情報活用力」が必要不可欠となります。

この授業の目的はコンピュータの基本的な用語や知識を理解することです。さらに昨今、問題になっている情報リテラシーに代表される情報モラルと情報セキュリティについては、ビデオ教材も利用しながら具体的な例を示して説明します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
コンピュータのハードウェアについて必要な基礎知識を理解していること	コンピュータ関連の一般用語を理解し、各パーツの役割と構造をふまえた上でのトラブルの対処方法を実践できること。 データの入出力装置および記憶装置の種類と特徴を説明できること。	20%
コンピュータのソフトウェアについて必要な基礎知識を理解していること	OSやアプリケーション等のソフトウェアに関する説明や操作およびトラブルの対処方法を理解していること。 ファイルやフォルダ等の操作と管理方法について理解し、実践できること。	20%
インターネットのしくみと正しい活用方法を理解していること	インターネットの関連用語を説明できること。 ブラウザや電子メールの機能を理解し利用できること。 ネットワーク資源の活用方法と注意点を説明できること。	20%
情報リテラシーについて理解していること	情報セキュリティに関連する用語を説明することができること。 情報端末利用時のマナーと注事事項を理解し、コンピュータウィルスやマルウェアに対しても予防措置がとれること。	20%
評価の方法	3分の2以上の出席を前提として、試験80%、授業参加度20% (授業参加度は授業中におこなう提出課題の評価も含む)。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	授業の進め方
2	ハードウェア(1)	コンピュータを構成するパーツの解説
3	ハードウェア(2)	入力装置の種類と特徴
4	ハードウェア(3)	出力装置の種類と特徴
5	ソフトウェア(1)	OSの種類と特徴
6	ソフトウェア(2)	アプリケーションの種類と操作方法
7	ソフトウェア(3)	ファイルやフォルダの操作と管理方法
8	インターネット(1)	インターネット関連用語の解説
9	インターネット(2)	ブラウザと電子メールの機能と操作
10	インターネット(3)	ネットワークの仕組みと管理方法
11	情報リテラシー(1)	情報セキュリティ関連用語の解説
12	情報リテラシー(2)	インターネットにおけるマナーと注事事項
13	情報リテラシー(3)	コンピュータウイルスやマルウェアの解説
14	総合練習	練習問題を使った習熟度の確認
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教材は毎回、授業時にファイルを配布するので購入不要。

【履修条件等】

◇コンピュータの初心者を対象としているので、履修条件はとくにない。

◇最近のICT動向に関心を持ち、積極的に取り入れようとする探究心を持っていることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業の最後に次回の予告をするので、新聞やインターネット等のメディアによって、その概要を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇この授業ではワープロ、表計算、プレゼンテーション等のソフトウェアの使い方は教えない。希望者はコンピュータリテラシーを履修すること。

◇出席および遅刻に対しては厳格に扱う。遅刻は2回で欠席1回とし、全授業の3分の1欠席した場合は、本試験を受験停止にする。

◇授業内容が連続せず、毎回テーマが異なるので、欠席した場合は授業で配布したファイルを手に入れて自習すること。

多文化理解 I	ナンバ トシキ 難波 俊樹
Multicultural Issues I	選択科目 / 半期 / 2単位

【授業概要】

日本での文化やビジネスを理解するためには、その語彙を理解しなくてはなりません。日本語では漢字、カタカナ、ひらがなが混在してさまざまなバリエーションの語彙があります。本講義は、これから、大学や日本での生活を通じて日本のビジネスや文化への理解を深めるために必要な語彙の学習を行います。また、日本語の豊かな造語力についても理解を深めることで、さまざまなバリエーション、新しい語彙に対応する力を身につけます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
日本の文化とビジネスを理解するために必要な語彙を身につける	基本的な語彙、ビジネス用語、文化を理解するために必要な語彙を理解。	50%
日本語の造語力、語彙の成り立ちへの理解を深める	学んだ語彙の活用力がついたか、学んだ知識を用いて未知の単語の推測ができるか。	30%
日本語と自国語の文化的理解を深める	日本語の語彙学習を通じて、自国語の言語文化と日本語の言語文化の相違点・共通点を理解する。	20%
評価の方法	講義中の参加状況 30% 課題提出 40% 最終確認テスト 30% 3回以上欠席した場合は、単位を認めない。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入講義	本講義の目的と概要の説明
2	経済用語理解（初級）	経済・経営を理解するために必要な語彙の理解
3	経済用語理解（初級）	経済・経営を理解するために必要な語彙の理解
4	日本語文法（初級）	経済・経営・文化を理解するために必要な文法の理解
5	日本語文法（初級）	経済・経営・文化を理解するために必要な文法の理解
6	日本語の造語力	日本語がどのようにして外国文化や新しい概念を取り込んでいくかの理解
7	日本語の造語力	日本語がどのようにして外国文化や新しい概念を取り込んでいくかの理解
8	中間評価	前半に学んだ事項の確認テスト
9	アニメ・マンガの理解	日本のアニメやマンガを語彙を通じて考察する
10	日本語文法（中級）	経済・経営・文化を理解するために必要な文法の理解
11	日本語文法（中級）	経済・経営・文化を理解するために必要な文法の理解
12	経済用語理解（中級）	経済・経営を理解するために必要な語彙の理解
13	用語集の作成	これまでに学んだことを使って、用語集を作成
14	用語集の作成	これまでに学んだことを使って、用語集を作成
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：とくに教科書は指定せず、資料・課題は随時配布する。

【履修条件等】

◇教員から履修の指示があった者に限る。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業時に、その都度指示する。

◇日常的に周囲で使われている日本語の単語に注意を払う。

とくに後半は、専門科目で用いられる単語に注意する。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

多文化理解Ⅱ	ナンバ トシキ 難波 俊樹
Multicultural Issues Ⅱ	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

日本での文化やビジネスを理解するためには、その語彙を理解しなくてはなりません。日本語では漢字、カタカナ、ひらがなが混在してさまざまなバリエーションの語彙があります。本講義は、これから、大学や日本での生活を通じて日本のビジネスや文化への理解を深めるために必要な語彙の学習をさらに深めます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
日本の文化とビジネスを理解するために必要な語彙を身につける	ビジネス用語、経済、文化を理解するために必要な語彙を理解。	50%
日本語と自国語の文化的理解を深める	日本語の語彙学習を通じて、自国語の言語文化と日本語の言語文化の相違点・共通点を理解する。	30%
日本語文化を伝える	自国語の言語文化と日本語の言語文化の相違点・共通点を理解したうえで、プレゼンテーションができる。	20%
評価の方法	講義中の参加状況 30% 課題提出 20% プレゼンテーション 20% 最終確認テスト 30% 3回以上欠席した場合は、単位を認めない。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	導入講義	本講義の目的と概要の説明
2	経済用語理解（上級）	経済・経営を理解するために必要な語彙の理解
3	経済用語理解（上級）	経済・経営を理解するために必要な語彙の理解
4	カタカナ語理解	経済・経営・文化を理解するために必要な語彙の理解
5	カタカナ語理解	経済・経営・文化を理解するために必要な語彙の理解
6	日本語文法（上級）	経済・経営・文化を理解するために必要な語彙の理解
7	日本語文法（上級）	経済・経営・文化を理解するために必要な語彙の理解
8	中間評価	前半に学んだ事項の確認テスト
9	アニメ・マンガの理解	日本のアニメやマンガを、語彙を通じて考察する
10	日本文化用語理解	日本の文化・伝統を理解するための語彙の理解
11	日本文化用語理解	日本の文化・伝統を理解するための語彙の理解
12	プレゼンテーション	日本の文化を留学生の母国に伝える資料の作成（準備）
13	プレゼンテーション	日本の文化を留学生の母国に伝える資料の作成（資料作成）
14	プレゼンテーション	日本の文化を留学生の母国に伝える資料の作成（発表）
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：とくに教科書は指定せず、資料・課題は随時配布する。

【履修条件等】

◇教員から履修の指示があった者に限る。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業時に、その都度指示する。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

多文化理解Ⅲ	シミズ トシキ 清水 俊樹 フジモト マナブ 藤本 学
Multicultural Issues III	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

本講義では、ハラール／ムスリム市場に関する理解の促進と異文化を含めた市場における事業開発ノウハウの習得による事業機会の考察を深めることを目的とします。

事業開発とは、**Business Development** と訳される概念です。技術、サービスアイデアなどをもとに、それを事業化するために必要な全て（市場調査、資金調達、戦略、提携、広告宣伝など）を行うことによって事業は開発され、それ自体を事業開発行為と呼びます。

本講義では、現在18億人／200兆円の市場規模というイスラム圏での事業開発に関して包括的に取り上げます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
1) ハラール／ムスリム市場に関する理解	本講義を通して得られるハラール／ムスリム市場に関する多岐に渡る動向を十分に理解ができているか？ 評価方法は講義での貢献およびレポート提出を前提とする。	35%
2) 同市場における事業アイデアの創造・独自性とその倫理的な整理	ハラール／ムスリム市場における事業アイデアとその実現性や事業性を十分に整理、説明できているか？ 評価方法は講義での貢献およびレポート提出を前提とする。	35%
3) グループワークによる事業アイデアの提案	本講義を通して得られるハラール／ムスリム市場に関する情報をもとに、独自の事業アイデアの提案ができるか？ 評価方法はグループワークでのパフォーマンスを中心にいきます。	30%
評価の方法	この授業では、各講義での貢献、学期末に提出義務のある期末レポート、およびグループワークでのパフォーマンスによる採点で評価します（定性的・定量的な理解に関するレポートが35%、独自のアイデアとその論理的な構成・説明力に関するレポートが35%、グループワークによる事業アイデア提案のパフォーマンスが30%を目安とします）。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入講義	本講義の全体構成と目的等の説明
2	事業開発の概論	事業開発の概論に関する講義
3	事業開発の具体事例	事業開発の具体的な事例に関する講義
4	世界の市場環境の把握	世界市場の現状および今後の見通しに関する講義
5	ムスリム市場の把握	ハラール／ムスリム市場の現状と今後の見通しの説明
6	イスラム教の理解(1)	イスラム教の概念的な整理
7	イスラム教の理解(2)	実際のイスラム教徒の生活の紹介
8	事例の紹介(1)	ハラール／ムスリム市場における“アウトバウンド”に関連する先行企業の成功・失敗事例の紹介
9	事例の紹介(2)	ハラール／ムスリム市場における“インバウンド”に関連する先行企業の成功・失敗事例の紹介
10	中間の総括	ハラール／ムスリム市場への事業仮説検討に必要な構成要件の整理および前半講義の総括
11	グループワーク	ハラール／ムスリム市場参入の戦略仮説の検討
12	グループワーク	ASEAN 市場でのイノベーション・事業機会の検討
13	イスラム金融の紹介	イスラム金融の仕組みとイスラムビジネスのリスクの整理
14	講義の復習とグループワーク	期末レポートに向けた講義の振り返り、および事業機会の考察に関するグループワーク
15	期末レポート	学習達成度の確認を目的とした期末レポートの実施

【使用教材】

◇教科書：とくにありません。毎講義、必要な資料は準備されています。

【履修条件等】

◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇本講義では、多角的な視点が求められ、講義を通して紹介される参考文献などは時間を見つけて事前に学習してください。また、インターネットなどでもさまざまな事例が紹介されていますので、各講義の中で触れられた内容などに関しては各自で興味を持って調べるなりすることをお勧めします。

【その他の注意事項】

◇本講義では、答えがない分野における考察、検討を重要視します。そのために必要な情報などは講義を通して得られますが、講義で得られた情報をもとにしたアイデア、その妥当性などの検討は自分の頭で考えることが求められます。講義で得られた情報を記憶することしか行いたくない学生は、この講義には向かないと考えられます。一方で、さまざまな文化、宗教、歴史、価値観などに興味を持ち、自らの経験などを踏まえたアイデアを考えることが好きな学生にとっては、ハラール／ムスリム市場における最先端の情報が得られると考えられ、履修をお勧めします。

多文化理解IV	ナンバ トシキ 難波 俊樹
Multicultural Issues IV	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

留学生を対象とする本講義では、自国文化、自国言語との比較によって、日本の現代文化・伝統文化や日本語への理解を深めていくことを目的とします。日本文化を理解することを通じて、それに必要な日本語の読解力と聴解力を、自国の文化を説明することを通じて、それに必要な会話力と文章力を学習します。

日本でビジネスを行う、日本とビジネスを行う上でも日本文化の理解と、異文化と自国文化の相違点を見出すことは重要だと考えられます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
日本文化を理解するために必要な日本語力を身につける	メディアなどを通じて日本の現代文化や伝統文化などを理解するために必要な読解力、聴解力、語彙力を身につける。	40%
自国文化を日本語で説明するための日本語力を身につける	自国の文化を日本語で説明するために必要な会話力、文章力を身につける。	40%
自国文化と異文化の共通点と相違点を見出す	日本文化と自国の文化の共通点と相違点を見出すことができる。	20%
評価の方法	講義中の参加状況 30% 課題提出 40% 最終確認テスト 30% 3回以上欠席した場合は、単位を認めない。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入講義	本講義の目的と概要の説明
2	日本文化理解	メディアを通じての日本理解
3	日本文化理解	メディアを通じての日本理解
4	日本文化理解	メディアを通じての日本理解
5	日本文化理解	メディアを通じての日本理解
6	日本文化理解	日本の現代文化・習慣を自国文化と比較し理解
7	日本文化理解	日本の現代文化・習慣を自国文化と比較し理解
8	中間評価	前半に学んだ事項の確認テスト
9	相互の文化理解	自国の文化を日本語でレポート
10	相互の文化理解	自国の文化を日本語でレポート
11	相互の文化理解	自国の文化を日本語でレポート
12	プレゼンテーション	自国の文化を日本語で発表する（資料作成）
13	プレゼンテーション	自国の文化を日本語で発表する（資料作成）
14	プレゼンテーション	自国の文化を日本語で発表する（発表と質疑応答）
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：とくに教科書は指定せず、資料・課題は随時配布する。

【履修条件等】

◇教員から履修の指示があった者に限る。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業時に、その都度指示する。

◇日常的に周囲で使われている日本語に注意を払う。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

多文化理解 V	ナンバ トシキ 難波 俊樹
Multicultural Issues V	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

留学生を対象とする本講義では、自国文化、自国言語との比較によって、日本の現代文化・伝統文化や日本語への理解を深めていくことを目的とします。日本文化を理解することを通じて、それに必要な日本語の読解力と聴解力を、自国の文化を説明することを通じて、それをビジネスレベルで説明できるためのコミュニケーション力と文章力を学習します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
日本文化を理解するために必要な日本語力を身につける	メディアなどを通じて日本の現代文化や伝統文化などを理解するために必要な読解力、聴解力、語彙力を身につける。	40%
自国文化を日本語で説明するための日本語力を身につける	自国の文化をビジネスレベルを意識しながら、日本語で説明するために必要な会話力、文章力を身につける。	40%
日本文化と異文化の共通点と相違点を見出す	日本文化と欧米の文化の共通点と相違点を見出すことができる。	20%
評価の方法 講義中の参加状況 30% 課題提出 40% 最終確認テスト 30% 3回以上欠席した場合は、単位を認めない。		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入講義	本講義の目的と概要の説明
2	日本文化理解	メディアを通じての日本理解
3	日本文化理解	メディアを通じての日本理解
4	日本文化理解	メディアを通じての日本理解
5	日本文化理解	メディアを通じての日本理解
6	日本文化理解	日本の現代文化・習慣を欧米文化と比較し理解
7	日本文化理解	日本の現代文化・習慣を欧米文化と比較し理解
8	中間評価	前半に学んだ事項の確認テスト
9	相互の文化理解	自国の文化を日本語でレポート（文章作成）
10	相互の文化理解	自国の文化を日本語でレポート（相互評価）
11	相互の文化理解	自国の文化を日本語でレポート（振り返り）
12	プレゼンテーション	自国の文化を日本人向けにガイドするパンフレット作成（準備）
13	プレゼンテーション	自国の文化を日本人向けにガイドするパンフレット作成（資料作成）
14	プレゼンテーション	自国の文化を日本人向けにガイドするパンフレット作成（発表と質疑応答）
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：とくに教科書は指定せず、資料・課題は随時配布する。

【履修条件等】

◇教員から履修の指示があった者に限る。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業時に、その都度指示する。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

健康と運動 I	イノウエ コウト 井上 航人
Health and Sports I	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

講義では、運動が身体に及ぼす影響や効果をはじめ、生活習慣病・栄養・トレーニング・スポーツの持つ意義等々、社会生活に必要な健康安全の知識および能力について関心と理解を深める。

実技では、バスケットボール、バドミントン等のゲームを中心に、集団生活の体験と、公共心の大切さを会得させ、生涯にわたって楽しく豊かな生活ができるよう、運動実践の能力や態度を育成する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
運動が身体におよぼす影響・運動の必要性を理解し、自己管理につながる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 健康の三原則（運動・栄養・休養）の理解と、身体活動の必要性についての知識を有すること	20%
現代社会で問題となっている疾病とその予防方法を理解し、自己管理につながる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 日本全体で取り組んでいる生活習慣病の理解と、その予防についての知識、および健康的な食生活についての知識を有すること	20%
運動の実践を通して、思考力・判断力・表現力およびコミュニケーション能力を身につけて行動ができること	授業（実技）への意欲・態度・関心度・マナー・実技テスト等々、総合的に評価。 他者との関わり合いを重視し、相互の存在を認め合い、思いやりのある人間性を築き、コミュニケーションを積極的にとることができること	30%
自己管理を行い、積極的に授業に参加することができること	実技への出席状況と取り組み方によって評価。 体調管理と服装の準備に留意し、積極的な心構えで行動することができること	30%
評価の方法	70%以上の出席を前提として、レポート40%、授業への取り組み方30%、授業態度・マナー20%、実技テスト10%	

【授業計画】

回	テーマ・内容
1	ガイダンス：授業方針・評価について
2	実技：集団型スポーツ①、②
3	集団の団結力が試されるスポーツ種目：バスケットボールやダブルダッチ等を題材
4	に学ぶ
5	(履修者の人数により、適時スポーツ種目を変更する場合がある)
6	
7	
8	講義：①運動と健康の関係について
9	②生活習慣病について
10	実技：ネット型スポーツ①、②
11	小集団のネット型スポーツ種目：バドミントンや卓球等を題材に学ぶ
12	(履修者の人数により、適時スポーツ種目を変更する場合がある)
13	
14	
15	

【使用教材】

◇教科書：未定。

【履修条件等】

◇授業方針・マナーを守れる者。

◇室内履き・運動着の準備ができる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日頃から健康に関する情報を積極的に入手する努力をすること。

◇60分間の運動ができるよう授業以外にも身体を動かす時間を持つこと。

【その他の注意事項】

◇学内に個人ロッカー設備がないため、運動に必要な服装・室内シューズは毎回持参すること。

健康と運動 I	タジマ トシミ 田島 外志美
Health and Sports I	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

講義では、運動が身体におよぼす基本的な影響と効果の理解を深め、運動の必要性を学ぶ。さらに、近年若者に増加している性感染症などの疾病の理解と、予防するための知識を学ぶ。学んだ内容を論理的に整理し、レポート作成スキルの習得を目指す。

実技では体力トレーニングやストレッチの他、生涯にわたって手軽に継続できる運動を中心に実施する。同時に豊かな情操をもち、高度な社会生活に適応できる人間の育成を目指し、協力・コミュニケーションを促す種目を選択し、実践する。

実技で身体を動かすだけでなく、講義において運動の必要性の理解を深めることも大切なポイントとしている。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
運動が身体におよぼす影響・運動の必要性を理解し、自己管理につながる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 健康三原則（運動・栄養・休養）の理解し、健康を維持するための知識を有すること。	20%
現代社会で問題となっている疾病理解と、その予防について理解し、自己管理につながる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 若者で問題となっている性感染症（STD）に関する正しい知識と、その予防法についての知識を有すること。	20%
多様な価値観を有する人同士がコミュニケーションをとり、協力してグループの成長に携わる行動ができること	実技内の行動、試合成績によって評価。 誰とでもグループを組み、その中で必要な状況を把握し、行動することができる。現状を少しでも良い状況にするためのコミュニケーションを積極的とることができること。	30%
自己管理を行い積極的に授業に参加することができること	実技への出席や取り組み状況によって評価。 体調管理と服装の準備、月1回の測定（体脂肪・血圧・BMI）ができること。	30%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、 レポート40%、講義時の課題への取り組み30%、グループワーク30%		

【授業計画】

回	テーマ・内容
1	ガイダンス：授業方針・評価について 現状把握：体力年齢テスト、体脂肪・血圧測定
2	実技：集団型スポーツ①② } 集団の団結力が試されるスポーツ種目：アルティメット、フットサル等を題材に学ぶ
7	
8	講義①：健康と運動の関係について（健康の三原則と運動） } 講義②：疾病から身体を守る（性感染症の現状把握、予防法について）
9	
10	実技：ネット型スポーツ①～③ } 小集団のネット型スポーツ種目：卓球、バドミントン等を題材に学ぶ
14	
15	総括・達成度の確認 今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

◇参考書：二上貞夫・高明勝利他共著『健康と体育・スポーツ』東京富士大学

【履修条件等】

◇授業方針・マナーを守れる者。

◇室内履き・運動着の準備ができる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日頃から健康に関する情報を積極的に入手する努力をすること。

◇70分間の運動ができるよう授業以外にも身体を動かす時間を持つこと。

【その他の注意事項】

◇学内に個人ロッカー設備がないため、運動に必要な服装・室内シューズは毎回持参すること。

健康と運動 I	ニシムラ タクジ 西村 卓二
Health and Sports I	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

実技の卓球では、マシンと多球練習を導入し「正しいフォームづくり」をめざしてさらに、競技力を高めるために、総当たりリーグ戦（試合）を実施し、卓球競技の楽しさ、難しさを体得してもらう。他にバスケット、バドミントン競技も実施する。講義は健康維持や生涯にわたって健康な生活が実現できる知識を教授する（レポート提出）。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
卓球競技における特性の理解度	卓球の各技術を紹介し、練習を通じて成長度をチェックし、とくにラリーが続けられることを評価ポイントとする。	30%
各技術を段階的にマスターしているか	マシン、多球練習等により、より正確に強く打球できるか（スピード・コントロール・コース・スピン）を計る。	30%
ゲーム（試合）	①試合における戦術、技術対応力を評価する。 ②試合における精神的強さ、闘争心の評価。	20%
①他の種目の取り組み ②レポート提出	バスケット、バドミントンなどからの身体能力をチェックする。 健康維持に関する知識の学習。	20%
評価の方法 マナー30%、試合成績30%、レポート提出40%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス：授業方針の説明	卓球部選手による各技術の紹介演技
2	卓球競技の歴史、特性説明	「回転」、「スピード」、「コース」の特性を理解する。
3	ラケット、ラバー、グリップ、	腰のひねり、軸足、肘の角度を注意して何本続けら
4	スタンス、フリーハンドの効	れるか記録をとる。前後・左右の動き、足の運び方
5	用、フォアハンドストローク、	の注意点。動く側、動かす側の注意点とコースの打
6	スマッシュ、フットワーク（左	ち分け（ストレート、クロス、ミドル）。スピードと
	右・前後）	正確さを追求する。
7	ショート（ブロック）	肘の屈伸を使う。角度、打球点を注意して、スピー
8	ショートカット（ツツキ）	ドをあげる。手首を使い、ボールの真下をこする。
9		ナナメ回転、下回転、横回転をマスターする。
10	サーブ、レシーブ	回転の種類による返球方法、角度調整を工夫する。
11		多様な回転サーブを学習する（コース、速さ、種
		類）。
12	ゲーム（試合）	試合ルールの説明、審判法の説明。シングル3ゲー
13		ムのリーグ戦を実施。試合の組み立て、戦術の駆け
14		引き、間の取り方を教授する。
15	バドミントン・バスケット	卓球以外の競技種目を実施し、身体能力をチェック
		する。

【使用教材】

- ◇西村卓二著『確実に上達する卓球（改訂版）』実業之日本社
- ◇必要に応じて資料を配付する。

【履修条件等】

- ◇マナーを守れる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇日常の体調管理を徹底して故障なく受講すること。

【その他の注意事項】

- ◇室内履き（シューズ）、運動のできる準備をして出席のこと。

健康と運動Ⅱ	イノウエ コウト 井上 航人
Health and Sports II	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

講義では、運動が身体に及ぼす影響や効果をはじめ、生活習慣病・栄養・トレーニング・スポーツの持つ意義等々、社会生活に必要な健康安全の知識および能力について関心と理解を深める。

実技では、バスケットボール、バドミントン等のゲームを中心に、集団生活の体験と、公共心の大切さを会得させ、生涯にわたって楽しく豊かな生活ができるよう、運動実践の能力や態度を育成する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
運動が身体におよぼす影響・運動の必要性を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 健康の三原則（運動・栄養・休養）の理解と、身体活動の必要性についての知識を有すること	20%
現代社会で問題となっている疾病とその予防方法を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 日本全体で取り組んでいる生活習慣病の理解と、その予防についての知識、および健康的な食生活についての知識を有すること	20%
運動の実践を通して、思考力・判断力・表現力およびコミュニケーション能力を身につけて行動ができること	授業（実技）への意欲・態度・関心度・マナー・実技テスト等々、総合的に評価。 他者との関わり合いを重視し、相互の存在を認め合い、思いやりのある人間性を築き、コミュニケーションを積極的にとることができること	30%
自己管理を行い、積極的に授業に参加することができること	実技への出席状況と取り組み方によって評価。 体調管理と服装の準備に留意し、積極的な心構えで行動することができること	30%
評価の方法	70%以上の出席を前提として、レポート40%、授業への取り組み方30%、授業態度・マナー20%、実技テスト10%	

【授業計画】

回	テーマ・内容
1	ガイダンス：授業方針・評価について
2	実技：集団型スポーツ①、②
3	集団の団結力が試されるスポーツ種目：アルティメットやフットサル等を題材に学
4	ぶ
5	(履修者の人数により、適時スポーツ種目を変更する場合がある)
6	
7	
8	講義：①基礎代謝について
9	②性感染症について
10	実技：ネット型スポーツ①、②
11	小集団のネット型スポーツ種目：ソフトバレーやバドミントン等を題材に学ぶ
12	(履修者の人数により、適時スポーツ種目を変更する場合がある)
13	
14	
15	

【使用教材】

◇教科書：未定。

【履修条件等】

◇授業方針・マナーを守れる者。

◇室内履き・運動着の準備ができる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日頃から健康に関する情報を積極的に入手する努力をすること。

◇60分間の運動ができるよう授業以外にも身体を動かす時間を持つこと。

【その他の注意事項】

◇学内に個人ロッカー設備がないため、運動に必要な服装・室内シューズは毎回持参すること。

健康と運動Ⅱ	タジマ トシミ 田島 外志美
Health and Sports Ⅱ	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

講義では、運動が身体におよぼす基本的な影響と効果の理解を深め、運動の必要性を学ぶ。さらに、近年増加している生活習慣病の理解と、予防するための運動方法を学ぶ。学んだ内容を論理的に整理し、レポート作成スキルの習得を目指す。

実技では体力トレーニングやストレッチの他、生涯にわたって手軽に継続できる運動を中心に実施する。同時に豊かな情操をもち、高度な社会生活に適応できる人間の育成を目指し、協力・コミュニケーションを促す種目を選択し、実践する。

実技で身体を動かすだけでなく、講義において運動の必要性の理解を深めることも大切なポイントとしている。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
運動が身体におよぼす影響・運動の必要性を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 基礎代謝を高め、太り難い身体を維持する知識を有すること。	20%
現代社会で問題となっている疾病理解と、その予防について理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 日本全体で取り組んでいる生活習慣病に関する正しい知識と、その予防法についての知識を有すること。	20%
多様な価値観を有する人同士がコミュニケーションをとり、協力してグループの成長に携わる行動ができること	実技内の行動、試合成績によって評価。 誰とでもグループを組み、その中で必要な状況を把握し、行動することができる。現状を少しでも良い状況にするためのコミュニケーションを積極的とることができること。	30%
自己管理を行い積極的に授業に参加することができること	実技への出席や取り組み状況によって評価。 体調管理と服装の準備、月1回の測定（体脂肪・血圧・BMI）ができること。	30%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、 レポート40%、講義時の課題への取り組み30%、グループワーク30%		

【授業計画】

回	テーマ・内容
1	ガイダンス：授業方針・評価について 現状把握：体力年齢テスト、体脂肪・血圧測定
2	実技：集団型スポーツ①② } 集団の団結力が試されるスポーツ種目：バスケットボール、ダブルダッチ等を題材
7	に学ぶ
8	講義①：健康と運動の関係について（基礎代謝と運動） } 講義②：疾病から身体を守る（生活習慣病と運動）
9	
10	実技：ネット型スポーツ①～③ } 小集団のネット型スポーツ種目：ソフトバレーボール、インディアカ等を題材に学
14	ぶ
15	総括・達成度の確認 今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

◇参考書：二上貞夫・高明勝利他共著『健康と体育・スポーツ』東京富士大学

【履修条件等】

◇授業方針・マナーを守れる者。

◇室内履き・運動着の準備ができる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日頃から健康に関する情報を積極的に入手する努力をすること。

◇70分間の運動ができるよう授業以外にも身体を動かす時間を持つこと。

【その他の注意事項】

◇学内に個人ロッカー設備がないため、運動に必要な服装・室内シューズは毎回持参すること。

健康と運動Ⅱ	ニシムラ タクジ 西村 卓二
Health and Sports Ⅱ	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

実技の卓球では、マシンと多球練習による「正しいフォームづくり」をめざしてさらに、競技力を高めるために、総当たりリーグ戦（試合）を実施し、卓球競技の楽しさ、難しさを体得してもらう。またダブルスのゲームを行い、パートナーとの協調性を高める。

他にバスケット、バドミントン競技も実施し身体能力をチェックする。講義は健康維持や生涯にわたって健康な生活が実現できる知識を教授する（レポート提出）。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
卓球競技の特性を理解すること	卓球競技の各技術を紹介し、授業を通じて成長度をチェックし、特にラリーが続けられるかを評価のポイントとする。	30%
各技術を段階的にマスターしているか	スピード、回転、コースを正確にして相手コートに打球できるかを計る。	30%
ゲーム（試合）	①試合における戦術の理解度、対応力を評価する。 ②対戦相手に対する闘争心の評価。	20%
①他の種目の取り組み ②レポート提出	バスケット、バドミントンなどからの身体能力のチェックする。 健康維持に関する知識の習得。	20%
評価の方法 マナー30%、試合成績30%、レポート提出40%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス：授業方針の説明	卓球部選手による各技術の紹介演技
2	卓球競技の歴史、特性説明	「回転」、「スピード」、「コース」の特性を理解する。
3	ラケット、ラバー、グリップ、	腰のひねり、軸足、肘の角度を注意して何本続けられるか記録をとる。動く側と動かす側の注意点。コースを打ち分けられるか、スピードを追求する。
4	スタンス、フリーハンドの効	
5	用、フォアハンドストローク、	
6	スマッシュ、フットワーク（左右・前後）	
7	ショート（ブロック）	肘の屈伸を使い、角度と打球点を注意する。
8	ショートカット（ツツキ）	手首を使い、ボールの真下をこする（切る）。
9		ナナ目、横、下回転をマスターする。
10	サーブ、レシーブ	多種多様な点を工夫する（速さ、コース変化に注意）。 回転の種類による返球方法の注意点。
11		
12	ゲーム（試合）	試合ルールの説明、審判法の説明。シングル3ゲームを実施する。試合の組み立て、戦術、駆け引き、間の取り方を教授する。
13		
14		
15	バドミントン・バスケット	卓球以外の競技種目を実施し、身体能力をチェックする。

【使用教材】

- ◇西村卓二著『卓球上達テクニック』実業之日本社
- ◇必要に応じて資料を配付する。

【履修条件等】

- ◇マナーを守れる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇日常の体調管理を徹底して故障なく受講することが望ましい。

【その他の注意事項】

- ◇室内履き、運動着の準備をして出席のこと。

日本の社会としくみ（留学生科目）	イトカワ ユウ 糸川 優
Japanese Culture and Society	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業ではディベートという手段を使って、大学での学習に必要な論理的口頭表現力を習得すると同時に、自ら情報を得て深く考え日本語で表現することを、特にグループ活動を通して完成することを目指す。他の学生と協力しながらディベートを体験し、他の人の意見を理解した上で自分の意見を論理的に筋道立てて述べる練習をする。また他の学生の陳述を論理性に照らし合わせて評価する能力も養う。このようなグループ活動を通して、日本の文化や日本人の考え方を学ぶ。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
授業に積極的に参加し効果的にグループ活動を推し進める	授業内で個人作業およびグループ活動に積極的に参加し、授業外での作業も含め、円滑なグループ活動に貢献すること。	40%
日本文化を理解し、論理的発表のために資料検索、論理的構成の組み立てなどができる	準備段階でのグループ活動への参加の様子、ディベート発表の時に利用する資料などにより評価する。ディベートの準備に積極的に参加し、必要な資料を検索・選択し、論理を適切に組み立てることができるか否かにより評価する。	20%
適切かつ効果的口頭発表・プレゼンテーションができる。他の学生の口頭発表について適切な評価ができる	適切かつ効果的口頭発表・プレゼンテーションができる。他の学生の口頭発表について適切な評価ができる。	40%
評価の方法 授業とグループへの貢献度40%、課題20%、表現・発表40% ただし、単位取得には最低3分の2以上の出席を必要とする。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ディベートについて	ディベートの概要とグループ形成
2	ディベート体験	ディベート体験
3	ディベート体験	ディベート体験、よりよいディベートのための対策
4	ディベートA	グループ準備
5	ディベートA	ディベートA
6	ディベートA	ディベートA
7	ディベートA	振り返り
8	ディベートA	グループ準備
9	ディベートA	ディベートB
10	ディベートB	ディベートB
11	ディベートB	振り返り
12	ディベートB	グループ準備
13	ディベートB	ディベートC
14	ディベートB	ディベートC
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括

【使用教材】

◇教科書は使用しない。必要に応じて資料を授業で配布する。

【履修条件等】

◇授業は学期を通じてグループの協働学習なので、遅刻欠席をしないこと。メンバーと協力し合って意欲的に準備や発表に取り組むこと。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇ディベートの準備として、必要に応じて、グループ内の相談・資料検索を授業外でもすることがある。

【その他の注意事項】

◇学期中の欠席が5回を越えた場合は、ディベート等に参加しても単位は認めない。

◇上記の授業計画は、グループ編成の都合などから、受講人数などを勘案して変更することがある。

日本の社会としくみ（留学生科目）	オクヤマ タカユキ 奥山 貴之
Japanese Culture and Society	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業ではグループディスカッションという手段を使って、自分の考えをまとめて発信する力、他者の考えを聞いて自分の考えと比較する力を身につけること、また、そこから考えを発展させ視野を広げることを目的とする。他の学生と協力しながらグループディスカッションを行い、他の人の意見を理解した上で自分の意見を論理的に筋道立てて述べる練習をする。このようなグループ活動を通して、社会的なトピックについての知識も深めていく。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
授業に積極的に参加しグループで意見を交換する	グループ活動に積極的に参加し、円滑なグループ活動に貢献すること。	35%
グループで出た意見をまとめて発表する	グループで出た意見をまとめ、発表する。	20%
振り返りの記入	ディスカッション→クラス全体での共有、その後、その日に気付きや感想を振り返りとしてまとめる。	20%
ディスカッションしたテーマで小論文を書く	ディスカッションを通して得た知識や、深まった思えを小論文としてまとめる。	25%
評価の方法 授業とグループへの貢献度35%、発表25%、課題15%、小論文25% ただし、単位取得には最低3分の2以上の出席を必要とする。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	グループディスカッションについて	グループディスカッション導入
2	ディスカッション①	テーマ1
3	ディスカッション②	テーマ2
4	ディスカッション③	テーマ3
5	ディスカッション④	テーマ4
6	ディスカッション⑤	テーマ5
7	ディスカッション⑥	テーマ6
8	ディスカッション⑦	テーマ7
9	ディスカッション⑧	テーマ8
10	ディスカッション⑨	テーマ9
11	ディスカッション⑩	テーマ10
12	ディスカッション⑪	テーマ11
13	ディスカッション⑫	テーマ12
14	ディスカッション⑬	テーマ13
15	総括 期末試験	今までの授業の総括と小論文作成

【使用教材】

◇教科書は使用しない。必要に応じて資料を授業で配布する。

【履修条件等】

◇授業は学期を通じてグループの協働学習なので、遅刻欠席をしないこと。メンバーと協力し合って意欲的に話し合いをすること。話し合いの相手を尊重する姿勢を持つこと。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇必要に応じて指示する。

【その他の注意事項】

◇学期中の欠席が5回を越えた場合は、単位は認めない。

◇上記の授業計画は、グループ編成の都合などから、受講人数などを勘案して変更することがある。

インターンシップ I	タカハシ テツヤ 高橋 哲也
Internship I	認定科目／認定／1単位

【授業概要】

インターンシップという「社会経験・就業体験」を通して、自分自身の専攻およびキャリアに関する実務的知識を深め、専門知識の習得、キャリアプランを考えていくことを目指します。今年度より受講のスタイルが変更され、より挑戦しやすくなったので是非活用して欲しい。詳しくは【その他の注意事項】を熟読すること。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
インターンシップ参加の心構え、社会人としてのマナーを身につける	適切な手続きにてインターンシップに参加すること。 (インターンシップはアルバイトでもボランティアでもないことを自覚するように)	25%
インターンシップにおいて実社会の現状を把握し、実務的知識を深め、自己のキャリアプランを構築する	インターンシップでの就業体験を通じて、自らのキャリアについて考え、そのことを表現できるか。 提出されたインターンシップ実習報告書と実習先からの評価を基に、実習に対する取り組み姿勢を評価する。	50%
就業体験の内容を今後の学生生活への取り組みに生かせるか	就業体験の結果を他者に伝える。	25%
評価の方法 就業体験、実習報告書の提出		

【授業計画】

回	テーマ
1	説明会：インターンシップ概要説明
2	企業研究・業界研究 エントリーシート作成 } インターンシップ希望企業へのエントリー
14	現場での就業体験 インターンシップ先担当者からのフィードバックおよび反省
15	結果報告：インターンシップ報告書の提出

【使用教材】

◇必要に応じて適宜配付する。

【履修条件等】

◇1年生の履修希望者も可能な限り「就職特講」内での基礎知識の充足を求める。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇社会人としてビジネスマナー。

◇ビジネスレベルのパソコンスキルに少しでも近づけること。

【その他の注意事項】

◇今年度より履修方法が大幅に変更になったので注意。

◇毎月開催予定の「インターンシップ説明会」に参加し、一般的なインターンシップの手続きを身につける。

◇履修許可を行う本学キャリア・学生支援センターへの報告・連絡・相談を行うこと。
万が一、連絡が取れなくなった場合は、受講取り消しとなるので注意すること。

◇1ヶ月以上のインターンシップに参加する場合には、報酬が発生することが予想される。報酬のあるインターンシップでの単位認定は不可である。

インターンシップⅡ	タカハシ テツヤ 高橋 哲也
Internship II	認定科目／認定／1単位

【授業概要】

インターンシップという「社会経験・就業体験」を通して、自分自身の専攻およびキャリアに関する実務的知識を深め、専門知識の習得、キャリアプランを考えていくことを目指します。今年度より受講のスタイルが変更され、より挑戦しやすくなったので是非活用して欲しい。詳しくは【その他の注意事項】を熟読すること。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
インターンシップ参加の心構え、社会人としてのマナーを身につける	適切な手続きにてインターンシップに参加すること。 (インターンシップはアルバイトでもボランティアでもないことを自覚するように)	25%
インターンシップにおいて実社会の現状を把握し、実務的知識を深め、自己のキャリアプランを構築する	インターンシップでの就業体験を通じて、自らのキャリアについて考え、そのことを表現できるか。 提出されたインターンシップ実習報告書と実習先からの評価を基に、実習に対する取り組み姿勢を評価する。	50%
就業体験の内容を今後の学生生活への取り組みに生かせるか	就業体験の結果を他者に伝える。	25%
評価の方法 就業体験、実習報告書の提出		

【授業計画】

回	テーマ
1	説明会：インターンシップ概要説明
2	企業研究・業界研究 エントリーシート作成 インターンシップ希望企業へのエントリー
14	現場での就業体験 インターンシップ先担当者からのフィードバックおよび反省
15	結果報告：インターンシップ報告書の提出

【使用教材】

◇必要に応じて適宜配付する。

【履修条件等】

◇1年生の履修希望者も可能な限り「就職特講」内での基礎知識の充足を求める。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇社会人としてビジネスマナー。

◇ビジネスレベルのパソコンスキルに少しでも近づけること。

【その他の注意事項】

◇今年度より履修方法が大幅に変更になったので注意。

◇毎月開催予定の「インターンシップ説明会」に参加し、一般的なインターンシップの手続きを身につける。

◇履修許可を行う本学キャリア・学生支援センターへの報告・連絡・相談を行うこと。
万が一、連絡が取れなくなった場合は、受講取り消しとなるので注意すること。

◇1ヶ月以上のインターンシップに参加する場合には、報酬が発生することが予想される。報酬のあるインターンシップでの単位認定は不可である。

自己開発 I ・ II ・ III ・ IV ・ V ・ VI	
Self-advancement I ・ II ・ III ・ IV ・ V ・ VI	認定科目／認定／各 1 単位

【本科目の目的】

本学学生の自立心養成、キャリア形成を支援するための一環として、この科目を設置する。すなわち、学生が、本学での教育に立脚し、資格取得、ボランティアなど、学外で修得してきた一定の学習成果に対して単位を認定する。

【単位を認定する資格】

在学中に取得した資格。具体的には「技能審査の対象資格・検定表」に記載する資格を対象とする。ただし、取得後3か月以内に単位認定の申請をすることが必要（1月末までに届けたものについては当該年度の「自己開発」科目の単位として、それ以降の申請については、次年度の単位として認定する）。

例：公認会計士、税理士、中小企業診断士、情報システムITパスポート試験、実用英語技能検定、秘書技能検定、簿記検定、販売士、経営学検定試験、TOEIC等

【ボランティア】

担当教員宛に「参加申請書類」（受入先または仲介先の概要紹介書、活動計画書などを添付）を提出し、担当教員の承認を得たボランティア活動を「単位を認定するボランティア」とする。活動期間は、通算5日40時間以上とする。

承認を得たら、すみやかに「賠償責任保険」（340円。学生支援担当窓口扱）に加入し、活動終了後は、2週間以内に、「単位認定申請書」に受入先または仲介先の発行するボランティア活動修了証あるいは証明書（写しでも可）を添え、担当教員に届け出ることを要する。

◇本科目における「単位認定のプロセス」や「修得可能な単位数」「技能審査の対象資格・検定表」などについては『学生要覧』を参照してください。

外 国 語 科 目

平成29年度

経営学部経営学科

< 1 年生用 >

東京富士大学

英会話 I	アベ マキコ 阿部 牧子
English Conversation I	基礎科目／半期／1単位

【授業概要】

身近なトピックについての日常会話や、海外旅行でのサバイバル英語を習得できるよう、リスニングとスピーキングに焦点をあてて指導します。スピーキングに関しては、ペア・ワークやロール・プレイなどを積極的に導入し、学生が英語を話す機会を増やしていきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
海外旅行を楽しむために不可欠な英会話を場面に応じて実践することができる	会話テスト、および授業中の学生同士の対話練習によって評価する。相手の話す内容を理解し、適切な受け答えができること。相手が理解できる英語を話すことができること。	40%
上記目標に到達するためにボキャブラリー（語彙）を増やす	単語テストおよび期末の筆記試験によって評価する。正確な綴りで書けること。	20%
クラスメートがゆっくり、はっきりと話せば、内容を理解し、簡単なやりとりができる	試験、および授業中のペアワークによって評価する。コミュニケーションがとれているかどうか。	20%
日本についての基本的な質問（食生活、言葉など）に答えたり、知っている情報を伝えたりすることができる	授業課題およびホームワークによって評価する。日本についての基本的な情報を伝えることができること。自分自身のことを例にして、わかりやすく説明することができること。	20%
評価の方法 70%以上の出席を前提として発話30%、提出物20%、試験50%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業概要説明・自己紹介など
2	飛行機で乗務員に意思表示する	Mike is on a plane to the U. K.
3	疑問文： Could/May/Wh-	
4	入国審査	Hideo and Naoki answer questions at Immigration.
5	入国審査	疑問文: Wh-and How
6	家族について話す	Eri and Lauren talk about their families.
7	中間試験	スピーキングテスト
8	中間試験	筆記試験と解説
9	許可を得る・提供する	Miki asks Helen about what she can use in her flat.
10	レストランで食べる	Hideo and Naoki eat out.
11	レストランで食べる	疑問文: Would you like …? Could/may …
12	道を尋ねる	Miki is lost in London and asks for directions.
13	道を尋ねる	命令形・場所を示す前置詞
14	口頭試験	スピーキングテスト
15	本試験（筆記）	試験と解説

【使用教材】

◇ PASSPORT 1 (SECOND EDITION)

著者： Angelica Buckingham & Lewis Lansford, OXFORD

【履修条件等】

◇辞書を必ず持参すること（電子辞書可）。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書を音読し、添付CDの当該部分を聞く。単語の意味を調べておく。

【その他の注意事項】

◇会話は interaction です。授業に参加することが非常に大切です。原則として10回出席していなければ本試験の受験を許可しません。

◇円滑なグループ学習活動のため、座席を指定することがあります。

英会話 I	キムラ ナオキ 木村 直樹
English Conversation I	基礎科目／半期／1単位

【授業概要】

この講座では、簡単な英語での会話に必要なフレーズや文法知識を身につけて、後々必要となる「4技能」の基礎を築くことを目標とします。単語の知識はあっても、それをどうつなげて、どのように言いたいことを表すのかがよくわからない、という学生は少なからずいます。したがって、まずは比較的優しいレベルの単語や構文を使って、高校までの単元をしっかりと定着させる、「基礎を補うこと」「次のステップへの土台を作ること」がこの授業の目標です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
英語コミュニケーションに必要な構文、文法知識を身につける	テキストや講義で解説した事項を筆記試験および確認テストで評価します。	25%
会話の流れを聞いて理解し、適切な表現で応答できるようになる	授業中のリスニング課題、ロールプレイでの英語表現の適切性に基づいて評価します。	25%
学んだ表現を応用して会話を組み立てることができるようになる	テキスト内の課題に取り組み、授業中の発表によって評価します。	25%
学んだ内容を応用して自分の考えを英語で書けるようになる	学期内一度の課題提出によって評価します。	25%
評価の方法	上記の学習目標全てを期末試験で70%の換算とし、その他に課題、発表、授業での積極性などを30%、計100%で評価する。 『学生要覧』記載事項に準拠し、授業への出席は3分の2以上を前提とする。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	初回ガイダンス	講義内容や評価方法の説明、レベルチェック
2	Unit 1 : First Day of Class	最初の授業を舞台とした表現例
3	(same as above)	be 動詞
4	Unit 2 : I Love Bread!	好きなものと嫌いなものの表し方
5	(same as above)	一般動詞
6	Unit 3 : Pizza Time	習慣を表す表現
7	(same as above)	可算名詞と不可算名詞
8	Unit 4 : Not Just a Baker	仕事についての表現
9	(same as above)	代名詞
10	Unit 5 : What's Wrong?	自分の体調にまつわる表現例
11	(same as above)	一般動詞の過去形
12	Unit 6 : It Won't Hurt	自分の生活を表す表現
13	(same as above)	進行形
14	Unit 7 : I Feel Healthy!	買い物についての表現
15	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テストを実施

【使用教材】

◇ Hickling, R., & Usukura, M. (2017) English Aid. 金星堂

【履修条件等】

◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教員の指定に応じて、次回の授業までに課題や予習を準備してくること

【その他の注意事項】

◇授業では iPad を使うアクティビティーがあるので、配布後は毎回必ず持参すること。
ダウンロードするアプリについての詳細は、後日授業内で指示します。

英会話 I	ジャネット ジョンソン Janet Johnson
English Conversation I	基礎科目／半期／1単位

【授業概要】

この授業では、英会話の基礎を学びます。クラスでは、リズムをつけたスピーキングのウォームアップをしたり、日常生活でのコミュニケーションに大切なさまざまな会話を練習したりします。また、教科書のリスニング問題や歌を使ってリスニング練習をすることにより耳のトレーニングをします。インタビュー形式の活動やロールプレイも行います。さらに、海外の習慣を学ぶこともあります。自分が育った文化における習慣や行事についても英語で説明できるようにしましょう。楽しんで言葉を練習し、単語やフレーズを学び、リスニング力を高めることが、この授業の目的です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
適切な挨拶の表現が使える、自分について話したり相手のことを尋ねることができる、さまざまな職業が分かる、値段や素材を尋ねるなど買い物の場面で必要な会話ができる、複数形や距離を示す表現が使える	筆記試験（教科書やウォームアップに出てくる単語、フレーズ、表現を含む）、リスニング試験（教科書の内容に関連のある会話より出題）。	30%
外国の通貨を使って買い物をする、アメリカの通貨に親しむ、好き嫌いについて自分の意見を言う、招待を受ける・断る、意見を言う、天気について話す	筆記試験（関連のある単語試験を含む）、質問に英語で答える、リスニング試験（教科書の会話例とクラスで学んだ問題より出題）。	30%
授業への積極的な参加	授業への積極的な参加は、語学の習得と上達に大変重要です。すべての口頭および筆記での活動に積極的に参加してください。	25%
課題：宿題、自習、ミニテスト、出席	宿題、予習、自主学習、定期的に行われるミニテスト。出席は必須です。	15%
評価の方法 筆記およびリスニングテスト30%×2、 授業への参加25%、宿題・自主学習15%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation	Explanation of class content and procedures. Warm ups.
2	Unit 1 Greetings	Personal info. Present tense statements. Pair work.
3	Greetings cont. Self Introductions	Speaking exercises. Giving and asking for information.
4	Unit 2 Occupations	Occupations. Describing types of work. Conversation and grammar exercises.
5	Unit 2 cont.	Jobs. Speaking practice. Self-study exercises.
6	Unit 3 Shopping	Asking prices. Describing items by proximity, color, type. Stating preferences.
7	Money	Learning and identifying USA currency.
8	Review Units 1 – 3	Review exercises and preparation for first Short test.
9	Short Test	Test on Units 1 – 3
10	Unit 4 Entertainment	Describing entertainment likes and dislikes.
11	Unit 4 cont.	Invitations: Extending and declining
12	Unit 5 Families	Identifying family relationships.
13	Unit 6 cont.	Talking about families.
14	Review Units 4 & 5	Review points, vocabulary and grammar.
15	Final Test	Final test

【使用教材】

- ◇ Interchange : English for international communication Book 1
Jack C. Richards with Jonathan Hull and Susan Proctor
Cambridge University Press

【履修条件等】

- ◇ 授業で行う活動に積極的に参加すること（とくに会話練習）。会話練習やその他授業で行う活動についていけるよう、出席は必須です。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇ とくになし。

【その他の注意事項】

- ◇ 授業で扱う内容の予習と復習はしっかり行ってください。また、リスニング力アップのため、教科書付属のCDを使って練習をしてください。宿題はきちんと済ませ、単語の暗記もすること。ペアでの会話練習は積極的に参加すること。

英会話 I	<small>ワタナベ キミヨ</small> 渡邊 きみ代
English Conversation I	基礎科目／半期／1単位

【授業概要】

本講義では、身近な話題を取り上げ、実際に役立つ表現を用いて、自分の意見を伝えられるようになることを目的とする。さらに、毎回の授業において、ボキャブラリー（語彙）を増やし、英語に親しむ態度を育成する。話すことによって自分を理解してもらうこと、聞き取ることによって相手を理解することからはじめ、日常生活、海外旅行で用いる慣用的な表現など、さまざまな状況を設定しペア・ワークやロール・プレイなどを行う。積極的に参加すること。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
日常生活あるいは海外旅行に必要な英語表現を身につける	会話テスト、授業中のペア・ワークやロール・プレイによって評価を行なう。 発音、イントネーションに気をつけ、間違いなく、よどみのない、わかりやすい英語を話すことができるようになる。	40%
応用力を身につける	授業で学んだ表現を応用できる。 自分で文章を構成し、正しいスペルで書くことができる。	30%
語彙力の強化	筆記テストによって評価する。 授業で学んだ表現、ボキャブラリーを正しく理解、記憶し、用いることができる。	30%
評価の方法 遅刻、テキストを持ってこないことは、授業参加度の減点となる。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	Introduction	授業の進め方、評価についての説明
2	あいさつ	be 動詞と一般動詞
3		いろいろなパターンのあいさつ
4	自己紹介	疑問文と否定文
5		自分を知ってもらう
6	感想を言う	現在形と過去形
7		人、物事についての意見を述べる
8	会話テスト	
9	注文する	可算名詞と不可算名詞
10		レストランでの会話
11	お願いをする	代名詞
12		いろいろなパターンの依頼
13	復習	
14	会話テスト	二人一組の対話形式あるいは教員の質問に答える形式
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：Hello New York 著者：Takehisa Tsuchiya, Yoshihiko Honda, Braven Smillie

【履修条件等】

◇遅刻、テキストを持ってこないことは、授業参加度の減点となる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇テキストの該当ユニットに目を通す。

◇毎回の授業前には、前回の内容を復習しておくこと。授業内で、復習すべき問題などを指示する。

【その他の注意事項】

◇評価項目にある授業参加度とは、能動的に授業に取り組む姿勢（授業態度を含む）、授業外学習、理解度などから総合的に評価することとしており、単に授業に「出席」するだけでは、その要件を満たさない。したがって、授業に支障をきたすもの（私語、携帯電話など）を禁ずることはもちろんのこと、積極的な参加を期待する。

英会話Ⅱ	アベ マキコ 阿部 牧子
English Conversation II	基礎科目／半期／1単位

【授業概要】

身近なトピックについての日常会話や、海外旅行でのサバイバル英語を習得できるよう、リスニングとスピーキングに焦点をあてて指導します。スピーキングに関しては、ペア・ワークやロール・プレイなどを積極的に導入し、学生が英語を話す機会を増やしていきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
海外旅行を楽しむために不可欠な英会話を場面に応じて実践することができる	会話テスト、および授業中の学生同士の対話練習によって評価する。相手の話す内容を理解し、適切な受け答えができること。相手が理解できる英語を話すことができること。	40%
上記目標に到達するためにボキャブラリー（語彙）を増やす	単語テストおよび期末の筆記試験によって評価する。正確な綴りで書けること。	20%
クラスメートがゆっくり、はっきりと話せば、内容を理解し、簡単なやりとりができる	試験、および授業中のペアワークによって評価する。コミュニケーションがとれているかどうか。	20%
日本についての基本的な質問（食生活、言葉など）に答えたり、知っている情報を伝えたりすることができる	授業課題およびホームワークによって評価する。日本についての基本的な情報を伝えることができること。自分自身のことを例にして、わかりやすく説明することができること。	20%
評価の方法 70%以上の出席を前提として発話30%、提出物20%、試験50%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	銀行でお金を引き出す	“Can I ~?” (～できますか)
2		hundred, thousand を含む数字の表現
3	ホテルの部屋を予約する	電話で部屋をリクエストする.
4		電話で相手とコミュニケーションする
5	薬を買う	薬局で薬を買うために症状を伝える
6		症状を伝える表現
7	中間試験	スピーキングテスト
8	中間試験	筆記試験と解説
9	相手の出身を聞く、自分の出	自分の出身地を説明する
10	身について話す	街や場所の特徴を伝える表現
11	興味について話す	スポーツ、音楽、食べ物などの好き嫌いについて話す
12	お土産を買う	ストリートマーケットで買い物をする時の表現
13		サイズや色の語い・値段交渉の表現
14	口頭試験	スピーキングテスト
15	本試験 (筆記)	試験と解説

【使用教材】

◇ PASSPORT 1 ((SECOND EDITION))

著者 : Angelica Buckingham & Lewis Lansford, (OXFORD)

【履修条件等】

◇辞書を必ず持参すること (電子辞書可)。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書を音読し、添付CDの当該部分を聞く。単語の意味を調べておく。

【その他の注意事項】

◇会話は interaction です。授業に参加することが非常に大切です。原則として10回出席していなければ本試験の受験を許可しません。

◇円滑なグループ学習活動のため、座席を指定することがあります。

英会話Ⅱ	キムラ ナオキ 木村 直樹
English Conversation II	基礎科目／半期／1単位

【授業概要】

この講座では、引き続き簡単な英語での会話に必要なフレーズや文法知識を身につけて、後々必要となる「4技能」の基礎を築くことを目標とします。単語の知識はあっても、それをどうつなげて、どのように言いたいことを表すのかがよくわからない、という学生は少なからずいます。したがって、まずは比較的優しいレベルの単語や構文を使って、高校までの単元をしっかりと定着させる、「基礎を補うこと」「次のステップへの土台を作ること」がこの授業の目標です（この講座は春学期「英会話Ⅰ」の続きです）。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
英語コミュニケーションに必要な構文、文法知識を身につける	テキストや講義で解説した事項を筆記試験および確認テストで評価します。	25%
会話の流れを聞いて理解し、適切な表現で応答できるようになる	授業中のリスニング課題、ロールプレイでの英語表現の適切性に基づいて評価します。	25%
学んだ表現を応用して会話を組み立てることができるようになる	テキスト内の課題に取り組み、授業中の発表によって評価します。	25%
学んだ内容を応用して自分の考えを英語で書けるようになる	学期内一度の課題提出によって評価します。	25%
評価の方法	上記の学習目標全てを期末試験で70%の換算とし、その他に課題、発表、授業での積極性などを30%、計100%で評価する。 『学生要覧』記載事項に準拠し、授業への出席は3分の2以上を前提とする。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	初回ガイダンス	春学期の復習、チェック問題
2	Unit 8 : Small Talk	フィットネスセンターでの会話
3	(same as above)	未来形
4	Unit 9 : Weight Down, Up!	今までの経緯の説明
5	(same as above)	現在完了形
6	Unit10 : It's Nice... And...	物や人を描写する
7	(same as above)	比較表現
8	Unit11 : Hitomi Wants...	服装や髪形を表す表現例
9	(same as above)	接続詞
10	Unit12 : Shopping for Clothes	自分のしたいことや必要なものの表し方
11	(same as above)	動名詞・不定詞
12	Unit13 : I'm Meeting a Friend	自分の予定を表す表現
13	(same as above)	疑問文
14	Unit14 : Date Night	できることやすべきことの表し方
15	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テストを実施

【使用教材】

◇ Hickling, R. , & Usukura, M. (2017) English Aid. 金星堂

【履修条件等】

◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教員の指定に応じて、次回の授業までに課題や予習を準備してくること。

【その他の注意事項】

◇授業では iPad を使うアクティビティーがあるので、配布後は毎回必ず持参すること。
ダウンロードするアプリについての詳細は、後日授業内で指示します。

英会話Ⅱ	ジャネット ジョンソン Janet Johnson
English Conversation II	基礎科目／半期／1単位

【授業概要】

「英会話Ⅱ」では、引き続き英会話の基礎を学んでいきます。クラスでは、リズムをつけたスピーキングのウォームアップをしたり、日常生活でのコミュニケーションに大切なさまざまな会話を練習したりします。また、教科書のリスニング問題や歌を使ってリスニング練習をすることにより耳のトレーニングをします。インタビュー形式の活動やロールプレイも行います。さらに、海外の習慣を学ぶこともあります。自分が育った文化における習慣や行事についても英語で説明できるようにしましょう。楽しんで言葉を練習し、単語やフレーズを学び、リスニング力を高めることが、この授業の目的です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
適切な挨拶の表現が使える、自分について話したり相手のことを尋ねることができる、さまざまな職業が分かる、値段や素材を尋ねるなど買い物の場面で必要な会話ができる、複数形や距離を示す表現が使える	筆記試験（教科書やウォームアップに出てくる単語、フレーズ、表現を含む）、リスニング試験（教科書の内容に関連のある会話より出題）。	30%
外国の通貨を使って買い物をする、アメリカの通貨に親しむ、好き嫌いについて自分の意見を言う、招待を受ける・断る、意見を言う、天気について話す	筆記試験（関連のある単語試験を含む）、質問に英語で答える、リスニング試験（教科書の会話例とクラスで学んだ問題より出題）。	30%
授業への積極的な参加	授業への積極的な参加は、語学の習得と上達に大変重要です。すべての口頭および筆記での活動に積極的に参加してください。	25%
課題：宿題、自習、ミニテスト、出席	宿題、予習、自主学習、定期的に行われるミニテスト。出席は必須です。	15%
評価の方法 筆記およびリスニングテスト30%×2、授業への参加25%、宿題・自主学習15%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Summer Report	Greetings and report of summer activities.
2	Review Unit 5	Review of last material covered in English I.
3	Unit 6 Leisure	Asking about locations and places. Listening. Repeating.
4	Unit 6	Survey on leisure activities.
5	Cross-cultural topic	Halloween. Customs, history, essential warning vocabulary
6	Unit 7 Weekend	Practice Past tense. Wh-questions.
7	Unit 7	Additional conversation and grammar practice.
8	Review Units 6 & 7	Review exercises and preparation for test.
9	Short Test	Test on Units 6 & 7
10	Unit 8 Cities-Places	Locations, neighborhoods. There is/ There are practice.
11	Unit 8 cont.	Finding out about new areas.
12	Unit 9 Appearance	Describing appearances. Listening practice.
13	Unit 9 cont.	Present continuous practice. Describing pictures.
14	Review 8 & 9	Review of materials and preparation for Final test.
15	Final Test	Final test

【使用教材】

- ◇ Interchange : English for international communication Book 1
Jack C. Richards with Jonathan Hull and Susan Proctor
Cambridge University Press

【履修条件等】

- ◇授業で行う活動に積極的に参加すること（とくに会話練習）。会話練習やその他授業で行う活動についていけるよう、出席は必須です。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇とくになし。

【その他の注意事項】

- ◇授業で扱う内容の予習と復習はしっかり行ってください。また、リスニング力アップのため、教科書付属のCDを使って練習をしてください。宿題はきちんと済ませ、単語の暗記もすること。ペアでの会話練習は積極的に参加すること。

英会話Ⅱ	ワタナベ キミヨ 渡邊 きみ代
English Conversation II	基礎科目／半期／1単位

【授業概要】

本講義では、「英会話Ⅰ」に続き、身近な話題を取り上げ、実際に役立つ表現を用いて、自分の意見を伝えられるようになることを目的とする。さらに、毎回の授業において、ボキャブラリー（語彙）を増やし、英語に親しむ態度を育成する。話すことによって自分を理解してもらうこと、聞き取ることによって相手を理解することから始め、日常生活、海外旅行で用いる慣用的な表現など、さまざまな状況を設定しペア・ワークやロール・プレイなどを行う。積極的に参加すること。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
日常生活あるいは海外旅行に必要な英語表現を身につける	会話テスト、授業中のペア・ワークやロール・プレイによって評価を行なう。 発音、イントネーションに気をつけ、間違いなく、よどみのない、わかりやすい英語を話すことができるようになる。	40%
応用力を身につける	授業で学んだ表現を応用できる。 自分で文章を構成し、正しいスペルで書くことができる。	30%
語彙力の強化	筆記テストによって評価する。 授業で学んだ表現、ボキャブラリーを正しく理解、記憶し、用いることができる。	30%
評価の方法 遅刻、テキストを持ってこないことは、授業参加度の減点となる。		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ウォーミングアップ	夏休みのできごとについて話す
2	場所を説明する	前置詞
3		場所と時間を説明する
4	人を描写する	形容詞と副詞
5		人の性格や特徴を表現する
6	体調を述べる	助動詞
7		健康、病気の表現
8	会話テスト	
9	誘う	進行形
10		誘ったり、薦めたりする
11	誘いを断る	接続詞
12		配慮ある断り方
13	復習	
14	会話テスト	二人一組の対話形式あるいは教員の質問に答える形式
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：Hello New York 著者：Takehisa Tsuchiya, Yoshihiko Honda, Braven Smillie

【履修条件等】

◇遅刻、テキストを持ってこないことは、授業参加度の減点となる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇テキストの該当ユニットに目を通す。

◇毎回の授業前には、前回の内容を復習しておくこと。授業内で、復習すべき問題などを指示する。

【その他の注意事項】

◇評価項目にある授業参加度とは、能動的に授業に取り組む姿勢（授業態度を含む）、授業外学習、理解度などから総合的に評価することとしており、単に授業に「出席」するだけでは、その要件を満たさない。したがって、授業に支障をきたすもの（私語、携帯電話など）を禁ずることはもちろんのこと、積極的な参加を期待する。

日本語 I (留学生科目)	イトカワ ユウ 糸川 優
Japanese Language I	基礎科目 / 半期 / 2 単位

【授業概要】

大学での学習活動に必要な文章能力を身につけることを目標にする授業である。まず、文構成や句読点、記号など、基本的な文章作法を学習する。文単位、段落単位の表現を学び、意見文・評論文・説明文など種類別にある程度の長さの文章構成を練習する。さらに、考えたことを論理的構成で文章にまとめる方法など、レポート作成にも役立つ基礎知識を身につける。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基本的な文章作法を身につける	基本的な表記の方法、文体の統一、句読点や記号の使い方、文単位の正確さなどを評価する。	20%
種類別の文章構成を身につける	与えられたテーマに沿って、意見文、説明文、評論文などの指定された種類の文章構成ができているか否かを評価する。わかりやすさや論理性、根拠や反論の効果的な使い方も評価する。	40%
考えたことを論理的に文章にまとめる方法を身につける	課題に対して、さまざまな角度から思考し、データを使って根拠を示しながら考えを論理的にまとめることができるかどうかを評価する。	40%
<p>評価の方法 授業参加度30%、課題40%、本試験30%</p> <p>学期の3分の1を越えて欠席した場合は、単位を認めない。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	日本語能力評価テスト	日本語能力評価テスト
2	日本語能力評価テスト	日本語能力評価テスト
3	基本的な文章作法	文章の基本
4	文体	文体と表現レベル
5	文章	文章構成
6	段落	段落構成
7	意見文	意見文と事実文の区別
8	意見文	意見文の構成と練習
9	説明文	説明文の構成
10	説明文	説明文の練習
11	論理的文章	論理的文章構成
12	論理的文章	データ活用と根拠の提示
13	論理的文章	論理的文章作文
14	まとめ	復習
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は指定しないが、必要に応じて授業内で資料を配布する。

◇参考図書：浜田麻里『大学生と留学生のための論文ワークブック』

くろしお出版、1997年

【履修条件等】

◇意欲を持って学習に取り組み、課題を期限までに提出すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇その都度授業内で指示する。

【その他の注意事項】

◇授業外で文章の練習をする時間が必要になるので、必要に応じて課題を課す。

課題は指定された授業の日に提出すること。それ以外は加点しない。

◇上記の授業計画は受講人数などを勘案して変更することがある。

日本語 I (留学生科目)	オクヤマ タカユキ 奥山 貴之
Japanese Language I	基礎科目 / 半期 / 2 単位

【授業概要】

大学での学習活動に必要な文章能力を身につけることを目標にする授業である。まず、文構成や句読点、記号など、基本的な文章作法を学習する。文単位、段落単位の表現を学び、意見文・評論文・説明文など種類別にある程度の長さの文章構成を練習する。さらに、考えたことを論理的構成で文章にまとめる方法など、レポート作成にも役立つ基礎知識を身につける。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基本的な文章作法を身につける	基本的な表記の方法、文体の統一、句読点や記号の使い方、文単位の正確さなどを評価する。	20%
種類別の文章構成を身につける	与えられたテーマに沿って、意見文、説明文、評論文などの指定された種類の文章構成ができているか否かを評価する。わかりやすさや論理性、根拠や反論の効果的な使い方も評価する。	40%
考えたことを論理的に文章にまとめる方法を身につける	課題に対して、さまざまな角度から思考し、データを使って根拠を示しながら考えを論理的にまとめることができるかどうかを評価する。	40%
評価の方法 授業参加度30%、課題40%、本試験30% 学期の3分の1を越えて欠席した場合は、単位を認めない。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	日本語能力評価テスト	日本語能力評価テスト
2	日本語能力評価テスト	日本語能力評価テスト
3	基本的な文章作法	文章の基本
4	文体	文体と表現レベル
5	文章	文章構成
6	段落	段落構成
7	意見文	意見文と事実文の区別
8	意見文	意見文の構成と練習
9	説明文	説明文の構成
10	説明文	説明文の練習
11	論理的文章	論理的文章構成
12	論理的文章	データ活用と根拠の提示
13	論理的文章	論理的文章作文
14	まとめ	復習
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は指定しないが、必要に応じて授業内で資料を配布する。

◇参考書：浜田麻里『大学生と留学生のための論文ワークブック』

くろしお出版、1997年

【履修条件等】

◇意欲を持って学習に取り組み、課題を期限までに提出すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇その都度授業内で指示する。

【その他の注意事項】

◇授業外で文章の練習をする時間が必要になるので、必要に応じて課題を課す。

課題は指定された授業の日に提出すること。それ以外は加点しない。

◇上記の授業計画は受講人数などを勘案して変更することがある。

日本語 I (留学生科目)	シオタニ ユミコ 塩谷 由美子
Japanese Language I	基礎科目 / 半期 / 2単位

【授業概要】

大学での学習活動に必要な文章能力を身につけることを目標にする授業である。まず、文構成や句読点、記号など、基本的な文章作法を学習する。文単位、段落単位の表現を学び、意見文・評論文・説明文など種類別にある程度の長さの文章構成を練習する。さらに、考えたことを論理的構成で文章にまとめる方法など、レポート作成にも役立つ基礎知識を身につける。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基本的な文章作法を身につける	基本的な表記の方法、文体の統一、句読点や記号の使い方、文単位の正確さなどを評価する。	20%
種類別の文章構成を身につける	与えられたテーマに沿って、意見文、説明文、評論文などの指定された種類の文章構成ができているか否かを評価する。わかりやすさや論理性、根拠や反論の効果的な使い方も評価する。	40%
考えたことを論理的に文章にまとめる方法を身につける	課題に対して、さまざまな角度から思考し、データを使って根拠を示しながら考えを論理的にまとめることができるかどうかを評価する。	40%
評価の方法 授業参加度30%、課題40%、本試験30% 学期の3分の1を越えて欠席した場合は、単位を認めない。		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	日本語能力評価テスト	日本語能力評価テスト
2	日本語能力評価テスト	日本語能力評価テスト
3	基本的な文章作法	文章の基本
4	文体	文体と表現レベル
5	文章	文章構成
6	段落	段落構成
7	意見文	意見文と事実文の区別
8	意見文	意見文の構成と練習
9	説明文	説明文の構成
10	説明文	説明文の練習
11	論理的文章	論理的文章構成
12	論理的文章	データ活用と根拠の提示
13	論理的文章	論理的文章作文
14	まとめ	復習
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は指定しないが、必要に応じて授業内で資料を配布する。

◇参考図書：浜田麻里『大学生と留学生のための論文ワークブック』

くろしお出版、1997年

【履修条件等】

◇意欲を持って学習に取り組み、課題を期限までに提出すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇その都度授業内で指示する。

【その他の注意事項】

◇授業外で文章の練習をする時間が必要になるので、必要に応じて課題を課す。

課題は指定された授業の日に提出すること。それ以外は加点しない。

◇上記の授業計画は受講人数などを勘案して変更することがある。

英語(初級読解／作文) I	アベ マキコ 阿部 牧子
English Reading & Writing (Basics) I	発展科目／半期／1単位

【授業概要】

この授業では、300語前後の題材を、なるべく日本語を介さず読み進める練習をします。わからない単語は文脈からの推測を試みます。それでも意味がわからない場合は、必ず辞書で確認することが大切です。辞書機能を授業で活用することもあります。

writing は、文構造、基本的文法事項を理解し、理解を定着させるための練習問題をくり返します。各章の最後では文をつなげて1つのパラグラフを書き上げることができるようになります。また、正確に発音できるように、別教材を使って発音の練習をします。この機会に自信の発音を聴き直し見直しましょう。

英語を「いち」からやり直したいから本科目を取ろうとしている学生は、授業外での勉強にも多くの時間をかける覚悟をしてください。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
300語程度の読み物の主旨、大意を把握できる	授業での発言、提出物によって評価。わからない単語は文脈から推測できるか。提出物の場合、辞書で調べて正確に理解しているかどうか。	30%
本文でとり上げられたトピックについて意見交換をする	ペア、グループ、またはクラスでの発言によって評価。発言は英語と日本語が混在していても可。発言内容を評価する。	20%
文の語順、品詞、時間表現などについて理解している	教科書の練習問題、パラグラフィティングによって評価。パラグラフィティングは、A（優）／B（良）／C（可）で評価。	30%
外国人が聞いても理解できる発音で英文が読める	自分の発音を録音し、聞き取りにくいと思われる音を確認できる。確認できた音の修正をして音読練習を繰り返す。	20%

評価の方法 発表60%、本試験20%、課題他20%

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業概要説明、読解力確認テスト
2	WRITING	The Sentence/ Capitalization/ Writing about holidays ・音読練習
3	READING	Birthdays around the World ・音読練習
4	WRITING	The Paragraph/ Writing about your birthday ・音読練習
5	READING	Venice/ A Changing City ・音読練習
6	WRITING	Adjectives/ Writing about a City ・音読練習
7	READING	Life Is Good in Iceland ・音読練習
8	WRITING	Adjectives/ The Comparative Form of Adjectives/ The Superlative Form of Adjectives/ Writing about one's country ・音読練習
9	READING	GO to Sleep! ・音読練習
10	WRITING	Using when/ Writing about sleep habits ・音読練習
11	READING	Laughing Out Loud ・音読練習
12	WRITING	Writing about laughing ・音読練習
13	パソコン（WORD）を使って 清書	パソコンルームでパラグラフィティングの原稿を 清書し、プリントアウトして提出する
14	音読	発音、聞き取りやすさの評価を行います
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確 認テストを実施する

【使用教材】

◇ Weaving It Together (third edition)

著者：Milanda Broukal 出版社：CENGAGE Learning

【履修条件等】

◇入学時に配布された iPad を授業で使います。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇指示された教科書部分を読み、大意を把握して授業に臨んでください。

【その他の注意事項】

◇初回の授業で読解力をみるため簡単なテストを行います。

◇円滑なグループ学習・ペア読みのため、座席を指定することがあります。

英語(初級読解／作文) II	アベ マキコ 阿部 牧子
English Reading & Writing (Basics) II	発展科目／半期／1単位

【授業概要】

この授業では、300語前後の題材を、なるべく日本語を介さず読み進める練習をします。わからない単語は文脈からの推測を試みます。それでも意味がわからない場合は、必ず辞書で確認することが大切です。辞書機能を授業で活用することもあります。

writing は、文構造、基本的文法事項を理解し、理解を定着させるための練習問題をくり返します。各章の最後では文をつなげて1つのパラグラフを書き上げることができるようになります。

また、正確に発音できるように、別教材を使って発音の練習をします。この機会に自信の発音を聴き直し見直しましょう。

本講義は「英語 I」の続きです。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
300語程度の読み物の主旨、大意を把握できる	授業での発言、提出物、本試験によって評価。わからない単語は文脈から推測できるか。提出物の場合、辞書で調べて正確に理解しているかどうか。	30%
本文でとり上げられたトピックについて意見交換をする	ペア、グループ、またはクラスでの発言によって評価。発言は英語と日本語が混在していても可。発言内容を評価する。	20%
文の語順、品詞、時間表現などについて理解している	教科書の練習問題、パラグラフィティング、本試験によって評価。パラグラフィティングは、A（優）／B（良）／C（可）で評価。	30%
外国人が聞いても理解できる発音で英文が読める	自分の発音を録音し、聞き取りにくいと思われる音を確認できる。確認できた音の修正をして音読練習を繰り返す。	20%

評価の方法 発表60%、本試験20%、課題他20%

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業概要説明等 音読練習
2	READING	What to Name the Baby, 音読練習
3	WRITING	Count Nouns and Noncount Nouns/ Writing about a special day
4	READING	Eat, Drink, and Knows the Customs, 音読練習
5	WRITING	Prepositions/ Prepositional Phrases/ Writing about a meal
6	READING	Hold Your Nose and Eat, 音読練習
7	WRITING	Writing Instructions/ Writing about a favorite food
8	READING	The World's Most Popular Drink, 音読練習
9	WRITING	The Pronouns it and them/ Writing about a favorite drink
10	READING	Dinner Fresh from the Freezer, 音読練習
11	WRITING	Comparing Things with as ... as/ Writing about microwave
12	READING	The Shepherd's Boy, 音読練習
13	WRITING	Paraphrasing/ Writing a fable
14	WRITING	パソコンルームで WORD を使ってライティングの原稿を清書し、プリントアウトして提出する
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ Weaving It Together (third edition)

著者：Milanda Broukal 出版社：CENGAGE Learning

【履修条件等】

◇入学時に配布された iPad を授業で使います。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇指示された教科書部分を一読し、大意を把握して授業に臨んでください。

【その他の注意事項】

◇円滑なグループ学習・ペア読みのため、座席を指定することがあります。

◇教科書は年度の始め（4月）に購入しておくようにしてください。

TOEIC I	シシド カール 宍戸 カール
TOEIC I	発展科目／半期／2単位

【授業概要】

このクラスは、実用的な英語を身につけてコミュニケーション力をアップしたいと考えている学生、いずれは TOEIC テストに挑戦したいと考えている学生を対象に、TOEIC の基礎的な部分のトレーニングを中心に授業を進めていきます。

TOEIC はリスニング45分、リーディング75分の試験です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
TOEIC テストに出題される頻度の高い単語を習得する	おもに単語テストによって評価する。語彙問題のパターンを把握し、頻出語彙をマスターする。	30%
TOEIC テストに必要なとされる英文読解力を養う	本試験その他によって評価。文法事項の基本パターンを把握し、読解問題の基本的な設問を理解し、解答できること。	30%
TOEIC テストに必要な「聴き取り」ができる	本試験その他によって評価。パート1からパート3の各問題の設問の内容を理解し、正解に必要な情報を聞き取ることができること。	30%
模擬試験のスコアアップ	学期始めと学期末の本試験を比較して（難易度考慮）、評価する。	10%
評価の方法 本試験50%、平常点（単語テストを含む）50%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation	授業の進め方、評価基準等の説明
2	Introduction	模擬テストと解説
3	Activity 1	Shopping (grammar, auxiliaries)
4	Activity 2	Shopping (grammar, auxiliaries)
5	Activity 3	Transportation (grammar, progressives)
6	Activity 4	Transportation (grammar, progressives)
7	Activity 5	Travel (grammar, verb)
8	Activity 6	Travel (grammar, verb)
9	Activity 7	Restaurant (grammar, perfect tenses)
10	Activity 8	Restaurant (grammar, perfect tenses)
11	Activity 9	Health (grammar, tense agreement)
12	Activity10	Health (grammar, tense agreement)
13	Activity11	In the Office (grammar, tag & negative questions)
14	Activity12	In the Office (grammar, tag & negative questions)
15	Examination	本試験および解説

【使用教材】

◇ Barron's ToEIC Bridge Test

【履修条件等】

◇将来的には TOEIC テストを受験したいと考えている人。

◇英語を聞いて理解できるようになるため、努力を惜しまない人。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書に自習用のCDが添付されているので、指示された部分を聴いてくる。

レッスンごとに単語テストをするので、その勉強。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

TOEIC II	シシド カール 宍戸 カール
TOEIC II	発展科目／半期／2単位

【授業概要】

このクラスは、実用的な英語を身につけてコミュニケーション力をアップしたいと考えている学生、いずれは TOEIC テストに挑戦したいと考えている学生を対象に、TOEIC の基礎的な部分のトレーニングを中心に授業を進めていきます。

TOEIC はリスニング45分、リーディング75分の試験です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
TOEIC テストに関する基礎的な単語力を身につける	おもに単語テストによって評価する。語彙問題のパターンを把握し、頻出語彙をマスターする。	30%
TOEIC テストに必要な英文読解力を養う	本試験その他によって評価。文法事項の基本パターンを把握し、読解問題の基本的な設問を理解し、解答できること。	30%
TOEIC テストに必要な「聴き取り」ができること	本試験その他によって評価。パート1からパート3の各問題の設問の内容を理解し、正解に必要な情報を聞き取ることができること。	30%
模擬試験のスコアが上がること	学期始めと学期末の本試験を比較して（難易度考慮）、評価する。	10%
評価の方法 本試験50%、平常点（単語テストを含む）50%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation	授業の進め方、評価基準等の説明
2	Lesson 1	Business and Sales (grammar, negations)
3	Lesson 2	Business and Sales (grammar, negations)
4	Lesson 3	Media/News (grammar, infinitives & gerunds)
5	Lesson 4	Media/News (grammar, infinitives & gerunds)
6	Lesson 5	Economy (grammar, participles)
7	Lesson 6	Economy (grammar, participles)
8	Lesson 7	Advertisements (grammar, passive voice)
9	Lesson 8	Advertisements (grammar, passive voice)
10	Lesson 9	Politics (grammar, pronouns & adverbs)
11	Lesson10	Politics (grammar, pronouns & adverbs)
12	Lesson11;	Environment (grammar, subjective mood)
13	Lesson13	Environment (grammar, subjective mood)
14	Examination	本試験
15	Examination	本試験 (試験問題の解説)

【使用教材】

◇ Barron's ToEIC Bridge Test

【履修条件等】

◇将来的には TOEIC テストを受験したいと考えている人。

◇原則として、「TOEIC I」を履修していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書に自習用のCDが添付されているので、指示された部分を聴いてくる。

レッスンごとに単語テストをするので、その勉強。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

フランス語 I	ノグチ ケイコ 野口 恵子
French I	発展科目／半期／1単位

【授業概要】

フランス語に慣れ親しむ。基礎的な語彙、表現、文法、発音を学んで、口頭および文章による自己紹介や、簡単な会話ができるようになることを目指す。入門期の外国語学習は、耳、口、目、手、そして頭も使う、いわば全身運動である。まずはフランス語を繰り返し聞き、声に出して言ってみよう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基礎的なフランス語を聞いて理解する能力を身につける	数字、単語、表現の聞き取りテストを行う。 CD等で会話を聞き、大意を理解しているか問う。	30%
自己紹介をはじめ、身近な話題について話す能力を身につける	口頭表現において、基本的な発音、語彙、文法の知識が生かされているかを見る。会話形式の練習、会話テストを実施する。	30%
簡単なフランス語で書かれた文を読んで理解する能力を身につける	挨拶、自己紹介、日常会話を文字化したものを読み、まず、大意が取れているか、その後、さらに細かく理解しているか見る。	20%
書き取り、短文作成から始め、身近な話題について文章で表現する能力を身につける	文字・表記の正確さを問う書き取りテストを行う。 習った単語や表現を使って、自分のこと、自分が興味を持っていることに関して短い作文を書く。	20%
評価の方法	定期試験（聞き取り、書き取り、語彙、文法、作文等）50%、平常点（授業への参加度、宿題提出、音読テスト、ディクテーション）50%	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	イントロダクション	アルファベ、つづりと発音、日本語の中のフランス語
2	「私はマリーです」	つづり字記号、リエゾンとアンシェヌマン、名を名乗る
3	「お元気ですか」	挨拶、「はい」「いいえ」
4	「ありがとう」	お礼・お詫び、数字1～20
5	「コーヒー1つお願いします」	不定冠詞、名詞の性と数
6	「それはポールの本です」	定冠詞、部分冠詞
7	「音楽が好きです」	第1群規則動詞 (-er)
8	「ミシェルはテレビを見ません」	否定文
9	「私は学生です」	動詞 être、職業・国籍の言い方
10	「辞書を持っています」	動詞 avoir、数字20～60
11	「黒い上着を着ています」	疑問文、形容詞の位置・語尾変化
12	「今2時半です」	時刻の言い方
13	「パリに行きます」	動詞 aller、前置詞と定冠詞の縮約①、曜日と月の名前
14	「学校に来ます」	動詞 venir、前置詞と定冠詞の縮約②
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇松村博史他著『クロワッサン 基礎からわかるフランス語』朝日出版社、2016年

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし。

【その他の注意事項】

◇授業に積極的に参加すること。

フランス語 I	ミトミ ユウコ 三富 祐子
French I	発展科目／半期／1単位

【授業概要】

全く初めてフランス語を学ぶ者を対象にゼロから始め、初対面を想定しての自己紹介や好みなどを尋ね合うことができることを目指します。教室では、VTR（インターネットでアクセス可能）で自然な会話に触れ、文法理解と練習問題等を行った後、ペア・グループで実践的な会話の練習をします。各課終了後、ポイントをまとめたプリントを使用し充分復習します。「フランス語Ⅱ」と合わせて履修することで、仏検5級受験に必要な知識を得ることができるようにします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
フランス語を読み、理解し、正しく発音できるようにする	授業中の音読、発話と学期末の口頭試験で評価。フランス語特有の発音や、綴り字の読み方、イントネーションの付け方等、フランス人に意思が伝わるフランス語であるか否かを評価基準とする。	20%
フランス語を聞き、理解できるようにする	授業中の質問に対する回答と小テスト、学期末の口頭試験で評価。数字（値段・年齢等）の聞き取り、学習した基本的なフランス語を耳で聞いて理解し返答ができるか否かを評価基準とする。	10%
基本的な文法を理解し、語彙を覚える	授業中の設問に対する回答と、学期末の筆記試験で評価。基本的な（仏検5級程度）文法と語彙を理解し暗記できているかを評価基準とする。	50%
フランス語でコミュニケーションをとる	授業中のペア練習への参加の積極性、学期末の口頭試験で評価。状況に即し、自然な流れで会話ができているか否かを評価基準とする。	20%
評価の方法	8割以上の出席と、口頭試験、筆記試験を受けることを前提に、筆記試験60%、口頭試験20%、課題（配布プリント）提出10%、平常点10%で評価します。詳細については初回授業で説明します。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	<フランスについて>	・アルファベ、綴り字の読み方
2	<フランス語の発音>	・フランス語10単語を覚える
3	Leçon 1 <自己紹介 1 > ・挨拶 ・名前、国籍を言う	・主語人称代名詞と動詞 être ・「はじめまして、私の名は～です」 ・「私は／彼（女）は～人です」 ・数 1～10
4	Leçon 2 <自己紹介 2 >	・規則動詞 habiter 住む
5	・職業を言う ・住んでいる所を言う	・「私は学生です」「彼は俳優です」 ・「私は～に住んでいます」 ・数11～20
6	Leçon 3 <カフェで>	・飲み物、食べ物名と冠詞
7	・カフェで注文し、支払いをする	・否定形「私は～人ではない」
8	・何語を話すか言う	・規則動詞 parler 「話す」の活用 ・数30～60 ・～ユーロ
9	Leçon 7 <好みを言う>	・動詞 aimer
10	・好みを尋ねる ・何が好きか尋ねる ・Il y a ～ 「～がある」	「音楽・スポーツ・～料理が好きです」 程度を言う「大好きです」 「あまり好きではありません」 ・aimer の後の名詞につく定冠詞 ・「高田馬場には～がある」
11	Leçon 4 <兄弟姉妹について>	・動詞 avoir 「ペンを持っている？」 「兄がひとりいます」
12	・～を持っているか、尋ねる ・兄弟がいるかを言う ・年齢を言う	・avoir の否定形「持っていない」 ・疑問文 Est-ce que ～ 「～ですか？」 ・「私は～歳です」
13	口頭試験および解説	・授業中練習した自己紹介（名前、国籍、職業、言語）、音楽、スポーツの好みを尋ね合う
14	Leçon 1～4, Leçon 7 の総復習	復習プリントを使用
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ Café Français カフェ・フランセ

著者：Nicolas Gaillard 他 出版社：朝日出版社

ホームページ <http://cafefrancais.cocolog-nifty.com/hp/>

【履修条件等】

◇フランスまたはフランス語に興味があること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業での学習事項を復習しておくこと。

【その他の注意事項】

◇全出席を心がけること。

フランス語Ⅱ	ノグチ ケイコ 野口 恵子
French II	発展科目／半期／1単位

【授業概要】

「フランス語Ⅰ」に続き、基礎的な語彙や文法の知識を身につけるとともに、コミュニケーション能力をのばすことを目的とする。聞こえてきたフランス語を繰り返して言う練習、聞いて書き取る練習、テキストを声に出して読む練習を行う。身近な話題、興味のある話題について、口頭および文章での確に表現できるようにする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基礎的なフランス語を聞いて理解する能力を身につける	語句の聞き取りテストを行う。CD等で会話を聞き、大意を理解しているか問う。	30%
身近な話題について話す能力を身につける	口頭表現において、基本的な発音、語彙、文法の知識が生かされているかを見る。会話形式の練習、会話テストを実施する。	30%
基本的なフランス語で書かれた文を読んで理解する能力を身につける	テキストの会話文を読み、まず、大意が取れているか、その後、さらに細かく理解しているか見る。	20%
身近な話題について文章で表現する能力を身につける	文字・表記の正確さを問う書き取りテストを行う。習った単語や表現を使って、自分のこと、自分が興味を持っていることに関して短い作文を書く。	20%
評価の方法 定期試験（聞き取り、書き取り、語彙、文法、作文）50% 平常点（授業への参加度、宿題提出、音読・ディクテーション・会話・和訳・仏訳小テスト）50%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「働くつもりです」	動詞 aller の復習、近接未来
2	「食べたばかりです」	動詞 venir の復習、近接過去
3	「ペンをお持ちですか」	疑問文の作り方
4	「私の姉は優しいです」	所有形容詞
5	「私は仕事を終えます」	第2群規則動詞 (-ir)、動詞 partir
6	「宿題を終わらせなさい」	命令形、数字60～
7	「なぜフランス語を勉強しているのですか」	疑問詞 quand、où、comment、pourquoi、qui、que
8	「全部でいくらですか」	動詞 faire、prendre、買い物をする
9	「何をしましたか」	直説法複合過去①（助動詞 avoir を使う動詞）
10	「映画に行きました」	直説法複合過去②（助動詞 être を使う動詞）
11	「どの季節が好きですか」	疑問形容詞 quel、動詞 préférer、vouloir、pouvoir
12	「5時にホテルに着かなくてはいけません」	動詞 devoir、電話をかける
13	「クレールはフランソワーズより背が高い」	比較級
14	「ジャンヌはクラスで一番活発な子です」	最上級、空港での会話
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇松村博史他著『クロワッサン 基礎からわかるフランス語』朝日出版社、2016年

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし。

【その他の注意事項】

◇授業に積極的に参加すること。

フランス語Ⅱ	ミトミ ユウコ 三富 祐子
French II	発展科目／半期／1単位

【授業概要】

「フランス語Ⅰ」を修了、または相当のフランス語の知識のある者を対象とし、「フランス語Ⅰ」で学んだことを土台に、フランス人とのコミュニケーションに必要な基本的な会話の場を広げ、基本的な表現を増やしながら文法事項を学んでいく。授業形態は「フランス語Ⅰ」同様、VTR教材を使用し、スキットの理解、文法解説、発音練習、会話練習を行う。本講座終了後、フランス人との最も基本的なコミュニケーションがとれること、いくつかの場面での実践的な会話ができることを到達目標とする。生きたフランス語に触れるという目的で、教材以外にVTRまたは映画を使用し既習の表現を聞き取る機会を設ける。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
フランス語を読み、理解し、正しく発音できるようにする	授業中の音読、発話と学期末の口頭試験で評価。フランス人に意思が伝わるフランス語であるか否かを評価基準とする。	20%
フランス語を聞き、理解できるようにする	授業中の質問に対する回答と小テスト、学期末の口頭試験で評価。春学期に続き、数字の聞き取り、フランス語での質問に対し返答ができるか否かを評価基準とする。	10%
基本的な文法を理解し、語彙を覚える	授業中の設問に対する回答と、学期末の筆記試験で評価。基本的な（仏検5級程度）文法と語彙を理解し暗記できているかを評価基準とする。	50%
フランス語でコミュニケーションをとる	授業中のペア練習への参加の積極性、学期末の口頭試験で評価。状況に即し、自然な流れで会話ができているか否かを評価基準とする。	20%
評価の方法	8割以上の出席と、口頭試験、筆記試験を受けることを前提に、筆記試験60%、口頭試験20%、課題（配布プリント）提出10%、平常点10%で評価します。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	<春学期の復習> <天候の表現> Leçon 8 II ・天候を言う	・配布プリント使用 ・天候の非人称構文「良い天気です」 「寒く・暑くないです」
2 3	Leçon 9 ・どんなスポーツをするか言う ・朝食について述べる ・否定疑問文に対する「はい」「いいえ」の答え方	・「スポーツはしますか？」 スポーツの名称と部分冠詞 ・「朝食をとりますか?」「～をとります」 食品の名と部分冠詞 ・中性代名詞 <i>en</i> を使って答える
4 5	Leçon10<誘う> ・相手を昼食に誘う ・承諾する・理由を述べ誘いを断る ・場所へ行く手段を言う	・主語 <i>on</i> 「～行こう」 ・場所の名「カフェへ・美術館へ」と前置詞 +冠詞について ・「OK、行こう」「ごめん、授業があるんだ」 ・「何で行こうか?」「歩いて行こう」
6 7 8 9	Leçon11<一日の過ごし方> ・起床から就寝までの一日の主な 行動を言う	・時間の表し方 ・「起床する」「就寝する」(代名動詞) 「普段は、～時に起き、～時に家を出、 ～時に帰宅します」
10 11	Leçon13<レストランで(1)> ・食事の流れについて知る ・メニューを読む ・注文する	・主な食品の名と注文の仕方 ・前菜、主菜、デザート、飲み物を注文する ・複合過去(1)助動詞 <i>avoir</i> 「選びましたか?」
12	口頭試験および解説	授業中練習した会話(朝食、スポーツについて 尋ね合う、誘う)をペアで行う
13	Leçon13<レストランで(2)> ・料理の感想を言う Leçon14 ・過去について語る	・料理の感想を言う(半過去) 「美味しかったです」 ・複合過去(1)助動詞 <i>avoir</i> 「昨日何をしましたか?」
14	Leçon14 ・過去について語る ・総復習	・複合過去(2)助動詞 <i>être</i> 「昨日～へ行きました」 ・復習プリントを使用して総復習
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度 の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇ Café Français カフェ・フランセ
著者：Nicolas Gaillard 他 出版社：朝日出版社
ホームページ <http://cafefrancais.cocolog-nifty.com/hp/>

【履修条件等】

- ◇「フランス語 I」を修了または相当のフランス語の知識のある者。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇授業での学習事項を復習すること。

【その他の注意事項】

- ◇全出席を心がけること。

中国語 I	イノウエ ヨシオ 井上 良雄
Chinese I	発展科目 / 半期 / 1 単位

【授業概要】

日常会話の練習をします。初心者が対象ですから基礎知識はいりません。あまり文法的なことにはふれないで、授業中はどんどん声を出して体で覚えてもらいます。

中国語の学習を通して、中国文化や中国人の生活習慣に親しみ、国際的な視野を広げてほしいと思います。「聞く」授業ではなく、「参加する」授業です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
中国語の基本構造と発音の概要を理解し、発音の基本練習をする	授業中に指名し、回答から理解度を評価する。発音の巧拙は関係ない。発音練習への参加意欲や、集中度を評価する。	20%
自分の名前の中国語発音を発表し、互いに呼び合えるようにする	中国語の辞書で発音記号・意味・用例を調べ、レポートを提出させ評価する。 クラスメートの名前を中国語で呼び合う積極性を評価する。	20%
学生生活のさまざまな場面での会話を想定して、互いに練習をする	家族、学生生活、誕生日、年齢、住所、スポーツ、趣味などについて、一人ひとり発言させ評価する。 また、対話練習の積極性も評価する。 発音の巧拙は関係ない。	30%
試験として、1分間程度の自己紹介スピーチを皆の前で披露する	スピーチの標準形を示すが、オリジナリティーをプラス評価する。発音練習、矯正指導への取り組み姿勢、スピーチマナー、クラスメートの発表を聞く態度も評価する。	30%
評価の方法	上記のように、平常点およびレポート課題評価70%、試験（中国語による自己紹介）評価30%である。 欠席・遅刻は事情を考慮の上、減点（1回につき最大5%）する。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	中国語について	共通語、文字、文の組み立て等
2	発音について(1)	発音の概説（音節、母音、子音、声調、ピンイン）
3	発音について(2)	発音練習（数字、あいさつ、身体、漢詩、自分の名前）
4	あいさつ	あいさつ言葉、人称代名詞、敬称
5	名前(1)	名前の聞き方の注意点、他の常用あいさつ言葉
6	名前(2)	自分の名前のピンイン発表、発音練習
7	家族	“有”の文、数量を尋ねる、人や物を数える単位
8	学生生活	“的”の用法、“是”の文
9	誕生日、年齢	月、日、曜日、西暦の言い方、年齢の聞き方、答え方
10	～に住んでいる	指示代名詞、場所や方向、r化
11	～ができる	“会”の用法、「肯定＋否定」の疑問文
12	自己紹介(1)	趣味、～生まれの～育ち、学校名の言い方
13	自己紹介(2)	質問、個人指導、練習
14	自己紹介(3)	質問、個人指導、練習
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇井上良雄著『中国語のチカラ』東京富士大学

【履修条件等】

◇中国語に興味と関心があり、積極的に授業に参加できる学生。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書の次回学ぶ課を読み、発音しにくい単語、理解できないところをチェックしておいてください。

【その他の注意事項】

◇座席は指定制です。

中国語Ⅱ	イノウエ ヨシオ 井上 良雄
Chinese II	発展科目／半期／1単位

【授業概要】

「中国語Ⅰ」に引き続き、日常会話の練習をします。さまざまな場面を想定して、基本的な単語や簡単な文で受け答えの会話を楽しみましょう。

「中国語Ⅰ」と同様に、聴講型ではなく参加型の授業です。異文化への興味と関心を深め、国際センスを磨いてほしいと思います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
短い自己紹介を、とっさにでも流暢にできるよう練習する	「中国語Ⅰ」の復習として、一人ひとりが皆の前で披露する。話しぶりや表情、パフォーマンスも評価する。	10%
日本のアニメソングの中国語版を題材に、日中の歌詞を比較・分析する	各人が比較・分析の結果や感想を発表する。鑑賞の緻密さ、積極的な参加意欲を評価する。合唱もするが、歌の巧拙は関係ない。協調性を評価する。	10%
日常生活のさまざまな場面での会話を想定して、互いに練習する	再会、勧誘、時刻、経験、電話、決まり文句等について、対話形式でロールプレイングを行い、その積極性、正確性を評価する。発音の巧拙はそれほど重要ではない。	50%
試験として、各人10問の日常会話の口頭試問を行う	これまでに学んだ、30問の設問に対する解答を練習し、一人10問の口頭試問を行う。聴解の正確性、回答の妥当性、反応速度、面接態度等を評価する。	30%
評価の方法	上記のように、平常点評価70%、試験（中国語による口頭試問）評価30%である。 欠席・遅刻は事情を考慮の上、減点（1回につき最大5%）する。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	「中国語 I」の復習	中国語での簡単な自己紹介
2	中国語で歌う	中国語の歌詞を題材に学習
3	再会	“了”の用法、動作の方向
4	～が好き	“得”の用法、“不太好”と“太不好”
5	どうですか？	同意、意向や様子を尋ねる、“上”“下”の特殊な用法
6	時刻・時間	時刻、時間、期間の言い方
7	～から～まで	～したことがある（経験）、出身地と住所地
8	電話をかける(1)	一般的な電話会話
9	電話をかける(2)	電話番号の聞き方、言い方
10	決まり文句(1)	対話での決まり文句
11	決まり文句(2)	ひと言決まり文句、外来語
12	口頭試問(1)	問題の解説、回答例練習
13	口頭試問(2)	問題の解説、回答例練習
14	口頭試問(3)	質問、個人指導
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇井上良雄著『中国語のチカラ』東京富士大学

【履修条件等】

◇中国語に興味と関心があり、積極的に授業に参加できる学生。

◇原則として「中国語 I」を修得した学生。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書の次回学ぶ課を読み、発音しにくい単語、理解できないところをチェックしておいてください。

【その他の注意事項】

◇座席は指定制です。

<p>日本語Ⅱ（留学生科目）</p>	<p>イトカワ ユウ 糸川 優</p>
<p>Japanese Language II</p>	<p>発展科目／半期／2単位</p>

【授業概要】

ビジネス場面において日本語によるコミュニケーションができる能力を身につけることを目標とする。ビジネス日本語の基本語彙を習得しながら、場面ごとに必要な読解、聴解、文章作成、情報処理の能力を養成する。またビジネス場面に必要不可欠な待遇表現の基本を学習し、場面ごとに待遇表現に慣れるよう練習をする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
<p>ビジネス日本語の基本語彙を習得する</p>	<p>毎回授業はじめの小テストにより評価する。語彙を聞いて判別でき、意味がわかり、正しく表記できるかどうかを評価する。目標語彙リストは教科書から指定する。</p>	<p>小テスト15%</p>
<p>ビジネスの場面ごとに必要な日本語能力を身につける</p>	<p>提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。場面ごとに必要な理解力、表現力、情報処理能力を評価する。</p>	<p>課題と本試験の50%</p>
<p>ビジネス日本語のコミュニケーションに必要なスキル別能力を身につける</p>	<p>提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。ビジネス日本語における読解力、聴解力、口頭表現能力、文章作成能力を評価する。</p>	<p>課題と本試験の50%</p>
<p>評価の方法 授業参加度30%、小テスト15%、課題15%、本試験40% 学期の3分の1を越えて欠席した場合は、単位を認めない。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	日本語能力評価テスト	授業計画と評価の説明、日本語能力評価テスト
2	日本語能力評価テスト	日本語能力評価テスト
3	ビジネス日本語の基礎	社内メール
4	ビジネス日本語の基礎	会議準備
5	ビジネス日本語の基礎	電話とお詫び1
6	ビジネス日本語の基礎	電話とお詫び2、お知らせ文書1
7	ビジネス日本語の基礎	お知らせ文書2
8	ビジネス日本語の基礎	キャッチコピー
9	ビジネス日本語の基礎	同僚との雑談
10	ビジネス日本語の基礎	値下げ交渉
11	ビジネス日本語の基礎	営業1
12	ビジネス日本語の基礎	営業2、売上
13	ビジネス日本語の基礎	売上2
14	ビジネス日本語の基礎	パッケージ案
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇小野塚若菜ほか『ビジネス日本語オール・イン・ワン問題集聴く・読む・話す・書く』
ジャパントイムズ、2015年

【履修条件等】

- ◇上記の教科書を購入しておくこと。
◇意欲を持って学習に取り組むこと。
◇課題は期限までに提出すること。それ以外は成績に加算しない。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇前もって教科書の該当する課を読み、語彙と漢字の読み方を予習しておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇毎回小テストを実施する。小テストは、欠席・遅刻しても追試はしない。
◇上記の授業計画は受講人数、日本語能力評価テストの結果などを勘案して変更することがある。

<p>日本語Ⅱ（留学生科目）</p>	<p>オクヤマ タカユキ 奥山 貴之</p>
<p>Japanese Language II</p>	<p>発展科目／半期／2単位</p>

【授業概要】

ビジネス場面において日本語によるコミュニケーションができる能力を身につけることを目標とする。ビジネス日本語の基本語彙を習得しながら、場面ごとに必要な読解、聴解、文章作成、情報処理の能力を養成する。またビジネス場面に必要不可欠な待遇表現の基本を学習し、場面ごとに待遇表現に慣れるよう練習をする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
<p>ビジネス日本語の基本語彙を習得する</p>	<p>毎回授業はじめの小テストにより評価する。語彙を聞いて判別でき、意味がわかり、正しく表記できるかどうかを評価する。目標語彙リストは教科書から指定する。</p>	<p>小テスト15%</p>
<p>ビジネスの場面ごとに必要な日本語能力を身につける</p>	<p>提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。場面ごとに必要な理解力、表現力、情報処理能力を評価する。</p>	<p>課題と本試験の50%</p>
<p>ビジネス日本語のコミュニケーションに必要なスキル別能力を身につける</p>	<p>提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。ビジネス日本語における読解力、聴解力、口頭表現能力、文章作成能力を評価する。</p>	<p>課題と本試験の50%</p>
<p>評価の方法 授業参加度30%、小テスト15%、課題15%、本試験40% 学期の3分の1を越えて欠席した場合は、単位を認めない。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	日本語能力評価テスト	授業計画と評価の説明、日本語能力評価テスト
2	日本語能力評価テスト	日本語能力評価テスト
3	ビジネス日本語の基礎	社内メール
4	ビジネス日本語の基礎	会議準備
5	ビジネス日本語の基礎	電話とお詫び1
6	ビジネス日本語の基礎	電話とお詫び2、お知らせ文書1
7	ビジネス日本語の基礎	お知らせ文書2
8	ビジネス日本語の基礎	キャッチコピー
9	ビジネス日本語の基礎	同僚との雑談
10	ビジネス日本語の基礎	値下げ交渉
11	ビジネス日本語の基礎	営業1
12	ビジネス日本語の基礎	営業2、売上
13	ビジネス日本語の基礎	売上2
14	ビジネス日本語の基礎	パッケージ案
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇小野塚若菜ほか『ビジネス日本語オール・イン・ワン問題集聴く・読む・話す・書く』
ジャパントイムズ、2015年

【履修条件等】

- ◇上記の教科書を購入しておくこと。
◇意欲を持って学習に取り組むこと。
◇課題は期限までに提出すること。それ以外は成績に加算しない。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇前もって教科書の該当する課を読み、語彙と漢字の読み方を予習しておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇毎回小テストを実施する。小テストは、欠席・遅刻しても追試はしない。
◇上記の授業計画は受講人数、日本語能力評価テストの結果などを勘案して変更することがある。

日本語Ⅱ（留学生科目）	シオタニ ユミコ 塩谷 由美子
Japanese Language II	発展科目／半期／2単位

【授業概要】

ビジネス場面において日本語によるコミュニケーションができる能力を身につけることを目標とする。ビジネス日本語の基本語彙を習得しながら、場面ごとに必要な読解、聴解、文章作成、情報処理の能力を養成する。またビジネス場面に必要不可欠な待遇表現の基本を学習し、場面ごとに待遇表現に慣れるよう練習をする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ビジネス日本語の基本語彙を習得する	毎回授業はじめの小テストにより評価する。語彙を聞いて判別でき、意味がわかり、正しく表記できるかどうかを評価する。目標語彙リストは教科書から指定する。	小テスト15%
ビジネスの場面ごとに必要な日本語能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。場面ごとに必要な理解力、表現力、情報処理能力を評価する。	課題と本試験の50%
ビジネス日本語のコミュニケーションに必要なスキル別能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。ビジネス日本語における読解力、聴解力、口頭表現能力、文章作成能力を評価する。	課題と本試験の50%
評価の方法 授業参加度30%、小テスト15%、課題15%、本試験40% 学期の3分の1を越えて欠席した場合は、単位を認めない。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	日本語能力評価テスト	授業計画と評価の説明、日本語能力評価テスト
2	日本語能力評価テスト	日本語能力評価テスト
3	ビジネス日本語の基礎	社内メール
4	ビジネス日本語の基礎	会議準備
5	ビジネス日本語の基礎	電話とお詫び1
6	ビジネス日本語の基礎	電話とお詫び2、お知らせ文書1
7	ビジネス日本語の基礎	お知らせ文書2
8	ビジネス日本語の基礎	キャッチコピー
9	ビジネス日本語の基礎	同僚との雑談
10	ビジネス日本語の基礎	値下げ交渉
11	ビジネス日本語の基礎	営業1
12	ビジネス日本語の基礎	営業2、売上
13	ビジネス日本語の基礎	売上2
14	ビジネス日本語の基礎	パッケージ案
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：小野塚若菜ほか『ビジネス日本語オール・イン・ワン問題集－聴く・読む・話す・書く』ジャパンタイムズ

【履修条件等】

- ◇上記の教科書を購入しておくこと。
- ◇意欲を持って学習に取り組むこと。
- ◇課題は期限までに提出すること。それ以外は成績に加算しない。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇前もって教科書の該当する課を読み、語彙と漢字の読み方を予習しておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇毎回小テストを実施する。小テストは、欠席・遅刻しても追試はしない。
- ◇上記の授業計画は受講人数、日本語能力評価テストの結果などを勘案して変更することがある。

専 門 科 目

平成29年度

経営学部経営学科

< 1 年生用 >

東京富士大学

経営学	フジモリ <small>ダイスケ</small> 藤森 大祐
Business Management	入門科目／通年／4単位

【授業概要】

初めて学ぶ者にとって、「経営学」というものは何かとつきにくい難しいもののように感じるかもしれない。学問である以上、そこで展開される学術的な議論は難解なものもあることは事実である。しかし、経営学は私たちにとって大変身近なことを学ぶものであり、また実際に役に立つものである。さらに、経営学は経営者のための学問であるだけでなく、広く「働く人」のための学問である。この講義では、経営学というものをなるべくわかりやすく学んでいくとともに、経営学に興味を持つきっかけとなることを第一の目標に据えて進めていく予定である。この講義が、履修する皆さんにとって、その後の経営学のより専門的な分野の扉を、楽しみに開くきっかけとなれば嬉しい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
会社制度の仕組みを理解し、その問題点や課題を考える基礎を養う	試験およびレポートによって評価する。 6割以上を合格とする。	20%
経営戦略やマーケティングの代表的な理論を理解し、現実の企業活動を説明する力を養う	試験およびレポートによって評価する。 6割以上を合格とする。	40%
組織や管理の代表的な理論を理解し、専門科目を学ぶための基礎力を身につける	試験およびレポートによって評価する。 6割以上を合格とする。	40%
評価の方法 試験50%、レポート30%、平常点20%で評価する。 平常点は講義内で書くコメントや質問、授業態度などで評価する。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ガイダンス	16	経営戦略①
2	経営組織①	17	経営戦略②
3	経営組織②	18	経営戦略③
4	経営組織③	19	経営戦略④
5	経営組織④	20	マーケティング①
6	経営組織⑤	21	マーケティング②
7	経営組織⑥	22	国際経営
8	モチベーション①	23	生産管理
9	モチベーション②	24	品質管理
10	モチベーション③	25	製品開発
11	リーダーシップ①	26	イノベーション①
12	リーダーシップ②	27	イノベーション②
13	リーダーシップ③	28	イノベーション③
14	春学期の復習	29	秋学期の復習
15	試験および総括	30	試験および総括

【使用教材】

◇教科書：高橋伸夫著『大学4年間の経営学が10時間で学べる』KADOKAWA

【履修条件等】

◇経営学を積極的に学ぶ意欲があること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇毎回、講義の最後に次回の内容を伝えるので、次週までにその内容についての基礎知識を得ておくこと。

【その他の注意事項】

◇経営学は自ら意欲を持って臨めば、とても刺激的なものである。しかし、それが感じられるまでにはそれなりの努力が必要である。わからないことを乗り越えて、楽しさを感じられるようになることを期待する。

経営学	ナトリ シュウイチ 名取 修一
Business Management	入門科目／通年／4単位

【授業概要】

経営学は、企業を対象としてその構造と行動原理を学ぶ学問です。企業経営活動は、利潤生産・商品生産過程において、生活の糧を提供し、人々の「豊かさの創造」機会をも生み出しています。そうした存在意義をなす現在の企業は、激しい市場競争を乗り越えなければ存続し続けることはできません。企業が存続していくためには、利潤達成を実現すると同時に、社会的責任の遂行がなされなければなりません。

本講義では、こうした観点に立って企業経営の「構造」的理解と活動体・存続体としての「行動」的側面に視点を当て、企業経営を考えます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
企業の基本的な特質を理解する	<ul style="list-style-type: none"> 経営学の対象としての企業経営活動を理解する 企業経営は生産活動体であり、財やサービスを生産し、社会的な役割を理解する 企業はなぜ利潤追求をするのかを理解する 商品、商品生産過程の意味や内容を理解する 企業経営に関わる市場を学び、グローバル化でどのように変化したかを理解する 	30%
資本調達仕組みを理解する	<ul style="list-style-type: none"> 資本の意味を理解する グローバル経済下での資本調達の基軸を理解する 自己資本、他人資本、出資、負債の内容と違いを理解する 株式会社の特性を理解する 	15%
コーポレート・ガバナンスを理解する	<ul style="list-style-type: none"> コーポレート・ガバナンスの狭義と広義の視点から違いを理解する グローバル・スタンダードを理解する ステークホルダーを理解する 取締役会の意義、役割を把握し、取締役会の改革や課題を理解する 	15%
経営管理の変遷過程を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> 経営管理活動の原点とその変遷過程を理解する 近現代の特徴である組織柔軟性を理解する リーダーシップとは何かを理解する 	10%
経営戦略論を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> 経営戦略論の概念を学び、策定方法を理解する グローバル市場の変化を理解する 戦略的資源管理の問題点を考える 	15%
グローバル市場下の企業経営を理解する	<ul style="list-style-type: none"> 日本的経営論の変化を理解する 企業の多国籍化を理解する 環境経営と社会的責任の遂行を理解する 	15%
評価の方針	70%以上の出席率が必要です。 評価は出席点20%、期末試験80%とします。	

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ガイダンス	16	経営学説史を学ぶ①
2	経営学とは何か	17	経営学説史を学ぶ②
3	企業の基本的特質	18	経営戦略論
4	企業形態①	19	経営戦略策定とケーススタディー
5	企業形態②	20	財務管理論①
6	株式会社制度の特質	21	財務管理論②
7	企業集団と現代的な特徴	22	マーケティング論
8	コーポレート・ガバナンス	23	生産管理論
9	多国籍企業論	24	人的資源管理論①
10	企業経営とステークホルダー	25	人的資源管理論②
11	中小企業論	26	日本的経営論とその変化
12	中小企業の現状と課題	27	情報技術革新と企業経営の変化
13	ベンチャー企業論	28	環境経営論
14	非営利組織論	29	C S R と企業倫理
15	春学期まとめと試験について	30	秋学期まとめと試験について

【使用教材】

- ◇教科書：百田義治編著『経営学を学ぼう』中央経済社
- ◇参考書：市川彰・名取修一編著『現代経営学要論』同友館
講義の中で適宜紹介します。
- ◇その他：講義の中で資料を配布します。

【履修条件等】

- ◇授業を受ける際には、静粛に受講してください。
- ◇新聞、雑誌等のメディアを通じて時事情報を捉えておいてください。
- ◇自分自身のノートを作成してください。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇受講者は各自テキストを準備してください。
- ◇各回の講義ごとにテキストを読み返して、復習を行ってください。

【その他の注意事項】

- ◇配布した資料の管理を各自行ってください。
- ◇各自、自身の出席管理を行ってください。

経営学	ヤマグチ ヨシアキ 山口 善昭
Business Management	入門科目／通年／4単位

【授業概要】

経営学といってもその内容はさまざまです。この授業は科目名が示すように、経営学が扱うさまざまな領域の中の主なものを概略的に見ていきます。扱う領域は、それぞれ2年次以降に、半期あるいは通年の授業として設定されています。したがって、この授業では細かい部分は扱わず中心的な部分だけを見ていくことになります。

授業は、講義と質問を交互に行います。経営学のさまざまな理論や学説を中心に講義をしますので、聞いているだけでは理解しにくいところがあるかもしれません。積極的に質問に応え、授業理解の助けにしてください。また、授業中わからないことがあったら、その場で積極的に質問してください。

大学に入って最初の専門科目の授業となりますので、大学における論述試験に慣れてもらうために春学期中間に「中間試験」を行います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
経営学の基礎的な内容を理解していること	設問に対する回答によって評価。基礎的な用語を理解していること。	20%
経営学の基本的なものの見方を理解していること	設問に対する回答によって評価。授業中の質問に対する回答によって評価。	20%
経営学の代表的な理論を理解していること	設問に対する回答によって評価。代表的な理論を説明できること。	20%
経営学の理論を応用する力を備えていること	設問に対する回答によって評価。授業中の質問に対する回答によって評価。理論をもとに具体的な方法を提案できること。	30%
<p>評価の方法 70%以上の出席を必要条件として、試験95%、授業参加度5% 試験は、2回の定期試験と中間試験の結果とする。</p>		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	経営学とは：経営学はいつ始まった	16	企業倫理
2	テイラーの科学的管理法	17	組織形態(1)
3	ヴェーバーの官僚制	18	組織形態(2)
4	人間関係論	19	経営管理各論(1)
5	バーナードの組織論	20	経営管理各論(2)
6	サイモンの意思決定論	21	経営管理各論(3)
7	コンティンジェンシー理論	22	経営管理各論(4)
8	中間試験とその解説	23	日本的経営
9	企業論(1)	24	組織的意思決定
10	企業論(2)	25	経営戦略論(1)
11	所有と経営の分離	26	経営戦略論(2)
12	企業結合	27	経営戦略論(3)
13	国際経営論	28	経営戦略論(4)
14	企業目的	29	組織文化
15	総括・達成度の確認	30	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：大月、高橋、山口著『経営学－理論と体系－』同文館

【履修条件等】

◇積極的に授業に参加できる人。

◇経営学を学ぼうという意志の強い人。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書の対象範囲を前もって読んでおくこと。

【その他の注意事項】

◇出席日数が不足すると試験を受けられなくなるので注意してください。

経営学（留学生対象）	オガワ タツヤ 小川 達也
Business Management	入門科目／通年／4単位

【授業概要】

留学生の初学者を対象に企業経営の基礎的理論と実践的知識の理解を深め、現代企業が直面している諸課題についての洞察力を養います。授業は教科書を中心にパワーポイントとプリントを併用しながら丁寧に進めます。また、時事問題や事例研究を通して企業経営の実態を把握し、有用な経営理論をわかりやすく解説します。受講生一人ひとりの疑問や質問に向き合い、創造的でインタラクティブな授業を目指します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
授業で取り上げた専門用語を正しく理解し、説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの備考欄に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。授業で取り上げた用語の定義や概念をしっかりと把握し、他の用語と混同しないように説明できること。	20%
授業で取り上げた経営学の基礎的理論を正しく理解し、説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの備考欄に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。授業で取り上げた経営学の基礎的理論の定義や概念、課題・問題点をしっかりと把握し、正しく説明できること。	30%
授業で取り上げた企業経営の実践的知識を正しく理解し、説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの備考欄に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。授業で取り上げた企業経営の実践的知識の概念や背景、課題・問題点をしっかりと把握し、正しく説明できること。	30%
授業で取り上げた経営学の理論と知識を広く理解し、応用して説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの備考欄に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。企業経営の実践的知識を複数把握し、授業で取り上げた基礎的理論と結びつけて説明できるとともに諸課題をしっかりと論述できること。	20%
評価の方法	授業回数に対して出席回数が3分の2以上の受講生に限り評価します。成績は受講態度40%、本試験60%を目安に決定します。授業への積極的な参加姿勢はもちろん、授業終了後に提出するコメントや本試験の内容など、総合的な学習成果に基づいて評価します。	

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	【重要】ガイダンス（授業概要・評価方法）	16	株式会社の統治 ①規模別の諸形態
2	経営学への招待 ①経営学はおもしろい！	17	〃 ②監査役設置会社
3	〃 ②企業の経営を考えよう	18	〃 ③指名委員会等設置会社
4	〃 ③マネジャーの仕事とは	19	〃 ④監査等委員会設置会社
5	〃 ④テイラーの科学的管理	20	企業の社会的責任 ①社会的責任の本質
6	〃 ⑤ファヨールの管理思想	21	〃 ②その内容と優先順位
7	〃 ⑥バーナードの組織理論	22	〃 ③企業の社会貢献活動
8	企業・会社の概念 ①企業・会社とは何か	23	〃 ④企業の反倫理的行動
9	〃 ②企業の諸形態	24	〃 ⑤コンプライアンス経営
10	〃 ③会社法の概要	25	企業価値創造 ①ステークホルダーと企業
11	〃 ④所有と経営の分離	26	〃 ②2つの企業価値創造経営
12	〃 ⑤合名・合資・合同会社	27	〃 ③米国型経営の教訓
13	〃 ⑥株式会社の特徴と役割	28	〃 ④企業の4つの価値創造
14	〃 ⑦企業統治の概念と目的	29	〃 ⑤企業価値創造経営の実践
15	中間試験（総括・達成度の確認）	30	期末試験（総括・達成度の確認）

【使用教材】

◇教科書：舩富順久編著『経営学の新展開』税務経理協会、2007年

◇参考書：二神恭一編著『新版ビジネス・経営学辞典』中央経済社、2006年
そのほかの参考書は、授業中に紹介します。

【履修条件等】

◇この授業は、これから学ぶ経営学関連の科目を理解するのに必要な基礎的知識を養う
目的があります。多少難しいと感じても、常に向上心を持って授業に臨んでください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇経営学関連の科目は専門性の高い学問領域であり、専門用語や外来語への理解が大切
です。しかし、授業時間内にその都度、用語そのものの解説は行いません。そのため、
わからない用語をそのままにせず、各自で逐一調べ、授業に備える必要があります。
◇刻一刻と変化する企業・産業界の動向に関心を持ち、日頃から経済新聞や経済雑誌を
よく読み、時事問題やトレンドの把握に努めてください。

【その他の注意事項】

◇第1回目の授業は、ガイダンスを行います。この科目の学び方や評価方法、注意事項
など重要な内容を説明をしますので、必ず出席してください。

◇授業中に携帯電話やタブレット、パソコン、カメラなどの電子デバイス類を許可なく
使用することを禁止します。指示に従わない場合は減点の上、欠席扱いとします。

経済学 I	<small>シミズ ヨシキ</small> 清水 良樹
Economics I	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

経済はわたしたちの生活に密着しています。経済現象は日常生活にあふれていますが、これに疑問をもったことはありませんか？ たとえば、商品には必ず価格がついていますが、そもそもこの価格というのは何でしょうか？ あなたならどう答えますか？ こうした疑問に答えるためには、経済学を学ばなければいけません。

本講義では経済学の基礎理論を学ぶことを通して、わたしたちが生活している社会の仕組み、そして現代の経済問題を分析していきます。経済問題を議論できるエコノミストの視点を身につけましょう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
<ul style="list-style-type: none"> ・ 経済学の基礎理論の習得 ・ 現代の経済問題に対する経済学的視点を養う 	定期試験の結果と課題等によって成績を評価する。	定期試験90%、課題およびリアクションペーパー等の平常点10%
<p>評価の方法 定期試験90%、課題やリアクションペーパー等の平常点10%により総合的に判断して成績を評価します。ただし、全講義の3分の1以上（5回以上）欠席（考慮すべき理由のないもの）した場合、単位取得を認めない。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義内容、評価方法についての説明
2	経済主体と経済活動	経済とはなにか
3	消費	所得と消費の関係
4	投資	投資の理論
5	政府支出	財政の役割
6	政府の役割①	財源
7	政府の役割②	財政赤字の問題
8	決済	為替取引
9	貿易と決済	内国為替と外国為替
10	GDP	経済成長と豊かさの関係
11	戦後日本経済史（前編）	戦後からバブル崩壊まで
12	戦後日本経済史（後編）	バブル崩壊後の日本経済
13	景気指標	D I、C I、日銀短観
14	物価	インフレとデフレ
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

- ◇教科書：指定しない。
- ◇参考書：講義の中で適宜指示する。

【履修条件等】

- ◇他者に迷惑をかける行為（私語など）は慎むこと。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇とくになし。

【その他の注意事項】

- ◇経済の動向を勘案して授業計画を変更することがある。

経済学 I	マツダ タケシ 松田 岳
Economics I	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

企業経営は経済環境から大きな影響を受けており、社会で生きる私たちにとって経済の知識を身につけることは必要不可欠である。しかし、日々起こっている経済現象は複雑な要因が絡み合っており、そのままでは理解することが難しい。そのため絡み合った「糸」を解きほぐし、できるだけ単純化して理解する必要がある。「経済学」は経済現象を究極まで単純化・抽象化した上で体系化された学問である。抽象的なキーワードは馴染みが薄く、それゆえ敬遠されがちでもある。しかし、その意味は意外にも身近で、シンプルな疑問から解き明かすことができる。本講義では学生諸君が抱きそうな「素朴な疑問」を手掛かりとして、現実の経済問題への関心を高めるとともに、マクロ経済学の基礎の習得を目指す。「今を知る」ことに意欲的な学生の姿勢を求む。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マクロ経済学を理解するのに必要な基礎用語を理解する	設問に対する回答によって評価。	20%
専門用語を用いて、マクロ経済学の基礎理論を説明できる	設問に対する回答によって評価。	40%
数式を用いてマクロ経済学の基礎理論を説明できる	設問に対する回答によって評価。	40%
評価の方法 試験点100%（質問等を通じて積極的に授業に参加した場合、加点あり）。		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要、到達目標、評価基準、評価方法等を確認する。
2	国民経済計算	GDP と物価／三面等価の原則／産業連関分析
3	財市場(1)	財市場の分析／45度線分析／不均衡から均衡へ
4	財市場(2)	GDP ギャップ／投資（政府支出）乗数／租税乗数／均衡 予算乗数
5	資産市場(1)	貨幣とは／日本銀行／貨幣乗数／
6	資産市場(2)	貨幣需要／貨幣供給／利子率の決定／投資の限界効率
7	IS-LM 分析	IS 曲線／ LM 曲線／ IS-LM 均衡／金融政策と曲線のシフト
8	達成度の確認	達成度の確認とこれまでの授業の総括を行う。
9	経済政策と効果	金融政策と LM 曲線／財政政策と IS 曲線／公債の経済効果
10	労働市場	古典派の公準／ケインズ派 VS 古典派／ AD-AS 分析
11	インフレ	フィリップス曲線／自然失業率仮説／ IAD-IAS 曲線
12	消費の理論	ライフサイクル仮説／恒常所得仮説／相対所得仮説
13	投資の理論	加速度原理／ストック調整原理／トービンの q 理論
14	景気循環/経済成長	ヒックス＝サミュエルソン・モデル／ハロッド＝ドーマー理論
15	総括・達成度の確認	達成度の確認と「経済学 I」の総括を行う。

【使用教材】

- ◇教科書：ガイダンス時に指示する。
- ◇参考書：講義の中で適宜指示する。

【履修条件等】

- ◇5回以上欠席すると評価対象外になる。
- ◇同時に「経済学Ⅱ」（松田岳）を履修することを強く推奨する。
- ◇授業を妨害する行為（私語、携帯電話の使用など）は一切許さない。
- ◇3回以上注意を要するような行為をした学生には退席を求める。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇毎回の講義、教科書などを通じて指示する。
- ◇新聞やテレビを通じて最近の経済動向に関心を持っていることが望ましい。

【その他の注意事項】

- ◇経済・社会の動向を勘案して授業計画は変更する場合がある。
- ◇発言や質問をするなど、積極的に学ぶ姿勢を持っていることが望ましい。
- ◇質問は口頭、書面、メールで受け付けている。

経済学Ⅱ	<small>シミズ ヨシキ</small> 清水 良樹
Economics II	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

経済はわたしたちの生活に密着しています。経済現象は日常生活にあふれていますが、これに疑問をもったことはありませんか？たとえば、商品には必ず価格がついていますが、そもそもこの価格というのは何でしょうか？あなたならどう答えますか？こうした疑問に答えるためには、経済学を学ばなければいけません。

本講義では経済学の基礎理論を学ぶことを通して、わたしたちが生活している社会の仕組み、そして現代の経済問題を分析していきます。経済問題を議論できるエコノミストの視点を身につけましょう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
<ul style="list-style-type: none"> ・ 経済学の基礎理論の習得 ・ 現代の経済問題に対する経済学的視点を養う 	定期試験の結果と課題によって成績を評価する。	定期試験90%、課題やリアクションペーパー等の平常点10%
<p>評価の方法 定期試験90%、課題やリアクションペーパー等の平常点10%により総合的に判断して成績を評価します。ただし、全講義の3分の1以上（5回以上）欠席（考慮すべき理由のないもの）した場合、単位取得を認めない。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義内容、評価方法についての説明
2	需要と供給	需給関係の変化と価格への影響
3	価格の決定	価値と価格
4	弾力性	価格変化
5	費用と便益	大学進学のコストと便益を考える
6	生産性	生産性を上昇させる方法
7	雇用	大学生の就職状況
8	株式と債券	株式と債券のちがい
9	金融政策①	お金とは
10	金融政策②	中央銀行の役割
11	決済システム	日銀ネット、RTGS
12	経済危機①	景気循環における恐慌
13	経済危機②	危機対応策
14	バブルの歴史	世界で起こったバブル現象
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

- ◇教科書：指定しない。
- ◇参考書：講義の中で適宜指示する。

【履修条件等】

- ◇他者に迷惑をかける行為（私語など）は慎むこと。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇とくになし。

【その他の注意事項】

- ◇経済の動向を勘案して授業計画を変更することがある。

経済学Ⅱ	マツダ タケシ 松田 岳
Economics II	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

企業経営は経済環境から大きな影響を受けており、社会で生きる私たちにとって経済の知識を身につけることは必要不可欠である。しかし、日々起こっている経済現象は複雑な要因が絡み合っており、そのままでは理解することが難しい。そのため絡み合った「糸」を解きほぐし、できるだけ単純化して理解する必要がある。「経済学」は経済現象を究極まで単純化・抽象化した上で体系化された学問である。抽象的なキーワードは馴染みが薄く、それゆえ敬遠されがちでもある。しかし、その意味は意外にも身近で、シンプルな疑問から解き明かすことができる。本講義では学生諸君が抱きそうな「素朴な疑問」を手掛かりとして、現実の日本経済が抱える構造的な問題とその打開策への理解・認識を深めることを目指す。「今を知る」ことに意欲的な学生の姿勢を求む。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
現代の日本経済が抱える諸課題についてその構造や対策の現状を理解し、説明できる	設問に対する回答によって評価。	40%
デフレ脱却に向けた日本銀行の金融政策について理解し、説明できる	設問に対する回答によって評価。	20%
21世紀を題材に、政治体制の変化と経済構造の変化の因果関係について説明できる	設問に対する回答によって評価。	40%
評価の方法 試験点100%（質問等を通じて積極的に授業に参加した場合、加点あり）。		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要、到達目標、評価基準、評価方法等を確認する。
2	所得格差	
3	貧困問題	絶対的貧困・相対的貧困／子どもの貧困／貧困対策
4	人口減少	少子高齢化／人口減少社会／少子化対策
5	環境と経済	環境経済学／京都メカニズムと議定書／ポスト京都議定書
6	貿易自由化	比較生産費説／要素量賦存の命題／ GATT / WTO / FTA・EPA
7	バブルリレー	中南米バブル／東アジアバブル／米国のバブル
8	達成度の確認	達成度の確認とこれまでの授業の総括を行う。
9	日本銀行	創設／組織／独立性と透明性／財務
10	日銀の機能	発券銀行／政府の銀行／銀行の銀行
11	金融政策	政策委員会／金利政策／量的政策／その他政策
12	21世紀の政治経済①	郵政民営化／道路公団民営化／派遣規制緩和／三位一体改革
13	21世紀の政治経済②	コンクリからヒトへ／行政改革／規制強化
14	21世紀の政治経済③	大胆な金融政策／機動的な財政政策／成長戦略
15	総括・達成度の確認	達成度の確認と「経済学Ⅱ」の総括を行う。

【使用教材】

- ◇教科書：ガイダンス時に指示する。
- ◇参考書：講義の中で適宜指示する。

【履修条件等】

- ◇5回以上欠席すると評価対象外になる。
- ◇事前に「経済学Ⅰ」（松田岳）の単位を修得していることが望ましい。
- ◇授業を妨害する行為（私語、携帯電話の使用など）は一切許さない。
- ◇3回以上注意を要するような行為をした学生には退席を求める。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇毎回の講義、教科書などを通じて指示する。
- ◇新聞やテレビを通じて最近の経済動向に関心を持っていることが望ましい。

【その他の注意事項】

- ◇経済・社会の動向を勘案して授業計画は変更する場合がある。
- ◇発言や質問をするなど、積極的に学ぶ姿勢を持っていることが望ましい。
- ◇質問は口頭、書面、メールで受け付けている。

マーケティング I	ハナオ ユカリ 花尾 由香里
Marketing I	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業では、マーケティングの基本的な理論と戦略について学習する。企業の経営な活動の中で、マーケティングがどのような役割を担っているのかを学んだ後、戦略を立案する際に必要な分析方法や理論を中心に解説する。実在の企業や商品の例を取り上げ、マーケティングを現実的な問題として理解していくことも目的としている。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケティングの考え方と専門用語を正しく理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。マーケティングの基本的な考え方とアプローチ方法を理解し、マーケティングに関する用語を答えられること。	25%
マーケティング戦略立案のための環境分析について理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。マーケティング戦略を立案するために必要な環境分析の手法について理解し、答えられること。	20%
マーケティング戦略立案のための市場分析について理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。マーケティング戦略を立案するために必要な市場分析の手法について理解し、答えられること。	20%
マーケティング戦略立案のための競争分析について理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。マーケティング戦略を立案するために必要な競争分析の手法について理解し、答えられること。	20%
評価の方法 70%以上の出席を前提として授業中の課題提出15%、試験85%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	マーケティングとは	授業の内容とマーケティングの考え方
2	マーケティング・コンセプト	コンセプトの変遷、ニーズとウォンツ
3	マーケティングの範囲	事業領域の設定、マーケティング・マイオピア
4	マーケティングのプロセス	4 P 概念、マーケティングの実行プロセス
5	環境分析(1)	企業を取り囲む環境、機会と脅威
6	環境分析(2)	企業の強みと弱み、SWOT分析
7	市場細分化	市場細分化と細分化の切り口、ターゲットの選定
8	ポジショニング	ポジショニングマップによる分析、製品差別化
9	製品ライフサイクル	製品の寿命とライフサイクル、ライフサイクル別戦略
10	ポートフォリオ分析	ポートフォリオ・マトリックス、戦略的事業単位
11	製品・市場マトリックス	アンゾフの製品・市場マトリックスと成長ベクトル
12	競争分析	競争のファイブ・フォース、集中度の分析
13	競争優位戦略 1	競争の激しさを決める要因、参入障壁と参入阻止戦略
14	競争優位戦略 2	業界の競争戦略分析、競争の基本戦略
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：なし。

※必要に応じて資料等を配布する。

【履修条件等】

◇私語を慎み周囲に迷惑をかけること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇普段から、企業や商品に関するニュース等に注意を払っておくこと。

◇毎回の授業においては、事前に指示をした重要事項の内容を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇私語や遅刻については厳重に注意する。

マーケティング I	ヒノ タカオ 日野 隆生
Marketing I	基礎科目 / 半期 / 2単位

【授業概要】

マーケティングという用語は、ビジネス社会において、しばしば見聞きするが、多様な意味に用いられ、また、時代とともに概念は進化してきている。

マーケティングは、企業の基本的機能の一つであるが、あらゆる経営体に適応可能であると考えられる。

本科目では、マーケティング論の歴史から現代社会におけるマーケティングとは何か、そしてどのように活用するか、具体的事例とともに学ぶ。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケティングの基本的用語を理解する	授業内小レポートによって評価する。 講義内容の要約を記述した小レポートによって、マーケティング論の基本的用語の理解度を判定する。	40%
戦略としてのマーケティング論を理解する	レポート提出によって評価する。 テキスト内容の製品戦略、価格戦略、チャネル戦略、プロモーション戦略など、マーケティング戦略についての記述内容によって評価する。	20%
現代におけるマーケティングの意義を理解する	期末試験によって評価する。 マーケティング論の現代における意義について、記述内容によって評価する。	40%
評価の方法 授業内小レポート40%、レポート20%、期末試験40%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	授業の進め方、マーケティングとは何か
2	マーケティング・コンセプト	マーケティング・コンセプトの変遷
3	基本的戦略	マーケティングの基本的戦略
4	製品戦略①	マーケティング論における製品の概念
5	製品戦略②	製品ミックス戦略、新製品開発
6	価格戦略①	価格決定方法
7	価格戦略②	価格戦略
8	プロモーション戦略①	プロモーションの概念
9	プロモーション戦略②	プロモーションの手段
10	流通チャネル戦略①	流通チャネルの概念と類型
11	流通チャネル戦略②	流通チャネル戦略
12	関係性マーケティング	リレーションシップ・マーケティングとは何か
13	グリーン・マーケティング	グリーン・マーケティングとは何か
14	マーケティング・リサーチ	マーケティング・リサーチの意義と方法
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テスト

【使用教材】

◇教科書：『マーケティング戦略論』学文社

【履修条件等】

◇さまざまなメディアによってマーケティングに関するニュースを見つけてください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇テキストの該当部分を読んでくる。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

マーケティング I	ヒロセ モリカズ 広瀬 盛一
Marketing I	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

マーケティングの基礎知識から、マーケティングにおけるマネジメントの考え方、マーケティングの実際までを理解する。マーケティングは、商品やサービスの販売を促進する手段として捉えられがちであるが、企業の戦略や非営利組織の活動とも深く関わっている。製品を開発する企業、製品を消費者に届ける流通業、製品を購入し利用する消費者など、さまざまな視点からマーケティングを学習する。テキストだけでなく、事例なども用いて理解を深める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケティングの基本的な用語について理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。マーケティングの定義、コンセプトの変遷、マーケティング・ミックス、マーケティングの範囲について答えられること。	25%
市場環境の分析について理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。企業を取り巻く環境、環境を分析するための考え方などについて答えられること。	25%
消費者行動とマーケティング戦略について理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。消費者を購買に導く、動機づけやそのフレームワーク、個人的な要因について答えられること。	25%
製品戦略とブランドについて理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。製品のとらえ方、製品開発に関わる考え方、ブランドについて答えられること。	25%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、授業参加度10%、試験90%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	イントロダクション	授業の進め方、マーケティングとは何か
2	マーケティングのコンセプトと基本用語	コンセプトの変遷について
3	マーケティング・ミックス	4 P の概念について
4	マーケティングの範囲	マーケティングの対象について
5	市場環境の分析 (1)	企業のミクロ環境、SWOT分析について
6	市場環境の分析 (2)	企業のマクロ環境、人口動態環境などについて
7	消費者行動 (1)	消費者の意思決定プロセスについて
8	消費者行動 (2)	意思決定に影響する要因について
9	マーケティング戦略の基礎	市場細分化、ターゲティング、ポジショニングについて
10	製品戦略 (1)	製品のとらえ方について
11	製品戦略 (2)	サービスや組織のマーケティングについて
12	事例研究	製品戦略の事例について
13	製品開発	製品開発と製品ライフサイクルについて
14	ブランドマネジメント	ブランド・エクイティとブランド・アイデンティティについて
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇教科書：使用せず。
- ◇参考書：『現代マーケティング論』実教出版

【履修条件等】

- ◇「広告論Ⅰ」、「広告論Ⅱ」、「消費者行動論Ⅰ」、「消費者行動論Ⅱ」、「流通論Ⅰ」、「流通論Ⅱ」などの関連科目を受講することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇本やニュースで関連した資料について目を通しておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇授業に集中すること。態度が悪い場合には、退出を命じる場合もある。

マーケティングⅡ	ハナオ ユカリ 花尾 由香里
Marketing Ⅱ	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業では、マーケティングを実践するための基本的な戦略と理論について学習する。製品戦略、価格戦略、流通戦略、プロモーション戦略というパートに分け、それぞれの戦略を立案するための基本的な知識を習得するのが狙いである。実在の企業例を取り上げ、マーケティングを現実的な問題として理解していくとともに、新しいマーケティングの流れについても解説する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケティング戦略に関わる専門用語を正しく理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。マーケティング戦略のアプローチ方法を理解し、マーケティング戦略に関する用語を答えられること。	20%
マーケティングにおける製品戦略と価格戦略について理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。マーケティング戦略における製品戦略の手法やブランド理論、価格戦略等について理解し、答えられること。	25%
マーケティングにおけるプロモーション戦略と流通戦略について理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。マーケティング戦略におけるプロモーションの種類やアプローチ方法、流通の仕組み、流通戦略の手法等について理解し、答えられること。	25%
マーケティングの最新の動向や理論について理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。マーケティング戦略の最新の動向やソーシャルマーケティング、関係性マーケティングの理論について理解し、答えられること。	15%
評価の方法 70%以上の出席を前提として授業中の課題提出15%、試験85%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	マーケティング戦略とは	授業の内容とマーケティング戦略について
2	製品の基礎知識	製品の中核便益と付随機能、新製品の種類
3	新製品開発戦略	新製品の開発プロセスと事例
4	製品ミックス戦略	製品のアイテムとライン、製品ライン戦略
5	ブランド・マネジメント 1	ブランドの役割、ブランドロイヤルティ
6	ブランド・マネジメント 2	ブランド名戦略、ブランド拡張戦略
7	価格戦略 1	価格の決定方法、新製品の価格戦略
8	価格戦略 2	製品ミックス、心理面を考慮した価格戦略
9	流通の仕組み	流通の仕組みと役割、日本の流通システムの特徴
10	流通チャネル管理	チャネルの選択と管理、パワーコンフリクト
11	プロモーション戦略の基礎	プロモーションの種類、プロモーション・ミックス
12	広告戦略	目的設定と媒体の選択、メディア・ミックス戦略
13	販売促進とPR活動	販売促進の目的設定と手段、PR戦略
14	ソーシャルマーケティング 関係性マーケティング	非営利組織のマーケティングと社会志向のマーケティング、顧客との関係作りの戦略
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇なし。

※必要に応じて資料等を配布する。

【履修条件等】

◇私語を慎み周囲に迷惑をかけること。

◇「マーケティング I」を履修していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇普段から、企業や商品に関するニュース等に注意を払っておくこと。

◇毎回の授業においては、事前に指示をした重要事項の内容を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇私語や遅刻については厳重に注意する。

マーケティングⅡ	ヒノ タカオ 日野 隆生
Marketing II	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

マーケティングという用語は、ビジネス社会において、しばしば見聞きするが、多様な意味に用いられ、また、時代とともに概念は進化してきている。

マーケティングは、企業の基本的機能の1つであるが、あらゆる経営体に適応可能であると考えられる。

本科目では、伝統的なマーケティング論をもとに、サービス業を中心としたマーケティングの理論と具体的なケースをとりあげる。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケティングの基本的用語を理解する	授業内の小レポートによって評価する。 講義内容の要約を記述した小レポートによって、マーケティング論の基本的用語の理解度を判定する。	40%
サービス・マーケティングの特質を理解する	レポート提出によって評価する。 テキスト内容のケースから、マーケティング戦略についての記述内容によって評価する。	20%
現代におけるマーケティングの意義を理解する	期末試験によって評価する。 マーケティング論の現代における意義について、記述内容によって評価する。	40%
評価の方法 授業内小レポート40%、レポート20%、期末試験40%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	授業の進め方、マーケティングとは何か
2	サービスの特性	サービスの概念・サービス業とは
3	サービス・マーケティング	サービス・マーケティング論の特徴
4	サービス・エンカウンター	サービス・エンカウンターとは何か
5	サービスの品質と満足	サービスの品質評価、満足と歓喜
6	従業員満足と顧客満足	サービス・プロフィット・チェーンの考え方
7	サービス・デリバリー	サービス・デリバリー・システム
8	マーケティング・コミュニケーション	サービス・マーケティング・コミュニケーション
9	キャパシティ・マネジメント	サービスの生産への効率的配分
10	サービス人的資源管理	サービス品質と従業員の関わり
11	サービス・ブランディング	サービスのブランド構築
12	宿泊施設	ホテル、ペンション、民宿のマーケティング
13	医療サービス	医療におけるサービスとマーケティング
14	アミューズメント施設	アミューズメント施設のマーケティング
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テスト

【使用教材】

◇『サービス・マネジメントの理論と実践』五絃舎

【履修条件等】

◇さまざまなメディアによってマーケティングに関するニュースを見つけてください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇テキストの該当部分を読んでくる。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

マーケティングⅡ	ヒロセ モリカズ 広瀬 盛一
Marketing II	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

マーケティングの基礎知識から、マーケティングにおけるマネジメントの考え方、マーケティングの実際までを理解する。マーケティングは、商品やサービスの販売を促進する手段として捉えられがちであるが、企業の戦略や非営利組織の活動とも深く関わっている。製品を開発する企業、製品を消費者に届ける流通業、製品を購入し利用する消費者など、さまざまな視点からマーケティングを学習する。テキストだけでなく、事例なども用いて理解を深める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
価格戦略と流通戦略について理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。価格戦略、流通チャネルの構造、流通に関連する組織、チャネルの設計について答えられること。	25%
広告戦略について理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。広告の種類、広告目標、媒体戦略、表現戦略について答えられること。	25%
販売促進、PR、人的販売、リレーションシップ・マーケティングについて理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。販売促進の種類、PRの仕組み、人的販売の役割、リレーションシップ・マーケティングに関連するコンセプトについて答えられること。	25%
グローバルマーケティングとインターネット・マーケティングについて、理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。グローバルマーケティングの課題、インターネット・マーケティングの可能性と問題点について答えられること。	25%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、授業参加度10%、試験90%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	イントロダクション	授業の進め方、価格、流通、販売促進戦略について
2	価格戦略	価格の設定方法について
3	流通チャネル (1)	流通チャネルの構造と関連する組織について
4	流通チャネル (2)	チャネルの設計、小売業と卸売業について
5	事例研究 (1)	流通の事例について
6	広告戦略 (1)	目標や媒体の選択について
7	広告戦略 (2)	広告の表現について
8	販売促進とPR	プロモーションの種類とPR活動について
9	事例研究 (1)	広告の事例について
10	人的販売とリレーションマーケティング	人的販売、リレーションシップ、顧客満足について
11	グローバルマーケティング	グローバル環境とマーケティングミックスについて
12	事例研究 (3)	リレーションシップマーケティングについて
13	インターネット・マーケティング (1)	インターネットを用いたマーケティングについて
14	インターネット・マーケティング (2)	インターネットを用いたマーケティングについて
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇教科書：使用せず。
- ◇参考書：『現代マーケティング論』実教出版

【履修条件等】

- ◇「広告論Ⅰ」、「広告論Ⅱ」、「消費者行動論Ⅰ」、「消費者行動論Ⅱ」、「流通論Ⅰ」、「流通論Ⅱ」などの関連科目を受講することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇本やニュースで関連した資料について目を通しておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇授業に集中すること。態度が悪い場合には、退出を命じる場合もある。

経営心理学 I	サトウ エミ 佐藤 恵美
Business Psychology I	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

経営心理学は、産業場面における人間の心理や行動を科学的視点から研究する学問である。経営や産業に関連する人間行動は、産業と消費という2つの側面から捉えることが可能である。これは具体的に、“労働”、“職業”、“集団・組織”、“販売・広告”、“購買・消費”の5領域に集約される。「経営心理学 I」では、職業適性と採用、労働を考えるワークモチベーション、集団と組織、組織でのコミュニケーション、仕事の能率と安全の観点から詳しく解説し、経営や産業場面における人間行動を科学的に理解することを目的とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
職業適性と採用	「自分はどのような職業に向いているのか」という職業適性の概念を理解し、自分の能力・パーソナリティから職業適性を考え、企業に必要とされる人材像を理解する。	20%
労働の心理学	働くための動機づけに関する歴史的経緯から、科学的管理法、ホーソン研究、職務満足、プロセス理論を理解し、経営者の人間観と働く人のワークモチベーションを理解する。	30%
組織心理学	集団を形成し、組織に参加していく過程から、形成された組織・集団その内部に作り出す人間関係とコミュニケーション、コンフリクト、意思決定システム、職場ストレスを理解する。	30%
仕事の能率と安全	産業場面における時間研究と動作研究から、心理的な時間感覚を理解し、人間の疲労や認知的エラーによって引き起こされるヒューマンエラーをなくし、作業現場での事故防止を考える。	20%
評価の方法 本試験70%、レポート30%、平常点（授業態度など）10%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	授業の進め方、学習の取り組み方、評価方法
2	職業適性と採用(1)	人間の能力とは、知能と職業との関係
3	職業適性と採用(2)	パーソナリティとは、パーソナリティと面接
4	ワークモチベーション	仕事への外発的動機づけと科学的管理法
5	ワークモチベーション	仕事への内発的動機づけと職務満足
6	ワークモチベーション	仕事への達成動機、組織コミットメント
7	組織・集団(1)	職場集団の特性
8	組織・集団(2)	職場の人間関係と対人認知
9	組織・集団(3)	組織におけるコミュニケーション
10	組織・集団(4)	組織におけるコンフリクトと意思決定
11	職場の快適性と疲労(1)	職場ストレスとその対処
12	職場の快適性と疲労(2)	職場環境とハラスメント
13	仕事の能率と安全(1)	時間研究と動作研究
14	仕事の能率と安全(2)	ヒューマンエラーと事故防止対策
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：山口裕幸・芳賀繁・高橋潔・竹村和久著『一経営とワークライフに生かそう
一産業・組織心理学』有斐閣アルマ、2012年（「経営心理学Ⅱ」と同様）。

【履修条件等】

◇「経営心理学Ⅱ」も合わせて履修するのが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業ごとに指定する章を毎回、熟読してくること。

【その他の注意事項】

◇教科書は必ず持参すること。レポート等、提出物は必ず提出すること。

経営心理学Ⅱ	サトウ エミ 佐藤 恵美
Business Psychology II	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

経営心理学は、産業場面における人間の心理や行動を科学的視点から研究する学問である。経営や産業に関連する人間行動は、産業と消費という2つの側面から捉えることが可能である。これは、具体的には、“労働”、“職業”、“集団・組織”、“販売・広告”、“購買・消費”の5領域に集約される。「経営心理学Ⅱ」では、キャリア発達と職業の関係性、組織におけるリーダーシップとチームワーク、企業と消費者、企業における組織デザインと効率性に関する人間工学の観点から解説し、経営や産業場面における人間行動を科学的に理解することを目的とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
キャリア発達と職業	青年期以降の人間の発達とキャリア生活との関連性を理解し、職業的な自我の発達を目指すための職業的発達課題の観点からキャリア・ライフサイクルを理解する。	30%
組織におけるリーダーシップ	組織におけるリーダーシップの歴史と理論を学び、チームワークでの仕事の解決について理解を深め、現代企業における経営者の人間観と管理職側からの人間理解を深める。	30%
企業と消費者	企業側と消費者側の両側面から広告を考え、広告は情報伝達の一部であり、一種のコミュニケーション過程であることを理解する。さらに、消費者の心理や行動を科学的に解明し、購買が起こった背景や原因の心理的側面を理解する。	30%
人間工学	人間工学に基づいたヒトの特性とコンピュータのインターフェースを学び、より良く企業や産業部面で働ける組織デザインを理解する。また、リスクコミュニケーションの観点からマニュアルや警告表示の意義を理解する。	20%

評価の方法	本試験70%、レポート30%、平常点（授業態度など）10%
--------------	-------------------------------

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	授業の進め方、学習の取り組み方、評価方法
2	キャリア発達と職業(1)	個人のキャリアと職業的発達理論
3	キャリア発達と職業(2)	組織内キャリア発達とキャリア・アンカー
4	キャリア発達と職業(3)	企業におけるキャリア研修とコンピテンシー
5	組織とリーダーシップ	組織のライフサイクルと管理職
6	組織とリーダーシップ	リーダーシップの歴史的経緯
7	組織とリーダーシップ	リーダーシップからチームワークへ
8	人事評価(1)	人事アセスメントとは
9	人事評価(2)	絶対評価と相対評価、観察者効果
10	企業と消費者(1)	広告戦略とマーケティング
11	企業と消費者(2)	消費者行動における心理過程
12	企業と消費者(3)	商品やサービスの購入行動
13	人間工学(1)	ヒトとコンピュータのインターフェース
14	人間工学(2)	人間工学と組織デザイン
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：山口裕幸・芳賀繁・高橋潔・竹村和久著『一経営とワークライフに生かそう
一産業・組織心理学』有斐閣アルマ、2012年（「経営心理学Ⅰ」と同様）。

【履修条件等】

◇「経営心理学Ⅰ」も合わせて履修するのが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業ごとに指定する章を毎回、熟読してくること。

【その他の注意事項】

◇教科書は必ず持参すること。レポート等、提出物は必ず提出すること。

会計学 I	イシヅカ カズヤ 石塚 一彌
Accounting I	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

企業活動に直接関係していない学生にとっては、理論としての会計学が実感としてはなじみの薄い学問となっている。このような会計学が“本来は”受講生に身近な領域であることを本講義を通じて感じてもらうことを最大の目標としたい。春学期は、まず、会計へのイメージづくりを眼目とし、会計の考え方（理論）を中心に、講義を進める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基礎的前提に関する知識の修得の有無	会計を勉強する上で必須の会計に関する知識を修得していることを、小テストの実施により確認する。	30%
税務会計に関する基礎的な知識の修得の確認	会計に関する基礎的な理解の程度について、予行試験の実施により確認する。	30%
税務会計に関する理解の深度の確認	会計の意義、必要性、現状における問題点の程度把握とその解決のため素養を修得しているか否かの確認につき、本試験の実施により確認する。	40%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、出席点30%、試験70%として評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション1	会計の意義
2	帳簿の記録について	認識、測定、記録の一連の会計プロセス
3	簿記と会計	唇歯輔車の関係にある会計と簿記
4	企業活動の把握	企業活動の2つの側面
5	会計の歴史と思考	発生主義と現金主義
6	企業会計の基準1	一般に公正妥当と認められた企業会計の基準・その1
7	企業会計の基準2	一般に公正妥当と認められた企業会計の基準・その2
8	企業会計の基準3	一般に公正妥当と認められた企業会計の基準・その3
9	企業会計の基準4	一般に公正妥当と認められた企業会計の基準・その4
10	貸借対照表の検討1	財政状態の意義の再考
11	貸借対照表の検討2	事業用資産と金融資産
12	貸借対照表の検討3	負債と資本1
13	貸借対照表の検討4	負債と資本2
14	損益計算書の再検討	3つの企業活動を中心として
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇毎回レジュメを配付し、それに従って講義を行う。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇「履修の心構え」として、復習中心の勉強が望まれる。

【その他の注意事項】

◇毎回テーマの違うレジュメを受講者本人にのみ配付するので、毎回出席することが重要である。

会計学 I	ドイ ミツル 土井 充
Accounting I	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

「会計学 I」および「会計学 II」を通じて、経営学科の諸科目を学習するための基礎となる、財務会計および管理会計などに関する入門的な領域を取り上げる。「会計学 I」では、会計情報の分析手法および財務諸表の作成方法の概要の学習を通じて、財務諸表の種類や現行の会計基準の特徴などを学ぶ。

そのため本講義では、配賦プリントを用いながら各テーマを説明し、必要に応じて、適宜ケースを用いながら理解を深めて行く。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
複式簿記の基本ルールを正しく理解し、簿記一巡の手続きができること	設問に対する回答によって評価。 取引の仕訳・転記から貸借対照表・損益計算書の作成までのプロセスを理解していること。	20%
財務会計に関する法制度や基準等を理解していること	設問に対する回答によって評価。 会社法や金融商品取引法に基づく会計のはたらきや、制度上開示が求められる書類に関する基本的な用語や様式を理解していること	30%
損益計算・資産評価などわが国の会計基準の特徴を理解していること	設問に対する回答によって評価。 収益費用の認識・測定基準や資産評価基準など日本の現行会計の特徴を理解していること。	30%
財務諸表分析の手法を理解し、目的に応じた分析を行えること	設問に対する回答によって評価。 収益性や安全性など各指標の意味および計算方法、判断基準を理解し、数値の意味を適切に読み取ることができること。	20%
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3分の2以上の出席を前提として平常点10%、試験70%、レポートないし小テスト20%で評価する。 ・ レポートないし小テストは、各テーマの理解の確認のため1回程度課す。 	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要、成績評価の説明、会計の意味
2	会計の種類	財務会計の位置づけ
3	制度会計	財務会計への法規制、会計基準等、財務会計の機能
4	複式簿記の基本原則(1)	仕訳と転記のルール
5	複式簿記の基本原則(2)	貸借対照表と損益計算書の作成
6	貸借対照表の読み方	貸借対照表の様式、流動比率・自己資本比率など
7	棚卸資産の会計	商品の取得原価、製品の製造原価
8	金融資産の会計	金融資産の種類、取得原価、期末評価
9	有形固定資産の会計	有形固定資産の取得原価、減価償却
10	無形固定資産と繰延資産	無形固定資産の取得原価と償却、繰延資産の種類と資産性
11	損益計算書の読み方	損益計算書ならびに包括利益計算書の様式、資本利益率、売上高利益率、資本回転率など
12	期間損益計算の基本原則(1)	発生主義会計
13	期間損益計算の基本原則(2)	実現主義、費用収益対応の原則
14	財務会計の目的とルール	投資意思決定に役立つ会計と利害調整に役立つ会計
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

- ◇教科書：使用せず。
- ◇参考書：必要に応じて演習中に配付します。

【履修条件等】

- ◇本講義では、(1)宿題、(2)小テスト、(3)定期試験、および(4)出欠の確認を行います。
予習・復習ができ、積極的に授業に参加する学生の履修を望みます。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇事前に指示をした事柄がある場合は、次の授業までに作業を進めておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇とくになし。

会計学Ⅱ	イシヅカ カズヤ 石塚 一彌
Accounting Ⅱ	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

会計学が企業の活動を会計というフィルターを通して、認識、測定、記録および伝達する過程を対象とするものである以上、会計学の研究は、会計数値を基軸として企業活動を検証することにある。

秋学期は、春学期に培った会計の思考が、企業会計の数値の把握と計算にどのようにつながっているのかを検討する。講義では、受講生自らが、実際に問題を解き、計算することで、会計に対する知識を確実なものとすることを目標に置く。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基礎的前提に関する知識の修得の有無	会計を勉強する上で必須の会計に関する知識を修得していることを、小テストの実施により確認する。	30%
税務会計に関する基礎的な知識の修得の確認	会計に関する基礎的な理解の程度について、予行試験の実施により確認する。	30%
税務会計に関する理解の深度の確認	会計の意義、必要性、現状における問題点の程度把握とその解決のため素養を修得しているか否かの確認につき、本試験の実施により確認する。	40%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、出席点30%、試験70%として評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	計算問題 1	簿記の基本 1 (会計用語の確認 1)
2	計算問題 2	簿記の基本 2 (会計用語の確認 2)
3	計算問題 3	簿記の基本 3 (会計用語の確認 3)
4	計算問題 4	簿記の基本 4 (2つの計算の側面について 1)
5	計算問題 5	簿記の基本 5 (2つの計算の側面について 2)
6	小括 (理解度チェックテスト 1)	簿記一巡のまとめ
7	計算問題 6	簿記の応用 1 (総合問題 1)
8	計算問題 7	簿記の応用 2 (総合問題 2)
9	計算問題 8	簿記の応用 3 (総合問題 3)
10	計算問題 9	簿記の応用 4 (総合問題 4)
11	計算問題 10	費用配分 1 (棚卸資産)
12	計算問題 11	費用配分 2 (減価償却)
13	計算問題 12	引当金
14	計算問題 13	発生主義と現金主義の典型問題 (経過項目)
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇毎回レジュメを配付し、それに従って講義を行う。

【履修条件等】

◇春学期「会計学 I」を履修済みか、会計学に対しての基本的な理解があること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇「履修の心構え」として、復習中心の勉強が望まれる。

【その他の注意事項】

◇毎回テーマの違うレジュメを受講者本人にのみ配付するので、毎回出席することが重要である。

会計学Ⅱ	ドイ ミツル 土井 充
Accounting Ⅱ	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

「会計学Ⅰ」および「会計学Ⅱ」を通じて、経営学科の諸科目を学習するための基礎となる、財務会計および管理会計などに関する入門的な領域を取り上げる。「会計学Ⅱ」では、「会計学Ⅰ」に引き続き財務会計の個別テーマならびに管理会計や税務会計などの会計学の諸領域を学ぶ。

そのため本講義では、配賦プリントを用いながら各テーマを説明し、必要に応じて、適宜ケースを用いながら理解を深めて行く。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
財務会計の諸テーマに関する基本概念を理解していること	設問に対する回答によって評価。 キャッシュ・フロー計算書や連結財務諸表の作成・分析方法、ならびにその他諸領域（国際会計や中小企業会計、環境会計、監査、公会計など）の基礎概念を理解していること。	30%
管理会計の基本概念を理解していること	設問に対する回答によって評価。 売上高、変動費、固定費、限界利益の相互関係に基づく損益分岐点分析、および計画、実行、比較検討、改善策というマネジメントサイクルを支える予算管理等を理解していること。	30%
税務会計の基本原則を理解していること	設問に対する回答によって評価。 税務会計の基本用語、ならびに課税所得の計算方法を理解していること。	20%
現行会計の概要を体系的に理解していること	設問に対する回答によって評価。 財務会計・管理会計・税務会計など会計の種類と当該分野における基本原理を理解するとともに、個々の会計の関係性を理解していること。	20%
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3分の2以上の出席を前提として平常点10%、試験70%、レポートないし小テスト20%で評価する。 ・ レポートないし小テストは、各テーマの理解の確認のため1回程度課す。 	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義概要、成績評価の説明、「会計Ⅰ」の復習
2	キャッシュ・フロー計算書(1)	キャッシュ・フロー計算書の作成方法
3	キャッシュ・フロー計算書(2)	キャッシュ・フロー計算書の読み方
4	連結財務諸表(1)	連結財務諸表の作成方法
5	連結財務諸表(2)	セグメント情報、連結株主資本等変動計算書
6	国際会計基準(IFRS)(1)	国際的な会計基準の必要性
7	国際会計基準(IFRS)(2)	IFRSの概要とわが国への影響
8	中小企業の会計	中小指針と中小要領
9	監査	監査の必要性と方法
10	税務会計(1)	税務会計と財務会計
11	税務会計(2)	課税所得計算の仕組み
12	管理会計(1)	管理会計と財務会計
13	管理会計(2)	損益分岐点分析、短期意思決定、原価計算、原価差異
14	その他の諸領域	公会計、環境会計など
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

- ◇教科書：使用せず。
- ◇参考書：必要に応じて演習中に配付します。

【履修条件等】

- ◇本講義では、(1)宿題、(2)小テスト、(3)定期試験、および(4)出欠の確認を行います。
予習・復習ができ、積極的に授業に参加する学生の履修を望みます。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇事前に指示をした事柄がある場合は、次の授業までに作業を進めておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇とくになし。

入門簿記 I	キタイ フジオ 北井 不二男
Elementary Bookkeeping I	基礎科目 / 半期 / 2単位

【授業概要】

簿記は、企業の日常の経済活動を記録し、その結果を整理して報告するための技術であり、こんにちでは必須のビジネススキルのひとつとなっている。

本講義は、会計関連科目への入門講座としての性格を有し、簿記の初歩を取り扱う。すなわち、簿記をはじめて学ぶ学生を対象とし、簿記の基本的な考え方と技術を習得する事を目標としている。取引の記帳から決算手続きまでの簿記一巡の流れが理解できるように、解説および問題演習により進める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
複式簿記の基礎的な専門用語および基礎概念を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。 簿記の意義、簿記の種類、簿記に関連する用語を答えられること。また、基本的な勘定科目と貸借対照表、損益計算書の意味を理解し、要素勘定に正確に分類できること。	30%
簿記上の取引の意味を理解し、その記録を習得していること	設問に対する回答によって評価。 取引の8要素を理解し、基本的な取引の仕訳、勘定口座への転記が行えること。	40%
決算の意味、手続きを理解していること	設問に対する回答によって評価。 各種試算表の意味と作成方法、6桁精算表の作成方法を理解し、財務諸表の作成ができること。	20%
現金取引、当座預金取引、伝票会計を理解していること	設問に対する回答によって評価。 現金の範囲、現金過不足の手続き、当座預金と当座借越の手続きを正しく理解し、仕訳・転記が行えること。また、入金伝票・出金伝票・振替伝票の意味、伝票の集計手続きを理解していること。	10%
評価の方法	小テストあるいは課題20%、本試験70%、授業への貢献度10%を総合的に判断。「出席点」は設定しない。ただし、全講義回数分の3分の2以上の出席が、成績評価の対象となる条件となる。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義の進め方および成績評価方法についての説明、簿記の目的・意義など
2	簿記の基礎概念(1)	会計期間、貸借対照表とその構成要素(資産・負債・純資産)
3	簿記の基礎概念(2)	損益計算書とその構成要素(収益・費用)、純損益の計算
4	取引と仕訳	簿記上の取引、取引の8要素、仕訳
5	仕訳と転記(1)	仕訳、勘定口座および転記
6	仕訳と転記(2)	仕訳と仕訳帳の記入、転記と総勘定元帳の記入
7	決算(1)	試算表の種類と仕組み、作成方法
8	決算(2)	6桁精算表の作成
9	決算(3)	帳簿の締切り、財務諸表の作成
10	簿記一巡の確認	演習
11	現金(1)	現金の範囲、現金過不足
12	現金(2)	小口現金の処理、現金出納帳・小口現金出納帳の作成
13	当座預金	預金の種類、当座借越と当座
14	伝票	入金伝票、出金伝票、振替伝票、伝票の集計
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テスト

【使用教材】

- ◇教科書：開講時に指示する。
- ◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

- ◇商業簿記の習得に意欲的な学生の受講を望む。
- ◇講義の特性上、欠席が多いとついていけなくなるため、基本的には全講義出席することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇連続性のある内容であるため復習をしっかりと、宿題などの与えられた自習課題はきちんとこなすこと。

【その他の注意事項】

- ◇他者に迷惑となる行為(私語等)は厳に禁止する。携帯電話の使用(メール・ウェブの閲覧も含む)も不可とする。注意をしても聞かないなど悪質な場合は、単位を付与しないこともありうるので留意のこと。
- ◇なお、受講の際には電卓(12桁以上)を準備のこと。算盤でもかまわない。中間試験および期末試験の際には、携帯電話、電子辞書、PC、その他電子機器に内蔵されている電卓の使用は一切禁止するので気をつけること。

<h1 style="margin: 0;">入門簿記 I</h1>	ドイ ミツル 土井 充
Elementary Bookkeeping I	基礎科目 / 半期 / 2単位

【授業概要】

簿記は、企業の日常の経済活動を記録し、その結果を整理して報告するための技術であり、こんにちでは必須のビジネススキルのひとつとなっている。

本講義は、会計関連科目への入門講座としての性格を有し、簿記の初歩を取り扱う。すなわち、簿記をはじめて学ぶ学生を対象とし、簿記の基本的な考え方と技術を習得する事を目標としている。取引の記帳から決算手続きまでの簿記一巡の流れが理解できるように、解説および問題演習により進める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
複式簿記の基礎的な専門用語および基礎概念を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。 簿記の意義、簿記の種類、簿記に関連する用語を答えられること。また、基本的な勘定科目と貸借対照表、損益計算書の意味を理解し、要素勘定に正確に分類できること。	30%
簿記上の取引の意味を理解し、その記録を習得していること	設問に対する回答によって評価。 取引の8要素を理解し、基本的な取引の仕訳、勘定口座への転記が行えること。	40%
決算の意味、手続きを理解していること	設問に対する回答によって評価。 各種試算表の意味と作成方法、6桁精算表の作成方法を理解し、財務諸表の作成ができること。	20%
現金取引、当座預金取引、伝票会計を理解していること	設問に対する回答によって評価。 現金の範囲、現金過不足の手続き、当座預金と当座借越の手続きを正しく理解し、仕訳・転記が行えること。また、入金伝票・出金伝票・振替伝票の意味、伝票の集計手続きを理解していること。	10%
評価の方法	小テストあるいは課題20%、本試験70%、授業への貢献度10%を総合的に判断。「出席点」は設定しない。ただし、全講義回数数の3分の2以上の出席が、成績評価の対象となる条件となる。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義の進め方および成績評価方法についての説明、簿記の目的・意義など
2	簿記の基礎概念(1)	会計期間、貸借対照表とその構成要素(資産・負債・純資産)
3	簿記の基礎概念(2)	損益計算書とその構成要素(収益・費用)、純損益の計算
4	取引と仕訳	簿記上の取引、取引の8要素、仕訳
5	仕訳と転記(1)	仕訳、勘定口座および転記
6	仕訳と転記(2)	仕訳と仕訳帳の記入、転記と総勘定元帳の記入
7	決算(1)	試算表の種類と仕組み、作成方法
8	決算(2)	6桁精算表の作成
9	決算(3)	帳簿の締切り、財務諸表の作成
10	簿記一巡の確認	演習
11	現金(1)	現金の範囲、現金過不足
12	現金(2)	小口現金の処理、現金出納帳・小口現金出納帳の作成
13	当座預金	預金の種類、当座借越と当座
14	伝票	入金伝票、出金伝票、振替伝票、伝票の集計
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テスト

【使用教材】

- ◇教科書：開講時に指示する。
- ◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

- ◇商業簿記の習得に意欲的な学生の受講を望む。
- ◇講義の特性上、欠席が多いとついていけなくなるため、基本的には全講義出席することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇連続性のある内容であるため復習をしっかりと、宿題などの与えられた自習課題はきちんとこなすこと。

【その他の注意事項】

- ◇他者に迷惑となる行為(私語等)は厳に禁止する。携帯電話の使用(メール・ウェブの閲覧も含む)も不可とする。注意をしても聞かないなど悪質な場合は、単位を付与しないこともありうるので留意のこと。
- ◇なお、受講の際には電卓(12桁以上)を準備のこと。算盤でもかまわない。中間試験および期末試験の際には、携帯電話、電子辞書、PC、その他電子機器に内蔵されている電卓の使用は一切禁止するので気をつけること。

<h1 style="margin: 0;">入門簿記 I</h1>	<small>フクヤマ トモキ</small> 福山 倫基
Elementary Bookkeeping I	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

簿記は、企業の日常の経済活動を記録し、その結果を整理して報告するための技術であり、こんにちでは必須のビジネススキルのひとつとなっている。

本講義は、会計関連科目への入門講座としての性格を有し、簿記の初歩を取り扱う。すなわち、簿記をはじめて学ぶ学生を対象とし、簿記の基本的な考え方と技術を習得することを目標としている。取引の記帳から決算手続きまでの簿記一巡の流れが理解できるように、解説および問題演習により進める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
複式簿記の基礎的な専門用語および基礎概念を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。 簿記の意義、簿記の種類、簿記に関連する用語を答えられること。また、基本的な勘定科目と貸借対照表、損益計算書の意味を理解し、要素勘定に正確に分類できること。	30%
簿記上の取引の意味を理解し、その記録を習得していること	設問に対する回答によって評価。 取引の8要素を理解し、基本的な取引の仕訳、勘定口座への転記が行えること。	40%
決算の意味、手続きを理解していること	設問に対する回答によって評価。 各種試算表の意味と作成方法、6桁精算表の作成方法を理解し、財務諸表の作成ができること。	20%
現金取引、当座預金取引、伝票会計を理解していること	設問に対する回答によって評価。 現金の範囲、現金過不足の手続き、当座預金と当座借越の手続きを正しく理解し、仕訳・転記が行えること。また、入金伝票・出金伝票・振替伝票の意味、伝票の集計手続きを理解していること。	10%
評価の方法	小テストあるいは課題20%、本試験70%、授業への貢献度10%を総合的に判断。「出席点」は設定しない。ただし、全講義回数分の3分の2以上の出席が、成績評価の対象となる条件となる。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義の進め方および成績評価方法についての説明、簿記の目的・意義など
2	簿記の基礎概念(1)	会計期間、貸借対照表とその構成要素(資産・負債・純資産)
3	簿記の基礎概念(2)	損益計算書とその構成要素(収益・費用)、純損益の計算
4	取引と仕訳	簿記上の取引、取引の8要素、仕訳
5	仕訳と転記(1)	仕訳、勘定口座および転記
6	仕訳と転記(2)	仕訳と仕訳帳の記入、転記と総勘定元帳の記入
7	決算(1)	試算表の種類と仕組み、作成方法
8	決算(2)	6桁精算表の作成
9	決算(3)	帳簿の締切り、財務諸表の作成
10	簿記一巡の確認	演習
11	現金(1)	現金の範囲、現金過不足
12	現金(2)	小口現金の処理、現金出納帳・小口現金出納帳の作成
13	当座預金	預金の種類、当座借越と当座
14	伝票	入金伝票、出金伝票、振替伝票、伝票の集計
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テスト

【使用教材】

- ◇教科書：開講時に指示する。
- ◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

- ◇商業簿記の習得に意欲的な学生の受講を望む。
- ◇講義の特性上、欠席が多いとついていけなくなるため、基本的には全講義出席することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇連続性のある内容であるため復習をしっかりと、宿題などの与えられた自習課題はきちんとこなすこと。

【その他の注意事項】

- ◇他者に迷惑となる行為(私語等)は厳に禁止する。携帯電話の使用(メール・ウェブの閲覧も含む)も不可とする。注意をしても聞かないなど悪質な場合は、単位を付与しないこともありうるので留意のこと。
- ◇なお、受講の際には電卓(12桁以上)を準備のこと。算盤でもかまわない。中間試験および期末試験の際には、携帯電話、電子辞書、PC、その他電子機器に内蔵されている電卓の使用は一切禁止するので気をつけること。

入門簿記 I	ムラカミ ショウイチ 村上 翔一
Elementary Bookkeeping I	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

簿記は、企業の日常の経済活動を記録し、その結果を整理して報告するための技術であり、こんにちでは必須のビジネススキルのひとつとなっている。

本講義は、会計関連科目への入門講座としての性格を有し、簿記の初歩を取り扱う。すなわち、簿記をはじめて学ぶ学生を対象とし、簿記の基本的な考え方と技術を習得する事を目標としている。取引の記帳から決算手続きまでの簿記一巡の流れが理解できるように、解説および問題演習により進める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
複式簿記の基礎的な専門用語および基礎概念を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。 簿記の意義、簿記の種類、簿記に関連する用語を答えられること。また、基本的な勘定科目と貸借対照表、損益計算書の意味を理解し、要素勘定に正確に分類できること。	30%
簿記上の取引の意味を理解し、その記録を習得していること	設問に対する回答によって評価。 取引の8要素を理解し、基本的な取引の仕訳、勘定口座への転記が行えること。	40%
決算の意味、手続きを理解していること	設問に対する回答によって評価。 各種試算表の意味と作成方法、6桁精算表の作成方法を理解し、財務諸表の作成ができること。	20%
現金取引、当座預金取引、伝票会計を理解していること	設問に対する回答によって評価。 現金の範囲、現金過不足の手続き、当座預金と当座借越の手続きを正しく理解し、仕訳・転記が行えること。また、入金伝票・出金伝票・振替伝票の意味、伝票の集計手続きを理解していること。	10%
評価の方法	小テストあるいは課題20%、本試験70%、授業への貢献度10%を総合的に判断。「出席点」は設定しない。ただし、全講義回数分の3分の2以上の出席が、成績評価の対象となる条件となる。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義の進め方および成績評価方法についての説明、簿記の目的・意義など
2	簿記の基礎概念(1)	会計期間、貸借対照表とその構成要素(資産・負債・純資産)
3	簿記の基礎概念(2)	損益計算書とその構成要素(収益・費用)、純損益の計算
4	取引と仕訳	簿記上の取引、取引の8要素、仕訳
5	仕訳と転記(1)	仕訳、勘定口座および転記
6	仕訳と転記(2)	仕訳と仕訳帳の記入、転記と総勘定元帳の記入
7	決算(1)	試算表の種類と仕組み、作成方法
8	決算(2)	6桁精算表の作成
9	決算(3)	帳簿の締切り、財務諸表の作成
10	簿記一巡の確認	演習
11	現金(1)	現金の範囲、現金過不足
12	現金(2)	小口現金の処理、現金出納帳・小口現金出納帳の作成
13	当座預金	預金の種類、当座借越と当座
14	伝票	入金伝票、出金伝票、振替伝票、伝票の集計
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テスト

【使用教材】

◇教科書：瀬良聡一著『わかる！できる！わかる！日商簿記3級テキスト＋問題集＋模擬試験』ネットスクール出版

【履修条件等】

◇商業簿記の習得に意欲的な学生の受講を望む。

◇講義の特性上、欠席が多いとついていけなくなるため、基本的には全講義出席することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇連続性のある内容であるため復習をしっかりと、宿題などの与えられた自習課題はきちんとこなすこと。

【その他の注意事項】

◇他者に迷惑となる行為(私語等)は厳に禁止する。携帯電話の使用(メール・ウェブの閲覧も含む)も不可とする。注意をしても聞かないなど悪質な場合は、単位を付与しないこともありうるので留意のこと。

◇なお、受講の際には電卓(12桁以上)を準備のこと。算盤でもかまわない。中間試験および期末試験の際には、携帯電話、電子辞書、PC、その他電子機器に内蔵されている電卓の使用は一切禁止するので気をつけること。

<h2 style="margin: 0;">入門簿記 I</h2>	リ 李 エ ン 焱
Elementary Bookkeeping I	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

簿記は、企業の日常の経済活動を記録し、その結果を整理して報告するための技術であり、こんにちでは必須のビジネススキルのひとつとなっている。

本講義は、会計関連科目への入門講座としての性格を有し、簿記の初歩を取り扱う。すなわち、簿記をはじめて学ぶ学生を対象とし、簿記の基本的な考え方と技術を習得することを目標としている。取引の記帳から決算手続きまでの簿記一巡の流れが理解できるように、解説および問題演習により進める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
複式簿記の基礎的な専門用語および基礎概念を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。 簿記の意義、簿記の種類、簿記に関連する用語を答えられること。また、基本的な勘定科目と貸借対照表、損益計算書の意味を理解し、要素勘定に正確に分類できること。	30%
簿記上の取引の意味を理解し、その記録を習得していること	設問に対する回答によって評価。 取引の8要素を理解し、基本的な取引の仕訳、勘定口座への転記が行えること。	40%
決算の意味、手続きを理解していること	設問に対する回答によって評価。 各種試算表の意味と作成方法、6桁精算表の作成方法を理解し、財務諸表の作成ができること。	20%
現金取引、当座預金取引、伝票会計を理解していること	設問に対する回答によって評価。 現金の範囲、現金過不足の手続き、当座預金と当座借越の手続きを正しく理解し、仕訳・転記が行えること。また、入金伝票・出金伝票・振替伝票の意味、伝票の集計手続きを理解していること。	10%
評価の方法	小テストあるいは課題20%、本試験70%、授業への貢献度10%を総合的に判断。「出席点」は設定しない。ただし、全講義回数分の3分の2以上の出席が、成績評価の対象となる条件となる。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義の進め方および成績評価方法についての説明、簿記の目的・意義など
2	簿記の基礎概念(1)	会計期間、貸借対照表とその構成要素(資産・負債・純資産)
3	簿記の基礎概念(2)	損益計算書とその構成要素(収益・費用)、純損益の計算
4	取引と仕訳	簿記上の取引、取引の8要素、仕訳
5	仕訳と転記(1)	仕訳、勘定口座および転記
6	仕訳と転記(2)	仕訳と仕訳帳の記入、転記と総勘定元帳の記入
7	決算(1)	試算表の種類と仕組み、作成方法
8	決算(2)	6桁精算表の作成
9	決算(3)	帳簿の締切り、財務諸表の作成
10	簿記一巡の確認	演習
11	現金(1)	現金の範囲、現金過不足
12	現金(2)	小口現金の処理、現金出納帳・小口現金出納帳の作成
13	当座預金	預金の種類、当座借越と当座
14	伝票	入金伝票、出金伝票、振替伝票、伝票の集計
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テスト

【使用教材】

- ◇教科書：開講時に指示する。
- ◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

- ◇商業簿記の習得に意欲的な学生の受講を望む。
- ◇講義の特性上、欠席が多いとついていけなくなるため、基本的には全講義出席することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇連続性のある内容であるため復習をしっかりと、宿題などの与えられた自習課題はきちんとこなすこと。

【その他の注意事項】

- ◇他者に迷惑となる行為(私語等)は厳に禁止する。携帯電話の使用(メール・ウェブの閲覧も含む)も不可とする。注意をしても聞かないなど悪質な場合は、単位を付与しないこともありうるので留意のこと。
- ◇なお、受講の際には電卓(12桁以上)を準備のこと。算盤でもかまわない。中間試験および期末試験の際には、携帯電話、電子辞書、PC、その他電子機器に内蔵されている電卓の使用は一切禁止するので気をつけること。

<h2 style="margin: 0;">入門簿記Ⅱ</h2>	キタイ フジオ 北井 不二男
Elementary Bookkeeping II	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

簿記は、一般にビジネスの言語であるといわれています。本講義は、将来、経済社会で活躍する諸君たちにとって必要不可欠な基礎知識であるビジネス言語としての複式簿記の処理手続きの基礎を、体系的知識として習得することを目的とします。

本講義では、複式・商業簿記の基礎となる個人企業の会計処理を中心とした複式簿記一巡の処理を習得します。なお、講義は毎時間、1. 教科書により複式簿記の処理手続を観察したうえで、2. その確認・理解のために記帳練習を行う、という順序で進めて行きます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
期中取引の処理ができること	設問に対する回答によって評価。 商品売買、掛取引、その他債権債務、手形、固定資産、売買目的有価証券などに関する期中取引を、適切な勘定科目ならびに金額によって仕訳できる。	30%
8桁精算表を作成できること	設問に対する回答によって評価。 決算整理事項に関する適切な処理を行い、8桁精算表を作成することができる。	45%
補助簿の作成手続きを理解していること	設問に対する回答によって評価。 売上帳・仕入帳、商品有高帳ならびに手形記入帳など補助簿を作成することができる。	25%
評価の方法	3分の2以上の出席を前提として出席10%、試験70%、課題ないし小テスト20%で評価する。 課題ないし小テストは、各テーマの理解の確認のため、授業中に1～2回程度課す。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	簿記一巡の復習	春学期の復習
2	商品売買の記帳	三分法による記帳方法
3	商品有高帳	商品有高帳の記帳
4	売上帳・仕入帳	売上帳・仕入帳の記帳方法
5	掛取引の記帳	売掛金元帳・買掛金元帳、貸倒引当金の記帳
6	その他の債権債務の記帳	未収金・未払金、前払金・前受金、商品券などの記帳
7	手形取引の記帳	約束手形の記帳
8	固定資産の記帳	固定資産の取得・売却、減価償却の記帳
9	有価証券	有価証券の取得・売却の記帳
10	収益・費用の繰延	収益・費用の繰り延べ処理
11	収益・費用の見越	収益・費用の見越し処理
12	資本金・引出金・税金	引出金ならびに個人企業の税金の処理
13	8桁精算表	整理記入欄の記帳方法
14	決算	決算手続の記帳練習
15	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テスト

【使用教材】

- ◇教科書：開講時に指示する。
- ◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

- ◇上述の授業概要は、「入門簿記Ⅰ」および「入門簿記Ⅱ」と併せて受講することにより達成されます。そのため、必ず「入門簿記Ⅰ」と「入門簿記Ⅱ」を連続して受講する必要があります。また、この講義では、(1)宿題、(2)小テスト、(3)定期試験、および(4)出欠の確認を行います。予習・復習ができ、積極的に授業に参加する学生の履修を望みます。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇「入門簿記Ⅰ」の講義内容を確認しておくこと。
- ◇事前に指示をした事柄がある場合は、次の授業までに作業を進めておくこと

【その他の注意事項】

- ◇電卓が必要です（12桁。辞書・通信機能なし。音が出るモノも不可）。

入門簿記Ⅱ	ドイ ミツル 土井 充
Elementary Bookkeeping II	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

簿記は、一般にビジネスの言語であるといわれています。本講義は、将来、経済社会で活躍する諸君たちにとって必要不可欠な基礎知識であるビジネス言語としての複式簿記の処理手続きの基礎を、体系的知識として習得することを目的とします。

本講義では、複式・商業簿記の基礎となる個人企業の会計処理を中心とした複式簿記一巡の処理を習得します。なお、講義は毎時間、1. 教科書により複式簿記の処理手続を観察したうえで、2. その確認・理解のために記帳練習を行う、という順序で進めて行きます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
期中取引の処理ができること	設問に対する回答によって評価。 商品売買、掛取引、その他債権債務、手形、固定資産、売買目的有価証券などに関する期中取引を、適切な勘定科目ならびに金額によって仕訳できる。	30%
8桁精算表を作成できること	設問に対する回答によって評価。 決算整理事項に関する適切な処理を行い、8桁精算表を作成することができる。	45%
補助簿の作成手続きを理解していること	設問に対する回答によって評価。 売上帳・仕入帳、商品有高帳ならびに手形記入帳など補助簿を作成することができる。	25%
評価の方法	3分の2以上の出席を前提として出席10%、試験70%、課題ないし小テスト20%で評価する。 課題ないし小テストは、各テーマの理解の確認のため、授業中に1～2回程度課す。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	簿記一巡の復習	春学期の復習
2	商品売買の記帳	三分法による記帳方法
3	商品有高帳	商品有高帳の記帳
4	売上帳・仕入帳	売上帳・仕入帳の記帳方法
5	掛取引の記帳	売掛金元帳・買掛金元帳、貸倒引当金の記帳
6	その他の債権債務の記帳	未収金・未払金、前払金・前受金、商品券などの記帳
7	手形取引の記帳	約束手形の記帳
8	固定資産の記帳	固定資産の取得・売却、減価償却の記帳
9	有価証券	有価証券の取得・売却の記帳
10	収益・費用の繰延	収益・費用の繰り延べ処理
11	収益・費用の見越	収益・費用の見越し処理
12	資本金・引出金・税金	引出金ならびに個人企業の税金の処理
13	8桁精算表	整理記入欄の記帳方法
14	決算	決算手続の記帳練習
15	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テスト

【使用教材】

- ◇教科書：開講時に指示する。
- ◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

- ◇上述の授業概要は、「入門簿記Ⅰ」および「入門簿記Ⅱ」と併せて受講することにより達成されます。そのため、必ず「入門簿記Ⅰ」と「入門簿記Ⅱ」を連続して受講する必要があります。また、この講義では、(1)宿題、(2)小テスト、(3)定期試験、および(4)出欠の確認を行います。予習・復習ができ、積極的に授業に参加する学生の履修を望みます。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇「入門簿記Ⅰ」の講義内容を確認しておくこと。
- ◇事前に指示をした事柄がある場合は、次の授業までに作業を進めておくこと

【その他の注意事項】

- ◇電卓が必要です（12桁。辞書・通信機能なし。音が出るモノも不可）。

入門簿記Ⅱ	フクヤマ トモキ 福山 倫基
Elementary Bookkeeping II	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

簿記は、一般にビジネスの言語であるといわれています。本講義は、将来、経済社会で活躍する諸君たちにとって必要不可欠な基礎知識であるビジネス言語としての複式簿記の処理手続きの基礎を、体系的知識として習得することを目的とします。

本講義では、複式・商業簿記の基礎となる個人企業の会計処理を中心とした複式簿記一巡の処理を習得します。なお、講義は毎時間、1. 教科書により複式簿記の処理手続を観察したうえで、2. その確認・理解のために記帳練習を行う、という順序で進めて行きます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
期中取引の処理ができること	設問に対する回答によって評価。 商品売買、掛取引、その他債権債務、手形、固定資産、売買目的有価証券などに関する期中取引を、適切な勘定科目ならびに金額によって仕訳できる。	30%
8桁精算表を作成できること	設問に対する回答によって評価。 決算整理事項に関する適切な処理を行い、8桁精算表を作成することができる。	45%
補助簿の作成手続きを理解していること	設問に対する回答によって評価。 売上帳・仕入帳、商品有高帳ならびに手形記入帳など補助簿を作成することができる。	25%
評価の方法	3分の2以上の出席を前提として出席10%、試験70%、課題ないし小テスト20%で評価する。 課題ないし小テストは、各テーマの理解の確認のため、授業中に1～2回程度課す。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	簿記一巡の復習	春学期の復習
2	商品売買の記帳	三分法による記帳方法
3	商品有高帳	商品有高帳の記帳
4	売上帳・仕入帳	売上帳・仕入帳の記帳方法
5	掛取引の記帳	売掛金元帳・買掛金元帳、貸倒引当金の記帳
6	その他の債権債務の記帳	未収金・未払金、前払金・前受金、商品券などの記帳
7	手形取引の記帳	約束手形の記帳
8	固定資産の記帳	固定資産の取得・売却、減価償却の記帳
9	有価証券	有価証券の取得・売却の記帳
10	収益・費用の繰延	収益・費用の繰り延べ処理
11	収益・費用の見越	収益・費用の見越し処理
12	資本金・引出金・税金	引出金ならびに個人企業の税金の処理
13	8桁精算表	整理記入欄の記帳方法
14	決算	決算手続の記帳練習
15	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テスト

【使用教材】

- ◇教科書：開講時に指示する。
- ◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

- ◇上述の授業概要は、「入門簿記Ⅰ」および「入門簿記Ⅱ」と併せて受講することにより達成されます。そのため、必ず「入門簿記Ⅰ」と「入門簿記Ⅱ」を連続して受講する必要があります。また、この講義では、(1)宿題、(2)小テスト、(3)定期試験、および(4)出欠の確認を行います。予習・復習ができ、積極的に授業に参加する学生の履修を望みます。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇「入門簿記Ⅰ」の講義内容を確認しておくこと。
- ◇事前に指示をした事柄がある場合は、次の授業までに作業を進めておくこと

【その他の注意事項】

- ◇電卓が必要です（12桁。辞書・通信機能なし。音が出るモノも不可）。

入門簿記Ⅱ	ムラカミ ショウイチ 村上 翔一
Elementary Bookkeeping II	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

簿記は、一般にビジネスの言語であるといわれています。本講義は、将来、経済社会で活躍する諸君たちにとって必要不可欠な基礎知識であるビジネス言語としての複式簿記の処理手続きの基礎を、体系的知識として習得することを目的とします。

本講義では、複式・商業簿記の基礎となる個人企業の会計処理を中心とした複式簿記一巡の処理を習得します。なお、講義は毎時間、1. 教科書により複式簿記の処理手続を観察したうえで、2. その確認・理解のために記帳練習を行う、という順序で進めて行きます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
期中取引の処理ができること	設問に対する回答によって評価。 商品売買、掛取引、その他債権債務、手形、固定資産、売買目的有価証券などに関する期中取引を、適切な勘定科目ならびに金額によって仕訳できる。	30%
8桁精算表を作成できること	設問に対する回答によって評価。 決算整理事項に関する適切な処理を行い、8桁精算表を作成することができる。	45%
補助簿の作成手続きを理解していること	設問に対する回答によって評価。 売上帳・仕入帳、商品有高帳ならびに手形記入帳など補助簿を作成することができる。	25%
評価の方法	3分の2以上の出席を前提として出席10%、試験70%、課題ないし小テスト20%で評価する。 課題ないし小テストは、各テーマの理解の確認のため、授業中に1～2回程度課す。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	簿記一巡の復習	春学期の復習
2	商品売買の記帳	三分法による記帳方法
3	商品有高帳	商品有高帳の記帳
4	売上帳・仕入帳	売上帳・仕入帳の記帳方法
5	掛取引の記帳	売掛金元帳・買掛金元帳、貸倒引当金の記帳
6	その他の債権債務の記帳	未収金・未払金、前払金・前受金、商品券などの記帳
7	手形取引の記帳	約束手形の記帳
8	固定資産の記帳	固定資産の取得・売却、減価償却の記帳
9	有価証券	有価証券の取得・売却の記帳
10	収益・費用の繰延	収益・費用の繰り延べ処理
11	収益・費用の見越	収益・費用の見越し処理
12	資本金・引出金・税金	引出金ならびに個人企業の税金の処理
13	8桁精算表	整理記入欄の記帳方法
14	決算	決算手続の記帳練習
15	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テスト

【使用教材】

◇教科書：瀬良聡一著『わかる！できる！わかる！日商簿記3級テキスト＋問題集＋模擬試験』ネットスクール出版

【履修条件等】

◇上述の授業概要は、「入門簿記Ⅰ」および「入門簿記Ⅱ」と併せて受講することにより達成されます。そのため、必ず「入門簿記Ⅰ」と「入門簿記Ⅱ」を連続して受講する必要があります。また、この講義では、(1)宿題、(2)小テスト、(3)定期試験、および(4)出欠の確認を行います。予習・復習ができ、積極的に授業に参加する学生の履修を望みます。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇「入門簿記Ⅰ」の講義内容を確認しておくこと。
- ◇事前に指示をした事柄がある場合は、次の授業までに作業を進めておくこと

【その他の注意事項】

◇電卓が必要です（12桁。辞書・通信機能なし。音が出るモノも不可）。

入門簿記Ⅱ	リ 李 エ ン 焱
Elementary Bookkeeping II	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

簿記は、一般にビジネスの言語であるといわれています。本講義は、将来、経済社会で活躍する諸君たちにとって必要不可欠な基礎知識であるビジネス言語としての複式簿記の処理手続きの基礎を、体系的知識として習得することを目的とします。

本講義では、複式・商業簿記の基礎となる個人企業の会計処理を中心とした複式簿記一巡の処理を習得します。なお、講義は毎時間、1. 教科書により複式簿記の処理手続を観察したうえで、2. その確認・理解のために記帳練習を行う、という順序で進めて行きます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
期中取引の処理ができること	設問に対する回答によって評価。 商品売買、掛取引、その他債権債務、手形、固定資産、売買目的有価証券などに関する期中取引を、適切な勘定科目ならびに金額によって仕訳できる。	30%
8桁精算表を作成できること	設問に対する回答によって評価。 決算整理事項に関する適切な処理を行い、8桁精算表を作成することができる。	45%
補助簿の作成手続きを理解していること	設問に対する回答によって評価。 売上帳・仕入帳、商品有高帳ならびに手形記入帳など補助簿を作成することができる。	25%
評価の方法	3分の2以上の出席を前提として出席10%、試験70%、課題ないし小テスト20%で評価する。 課題ないし小テストは、各テーマの理解の確認のため、授業中に1～2回程度課す。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	簿記一巡の復習	春学期の復習
2	商品売買の記帳	三分法による記帳方法
3	商品有高帳	商品有高帳の記帳
4	売上帳・仕入帳	売上帳・仕入帳の記帳方法
5	掛取引の記帳	売掛金元帳・買掛金元帳、貸倒引当金の記帳
6	その他の債権債務の記帳	未収金・未払金、前払金・前受金、商品券などの記帳
7	手形取引の記帳	約束手形の記帳
8	固定資産の記帳	固定資産の取得・売却、減価償却の記帳
9	有価証券	有価証券の取得・売却の記帳
10	収益・費用の繰延	収益・費用の繰り延べ処理
11	収益・費用の見越	収益・費用の見越し処理
12	資本金・引出金・税金	引出金ならびに個人企業の税金の処理
13	8桁精算表	整理記入欄の記帳方法
14	決算	決算手続の記帳練習
15	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テスト

【使用教材】

- ◇教科書：開講時に指示する。
- ◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

- ◇上述の授業概要は、「入門簿記Ⅰ」および「入門簿記Ⅱ」と併せて受講することにより達成されます。そのため、必ず「入門簿記Ⅰ」と「入門簿記Ⅱ」を連続して受講する必要があります。また、この講義では、(1)宿題、(2)小テスト、(3)定期試験、および(4)出欠の確認を行います。予習・復習ができ、積極的に授業に参加する学生の履修を望みます。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇「入門簿記Ⅰ」の講義内容を確認しておくこと。
- ◇事前に指示をした事柄がある場合は、次の授業までに作業を進めておくこと

【その他の注意事項】

- ◇電卓が必要です（12桁。辞書・通信機能なし。音が出るモノも不可）。

簿記技能 I (日商 3 級)	フクヤマ トモキ 福山 倫基
Bookkeeping I	応用科目 / 集中 / 2 単位

【授業概要】

本講義は、2017年度日商簿記3級、6月試験合格を目指す方のための講義です。そのため、「入門簿記Ⅰ」、「入門簿記Ⅱ」の履修が終わっている、もしくはご自身で日商簿記3級の自学を行っている方を対象とします。

本講義では、検定試験特有の問題の解き方、および素早く回答を行うためのテクニック、受講者の苦手とする設問に対する個別指導などを行います。次の点にご注意ください。それは、本講義を受けるだけで検定試験合格ができるわけではないという点です。試験に合格するためには、自分で問題演習をこなす自学の時間が必須です。あくまで、本講義は検定試験全般の補助的な役割として活用してください。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
検定試験の各問の傾向を理解する	検定試験の問1から問5までの傾向を理解し、自分の得意分野・不得意分野を明確にする。	10%
仕訳問題に関して理解すること	設問に対する回答により評価します。 検定試験を解く上で、範囲内の仕訳が解けないことにはどうにもなりません。しっかりと理解しましょう。	30%
試算表に関して理解すること	設問に対する回答により評価します。 検定試験上で配点が高い項目となります。また、検定試験特有の問の出し方があるため、その特徴も理解しましょう。	30%
精算表に関して理解すること	設問に対する回答により評価します。 検定試験上で配点が高い項目となります。また、検定試験特有の問の出し方があるため、その特徴も理解しましょう。	30%
評価の方法	3分の2以上の出席を前提に、貢献点10%、期末試験90%で評価します。 ※期末試験に関しては授業中に詳しく説明します。 貢献点は、講師が開発した講義を受講し、講義のいずれかの段階で、講師から依頼されるアンケートにまじめに取り組むことで付与されます。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	問1対策講座	仕訳問題全般で、とくに注意が必要な仕訳に関して
2	問2対策講座	補助簿全般の解き方、T字勘定を使った解答法
3	問3対策講座	試算表全般の解き方
4	問4対策講座	伝票などの解き方
5	問5対策講座	精算表および財務諸表問題の解き方
6	問1問題演習	問1問題の演習徹底的にやります
7	問2問題演習	問2問題の演習徹底的にやります
8	問3問題演習	問3問題の演習徹底的にやります
9	問4問題演習	問4問題の演習徹底的にやります
10	問5問題演習	問5問題の演習徹底的にやります
11	過去問演習(1)	過去問は最低3年分年分はする必要があるので内1回を
12	過去問演習(2)	過去問は最低3年分はする必要があるので内1回を
13	予想問題演習	今回の6月試験に出そうな予想問題を演習
14	検定試験前講座	試験前に各受講者の苦手項目を個別に対応
15	検定試験後解説	今回の検定試験の解説

*授業時間等については、資料配布時にお知らせします。

【使用教材】

◇授業ごとにレジュメを配布し、レジュメを教材とします。また、問題演習用の教材は、開講時に指示をします。

◇本講義では電卓を使用するので、毎回ご持参ください。

【履修条件等】

◇「入門簿記Ⅰ」、「入門簿記Ⅱ」の講義、または日商簿記3級レベルの商業簿記の知識を事前に勉強していることを前提とします。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇会計の講義全般に言えることですが、復習に重点を置いてください。

【その他の注意事項】

◇電卓は、PCや携帯電話などの電子機器に内蔵されているもの以外の使用をお願いします。※とくに、試験時には遵守願います。また、日商簿記3級6月検定試験に合格された方に関しては、成績評価に反映させます。詳しくは、開講時にお知らせします。また、講義はオフィスアワー時間帯（16：30～）に行います。時間帯にご注意ください。

簿記技能Ⅱ（日商2級）	フクヤマ トモキ 福山 倫基
Bookkeeping Ⅱ	応用科目／集中／2単位

【授業概要】

本講義は、2017・2018年度日商簿記2級、11月・2月試験合格を目指す方のための講義です。そのため、「商業簿記Ⅰ」、「商業簿記Ⅱ」、「工業簿記Ⅰ」および「工業簿記Ⅱ」の履修が終わっている、もしくはご自身で日商簿記2級の自学を行っている方を対象とします。

本講義では、検定試験特有の問題の解き方、および素早く回答を行うためのテクニック、受講者の苦手とする設問に対する個別指導などを行いますが、次の点にご注意ください。それは、本講義を受けるだけで検定試験合格ができるわけではないという点です。試験に合格するためには、自分で問題演習をこなす自学の時間が必須です。あくまで、本講義は検定試験全般の補助的な役割として活用してください。

2016年度から日商簿記2級の出題範囲が変更され、例年より難化する可能性が考えられます。出題変異の変更点等含めしっかり学習していきましょう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
検定試験の各問の傾向を理解する	検定試験の間1から問5までの傾向を理解し、自分の得意分野・不得意分野を明確にする。	10%
仕訳問題に関して理解すること	設問に対する回答により評価します。 検定試験を解く上で、範囲内の仕訳が解けないことにはどうにもなりません。しっかりと理解しましょう。	30%
原価計算に関して理解すること	設問に対する回答により評価します。 日商簿記2級は原価計算が分かればほぼ合格は間違いないと言えます。しっかりと勉強しましょう。	30%
精算表等に関して理解すること	設問に対する回答により評価します。 とくに本支店会計は慣れが必要です。よく理解しましょう。	30%
評価の方法	3分の2以上の出席を前提に、貢献点10%、期末試験90%で評価します。 ※期末試験に関しては授業中に詳しく説明します。 貢献点は、講師が開発した講義を受講し、講義のいずれかの段階で講師から依頼されるアンケートにまじめに取り組むことで付与されます。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	問1対策講座	仕訳問題全般で、とくに注意が必要な仕訳に関して
2	問2対策講座	特殊仕訳帳や伝票会計に関する解法
3	問3対策講座	精算表・本支店会計に関する解法
4	問4対策講座	費目別・部門別計算を中心とした解法
5	問5対策講座	総合原価計算・標準原価計算の解法
6	問1問題演習	問1問題の演習徹底的にやります
7	問2問題演習	問2問題の演習徹底的にやります
8	問3問題演習	問3問題の演習徹底的にやります
9	問4問題演習	問4問題の演習徹底的にやります
10	問5問題演習	問5問題の演習徹底的にやります
11	過去問演習(1)	過去問は最低3年分はする必要があるので内1回を
12	過去問演習(2)	過去問は最低3年分はする必要があるので内1回を
13	予想問題演習	今回の11月試験に出そうな予想問題を演習
14	検定試験前講座	試験前に各受講者の苦手項目を個別に対応
15	検定試験後解説	今回の検定試験の解説

*授業時間等については、資料配布時にお知らせします。

【使用教材】

◇授業ごとにレジメを配布し、レジメを教材とします。また、問題演習用の教材は、開講時に指示をします。

◇本講義では電卓を使用するので、毎回ご持参ください。

【履修条件等】

◇「商業簿記Ⅰ」、「商業簿記Ⅱ」、「工業簿記Ⅰ」、「工業簿記Ⅱ」の講義、または日商簿記2級レベルの商業簿記の知識を事前に勉強していることを前提とします。全く知識のないままの受講は控えてください。

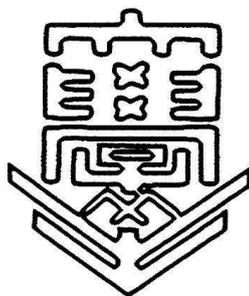
【予習をすべき事前学習の内容】

◇会計の講義全般に言えることですが、復習に重点を置いてください。

【その他の注意事項】

◇電卓は、PCや携帯電話などの電子機器に内蔵されているもの以外の使用をお願いします。※とくに、試験時には遵守願います。また、日商簿記2級11月・2月検定試験に合格された方に関しては、成績評価に反映させます。詳しくは、開講時にお知らせします。

また、講義はオフィスアワー時間帯（16：30～）に行います。時間帯にご注意ください。



東京富士大学

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-8-1

アドミッションセンター TEL 03-3368-0351

キャリア・学生支援センター

キャリア支援担当 TEL 03-3362-8479

学生支援担当 TEL 03-3362-2252

留学生担当 TEL 03-3368-1761

学 務 セ ン タ ー

学務センター TEL 03-3368-2154

図書館 TEL 03-3368-8826